# ネットワークカメラ
# フルマニュアル

ブラウザ操作マニュアル

| | |
|---|---|
| バージョン | **V 1.1** |
| 日付 | **2024-01-18** |

# 本文書について

## 用途

この文書では、ネットワークアクセス、ネットワーク構成、トラブルシューティングなど、Web管理システムの使用方法について説明します。

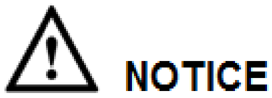
## 読者の皆様へ

このマニュアルは、以下の方々を対象としています：

- テクニカルサポートエンジニア
- システムマネージャー
- システムオペレーター

## シンボル規約

マニュアルには次のような記号が使用されることがありますが、その意味は次のとおりです。

| シンボル | 説明 |
|---|---|
| | 回避しなければ、死亡または重大な人身事故を引き 起こす危険性の高い警告です。 |
| | 回避しなければ、中程度または軽度の怪我につながる可能性のある、中程度または低リスクの危険を警告します。 |
| | 回避しなければ、機器の損傷、データの損失、性能の低下、または予期せぬ結果につながる潜在的な危険状況を警告します。 |
|  | 回避しない場合、機器の損傷、データの損失、パフォーマンスの低下、または予期せぬ結果を引き起こす可能性がある潜在的に危険な状況を示します。<br>「NOTICE」は、人身傷害に関係のない行為に対処するために使用されます。 |
| | 重要な情報、最適な機器の仕様方法、ヒントなどを記載します。<br>「NOTE」は、人身傷害、機器の損傷、環境悪化に関係のない情報を扱うために使用されます。 |

## バージョンアップデート

| バージョン | 更新日 | 詳細 |
|---|---|---|
| V1.0 | 02/2023 | ローカルサーバーをサポートしていましたが、ライブ映像を再生するためのプラグインがありませんでした。 |

| バージョン | 更新日 | 詳細 |
|---|---|---|
| V1.1 | 02/2024 | ホーム設定の追加<br>マルチカメラ設定の追加<br>フィッシュアイ設定を追加<br>ヒートマップ設定を追加<br>説明を更新 |

# 目次

**本文書について** ........ **i**

**目次** ........ **iii**

**1 クイックスタート** ........ **1**

1.1ログインとログアウト ........ 1

1. 2パスワードの変更 ........ 2

1.3リアルタイム映像の閲覧 ........ 3

1.4ホームページのレイアウト ........ 7

1.5再生 ........ 9

1.6人数カウント(一部機種のみ対応) ........ 11

**2 PTZのパラメータ** ........ **13**

2.1PTZ の制御と設定 (一部機種のみ対応) ........ 13

2.2プリセット位置の設定と呼び出し ........ 15

2.3トラックの設定と呼び出し ........ 16

2.4スキャンの設定と呼び出し ........ 17

2.5ツアーの設定と呼び出し ........ 18

2.6ホームの設定 ........ 19

2.7アイドルの設定 ........ 20

2.8タイマーの設定 ........ 21

2.9拡張機能の設定 ........ 21

**3 デバイス情報とストリーム** ........ **23**

3. 1デバイス情報 ........ 23

3. 2映像と音声のエンコード ........ 27

3.3ROIパラメータ ........ 31

3.4スナップショット ........ 33

**4 画像設定** ........ **34**

4.1画像設定インターフェースへのアクセス ........ 34

4.2 モード ........ 34

4.3画像設定 ........ 35

4.4シーン設定 ........ 37

4.5露出 ........ 38

4.6WB設定 ........ 42

4.7デイ/ナイト ........ 44

4.8ノイズ削減 ........ 48

4.9画像補正 ........ 49

4.10ズームフォーカス (一部機種のみ対応) ........ 51

**5 デバイス** ........ **56**

5.1ローカルネットワーク ........ 56

5. 2デバイスポート ........ 59
5. 3日付時刻 ........ 60
5.4カメラ ........ 63
5.5 OSD ........ 64
5.6音声入力(一部機種のみ対応) ........ 68
5.7 音声出力(一部機種のみ対応) ........ 69
5.8ドームPTZ (一部機種のみ対応) ........ 70
5. 9CVBS機能 (一部機種のみ対応) ........ 71
5.10システムサービス ........ 72
5.11フィッシュアイ(一部機種のみ対応) ........ 73
5.12音声ノイズ削減(一部機種のみ対応) ........ 74
5.13ソフトウェアライセンス ........ 74
5.14 マルチチャンネル (一部機種のみ対応) ........ 75

**6 外部デバイスの構成 ........ 76**

**7 高度AI分析 ........ 78**

7.1火災検知 (一部機種のみ対応) ........ 78

**8 AI分析の設定 ........ 82**

8.1侵入検知 ........ 82
8.2ラインクロス検知 ........ 86
8.3二重ラインクロス ........ 89
8. 4滞留検知 ........ 91
8.5逆走検知 ........ 93
8.6駐車検知 (一部機種のみ対応) ........ 95
8.7人数カウント (一部機種のみ対応) ........ 97
8.8スマートモーション ........ 102
8.9詳細設定 ........ 104
8.10ヒートマップ設定(一部機種のみ対応) ........ 104
8.11ヒートマップ (一部機種のみ対応) ........ 106
8.12ヒートマップエクスポート (一部機種のみ対応) ........ 107

**9 オートトラッキングの設定 ........ 109**

**10 アラーム機能の設定 ........ 111**

10.1アラーム出力(一部機種のみ対応) ........ 111
10.2ディスクアラーム ........ 112
10.3ネットワークアラーム ........ 113
10.4デイナイト切替アラーム ........ 114
10.5I/Oアラーム連携 (一部機種のみ対応) ........ 115
10.6動体検知アラーム連携 ........ 119
10.7プッシュメッセージ ........ 121
10.8音声アラーム出力 (一部機種のみ対応) ........ 122
10.9異常音声検出 (一部機種のみ対応) ........ 124

10.10フラッシュライトアラーム出力 (一部機種のみ対応) 126
10.11白色LEDアラーム(一部機種のみ対応) 126
10.12赤青ライトアラーム出力 (一部機種のみ対応) 127

**11 AIマルチオオブジェクト 129**

11.1AI設定 129

**12 録画機能の設定 132**

12.1録画スケジュール 132
12.2録画ディレクトリ 134

**13 プライバシーマスクの設定 140**

**14ネットワークサービスの設定 143**

14.1 802.1x 143
14.2 DDNS 144
14.3 PPPoE 145
14.4Portマッピング 147
14.5 SMTP 149
14.6 FTP 151
14.7IPフィルタ 153
14.8CGIアラームサービスセンター 155
14.9 SNMP 158
14.10 QOS 161
14.11プラットフォームアクセス 162

**15 アカウント管理 164**

15.1ユーザー設定 164

**16プロトコルパラメータの設定 168**

16.1プロトコル情報 168
16.2セキュリティ認証 169
16.3Onvif設定 170
16.4マルチキャストパラメータ 171

**17 デバイスログの検索 174**

17.1操作ログの検索 174
17.2アラームログの検索 175
17.3すべてのログの収集 177

**18 デバイスメンテナンス 178**

18.1デバイスの再起動 178
18.2自動再起動 179
18.3ソフトウェアパッケージのアップグレード 179
18.4工場初期設定 180
18.5エクスポート/インポートの設定 180

**19 ローカル設定 ...... 182**

**トラブルシューティング ...... 183**

**頭字語および略語 ...... 185**

# 1 クイックスタート

## 1.1 ログインとログアウト

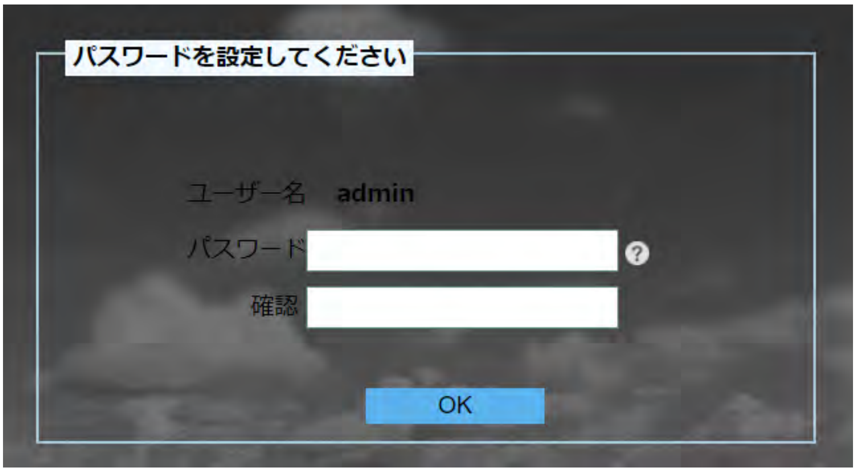
**CAUTION**

MicrosoftEdge、Chrome、またはFirefoxブラウザーを介してWebインターフェースにアクセスします。そうしないと、一部の機能が使用できなくなる可能性があります。

### ログイン

Step 1 Chromeブラウザを開き、IPカメラのIPアドレス(デフォルト値:192.168.1.110)をアドレスボックスに入力し、[Enter]ボタンをクリックします。 図1-1に示すように、パスワード設定ページが表示されます。

図1-1 ログインページ




Step 2 パスワードと確認用パスワードを入力します。

**NOTE**

- システムのセキュリティを確保するために、初めてシステムにログインするときにパスワードを変更してください。
- パスワードを変更した後、カメラにログインすることができます。
- ログインページでシステムの表示言語を変更できます。

Step 3

をクリックしてインターフェースに入ります。

ホームページが表示されます。

**----終了**

### ログアウト

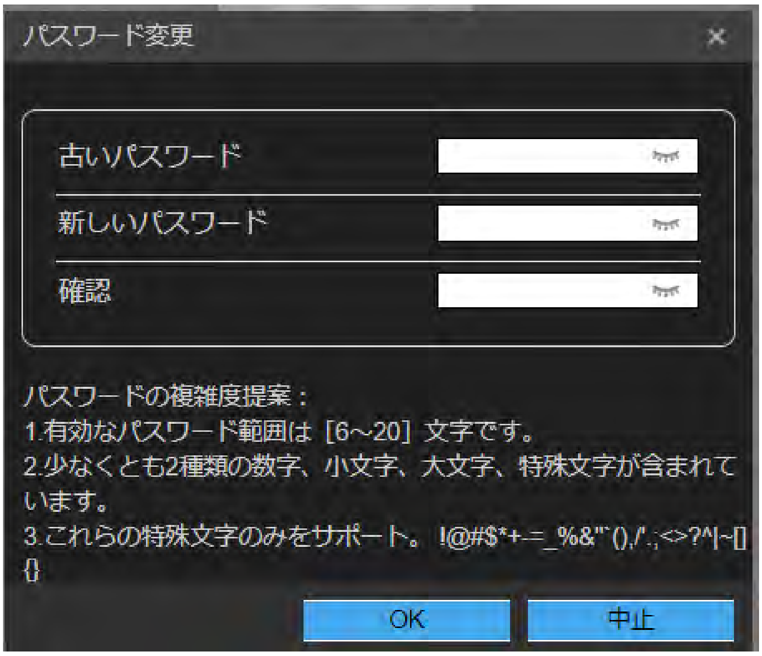
右上の をクリックしてログインページに戻ります。

## 1.2 パスワードの変更

### 詳細

図1-2に示すように、 をクリックしてシステムにログインするためのパスワードを変更します。

図1-2 パスワード変更ダイアログボックス



### 手順

Step 1 古いパスワード、新しいパスワード、確認用のパスワードを入力します。

Step 2 OKをクリックします。

「パスワードの変更が成功しました!」というメッセージが表示されたら、パスワードの変更が正常に完了します。パスワードの変更に失敗した場合は、パスワードを変更するためのヒントがいくつか表示されます。(たとえば、新しいパスワードの長さを8文字未満にすることはできません、などのメッセージが表示されます)。

パスワードを変更した後、3分後にデバイスを再起動することを推奨いたします。

Step 3 OKをクリックします。

ログインページが表示されます。

## 1.3 リアルタイム映像の閲覧

### IPCローカルサーバーのダウンロード

H.265でエンコードされた映像を再生する場合は、Web管理システムに初めてログインするときに、図1-4に示すように、最新のIPCローカルサーバーをダウンロードする必要があります。

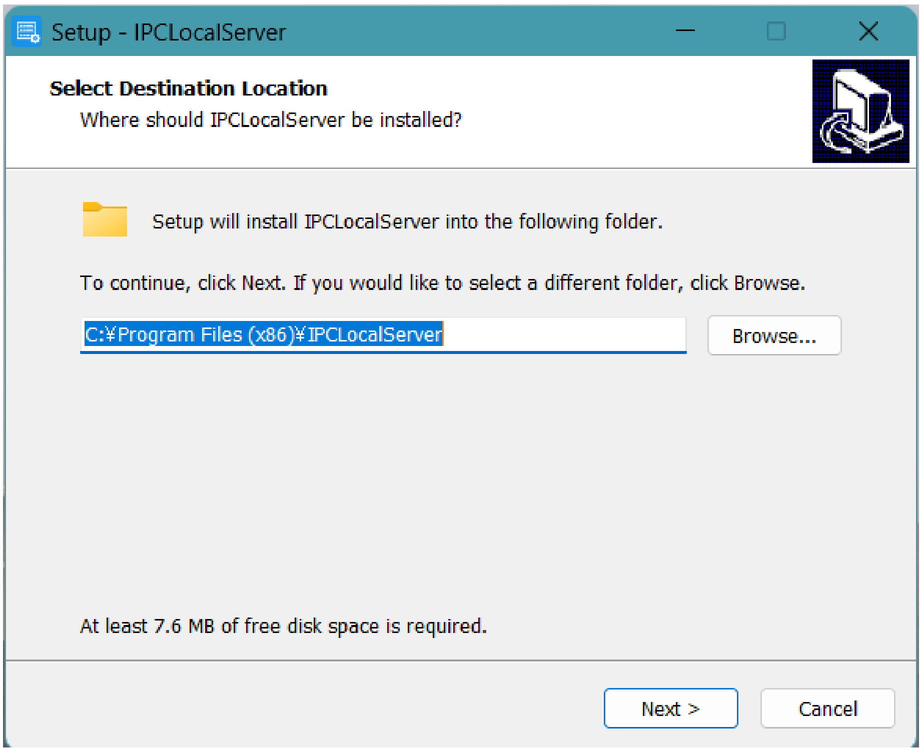
図1-3 プラグインページのダウンロード

Step 1 「最新のプラグインをダウンロードしてください」をクリックし、IPCローカルサーバープラグインをダウンロードします。

Step 2 ダウンロードファイルを開いてインストールを完了します。

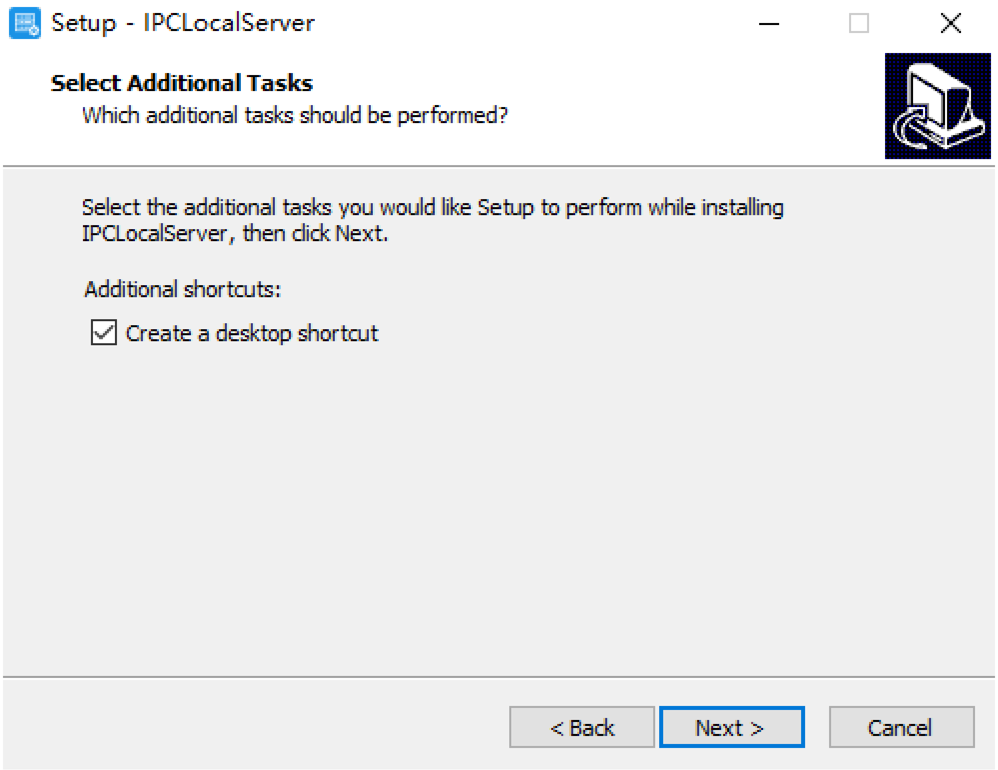
Step 3 「実行」をクリックし、図1-5に示すようにインストール先のフォルダを選択します。

図1-4 インストール先のフォルダの選択



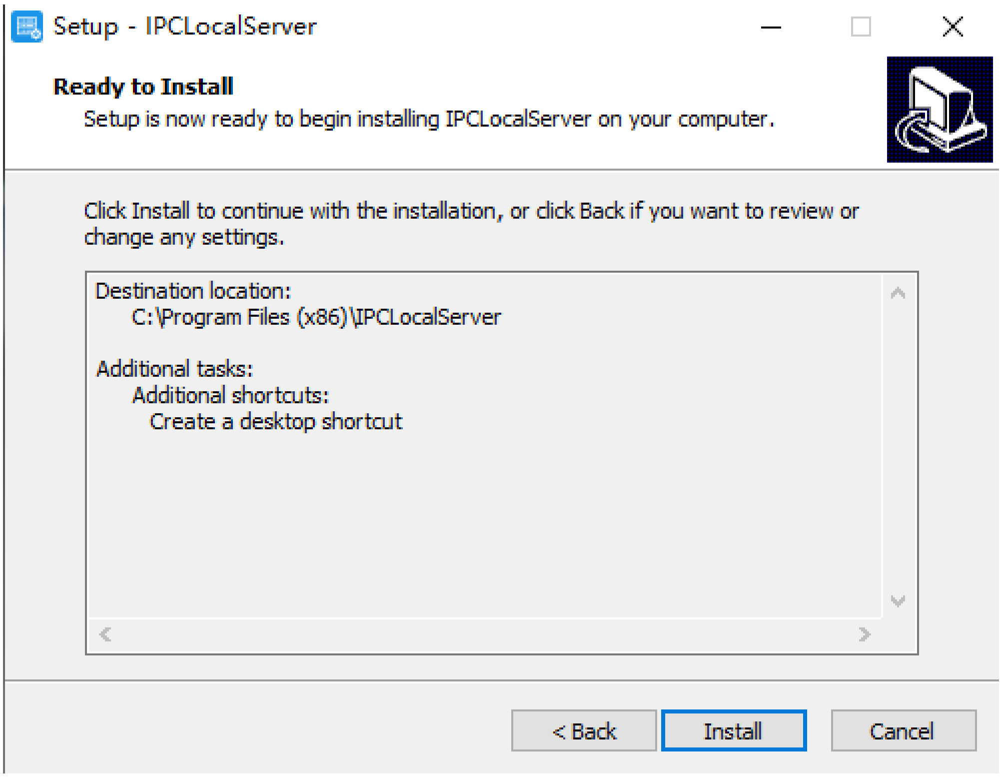

Step 4 図1-5に示すように、「次へ」をクリックすると、プラグインをインストールする準備が整います。

図1-5 追加タスクの選択



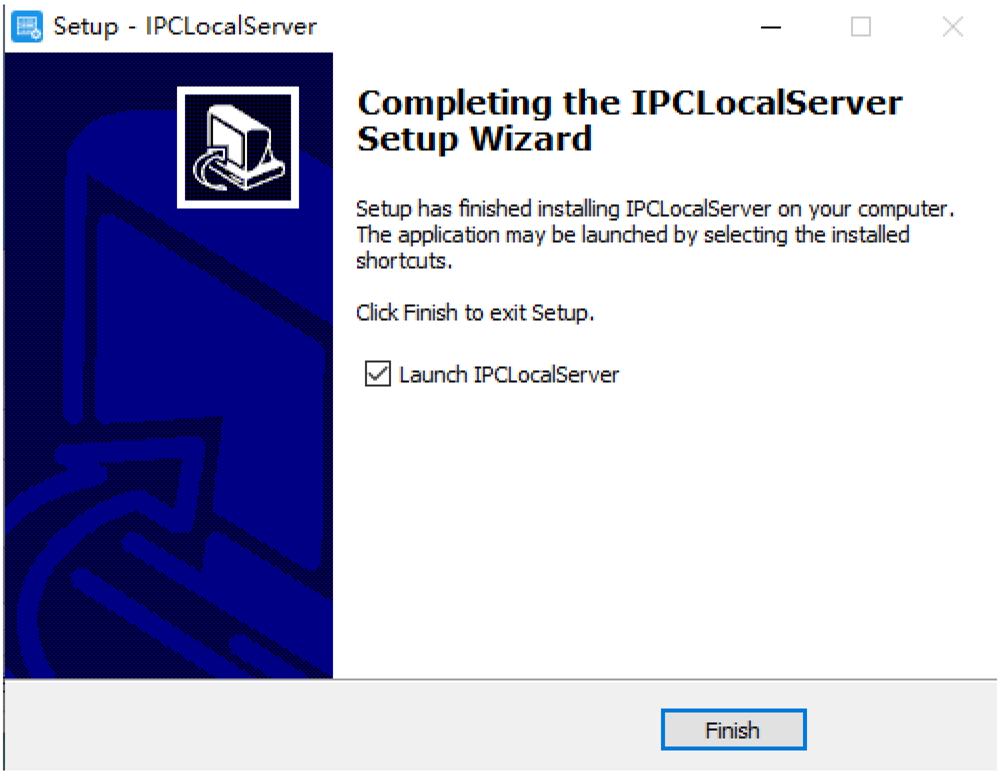

Step 5 図1-6に示すように、「デスクトップショートカットの作成」にチェックを入れ、「次へ」をクリックしてプラグインをインストールします。

図1-6 インストール




Step 6 図1-7に示すように、「完了」をクリックしてプラグインのインストールを完了します。

図1-7 プラグインのインストール完了




Step 7 インストール後、ブラウザを再度開きます。

**NOTE**

- コントロールのインストール時に修復ヒントが表示された場合は、プロンプトを無視してインストールを続行してください。
- プラグインのインストール中はブラウザを閉じる必要があります。

----終了

# 詳細

リアルタイム映像を参照するには、[ライブ映像]をクリックします。図1-8に示すように、[ライブ映像]ページが表示されます。

図1-8 ライブ映像ページ

[ライブ映像]ページでは、次の操作を行うことができます。

映像の再生を停止するには、をクリックします。

をクリックして映像を再生します。

映像領域をダブルクリックすると全画面モードになります。もう一度ダブルクリックして全画面モードを終了します。

PTZを設定します。詳細については、「PTZ の構成」をご参照ください。

PTZを制御します。詳細については、「PTZ の制御」をご参照ください。

3つのモードを切り替えます。ストリームの設定方法の詳細については、「3.2映像および音声ストリーム」をご参照ください。

をクリックしてスナップショットを作成し、写真を保存します。

をクリックしてローカル録画を有効にします。

**NOTE**

一部機種にはAIインターフェースを搭載。

# 1.4 ホームページのレイアウト

ホームページでは、リアルタイム映像の表示、アラームや障害通知の受信、パラメータの設定、パスワードの変更、システムからのログアウトを行うことができます。図1-9は、ホームページのレイアウトを示しています。表1-1では、ホームページの各項目について説明します。

図1-9 ホームページのレイアウト

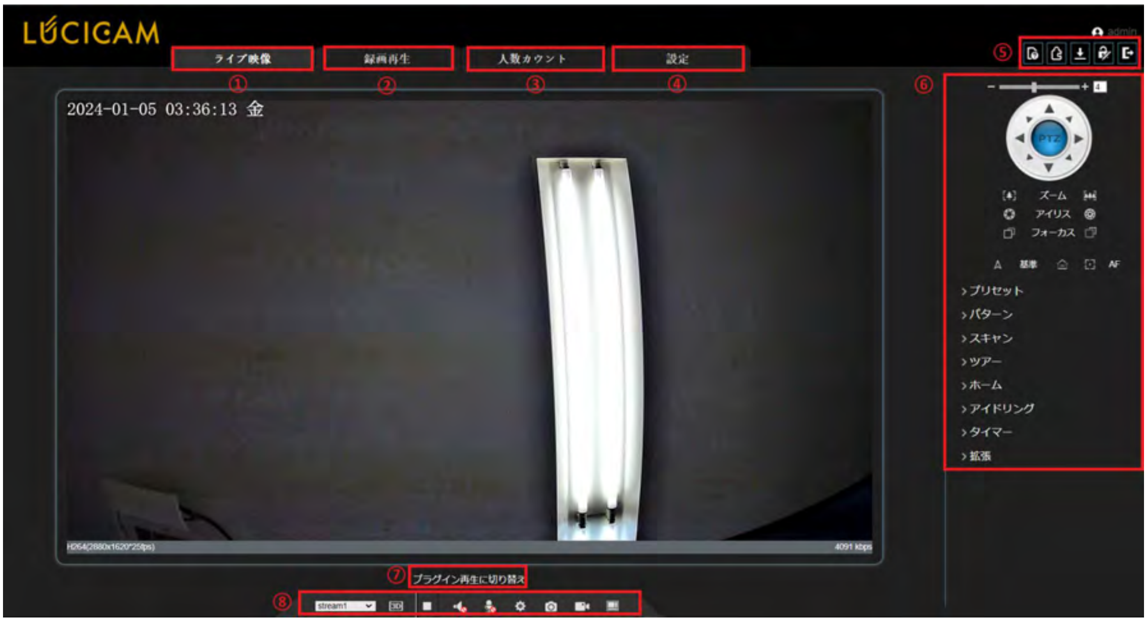
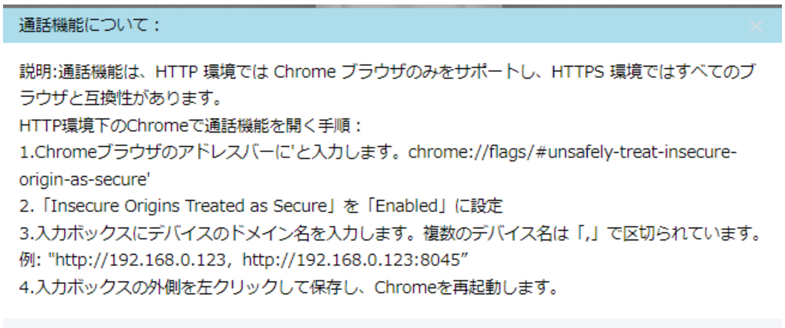



表1-1 ホームページ上の各項目

| No. | 項目 | 説明 |
|---|---|---|
| 1 | ライブ映像 | このページではリアルタイム映像が再生されます。 |
| 2 | 再生 | 録画映像を検索・再生できます。<br>NOTE<br>SDカードまたはNASに映像がある場合のみ、録画映像を検索・再生ができます。 |
| 3 | 人数カウント | 検索条件を設定して従業員数を検索します。統計は折れ線グラフ、ヒストグラム、リストなどのさまざまなタイプで表示できます。詳細については、第1.6章をご参照ください。一部の機種のみ対応しています。 |
| 4 | 設定 | メニューを選択して、デバイス情報、音声および映像ストリーム、アラーム設定、プライバシーマスク機能などのデバイスパラメータを設定できます。 |

| No. | 項目 | 詳細 |
| --- | --- | --- |
| 5 | | デバイスがアラーム信号を受け入れると、Web管理システムにアラームアイコンが10秒以内に表示されます。アラームアイコン が表示されます。 をクリックするとアラーム情報が表示されます。 |
| | | 双方向通話機能のヘルプ<br><br> |
| | | 最新のプラグインIPCローカルサーバーをダウンロードします。 |
| | | をクリックしてパスワードを変更できます。 |
| | | ログアウトし、 をクリックしてログイン ページに戻ることができます。 |
| 6 | PTZ | PTZカメラにのみ適用され、PTZパラメータを設定します。ズームイン/ズームアウト、アイリス+/アイリス-、フォーカスイン/フォーカスアウト、プリセット/トラック/スキャン/ツアー/アイドル/タイマー/拡張機能などを設定できます。 |
| 7 | プラグインプレイの切替 | ライブ映像を再生するには、プラグイン再生とプラグインなし再生の2つの方法があります。プラグイン再生でない場合、デフォルトのストリームはストリーム1です。 |
| 8 | ストリーム | ドロップリストからストリームモードを選択します。「設定>ストリーム>メインストリーム」でパラメータを設定します。 |
| | 3D | 3D位置決め機能は、特定のシナリオでPTZをすばやく回転し、焦点距離を変更します。長方形の枠を描いてフォーカスを変更することもできます。一部の機種のみ対応。 |
| | | 一時停止/開始。ライブ映像を閉じるか、ライブ映像を再生します。 |
| | | 音声。音声の視聴を有効または無効に切り替えることができます。 |
| | | 双方向音声。双方向通話をするには、事前にコンピューターにマイクを接続する必要があります。 |
| | スナップショット | アイコンをクリックしてビデオのスナップショットを撮影し、指定したフォルダに画像を保存します。 |
| | ローカル録画 | 映像を録画し、ファイルを指定したフォルダに保存します。 |
| | AI インターフェース | アイコンをクリックするとAIライブ映像モードに切り替わり、顔、ナンバープレート、車、人体、乗り物などのAIマルチオブジェクトのスナップショットを表示できます。 |

| No. | 項目 | 説明 |
|---|---|---|
| | モード | フィッシュアイカメラにのみ使用されます。アイコンをクリックして映像を再生するモードを選択します。 |

図1-10 AI マルチオブジェクトインターフェース

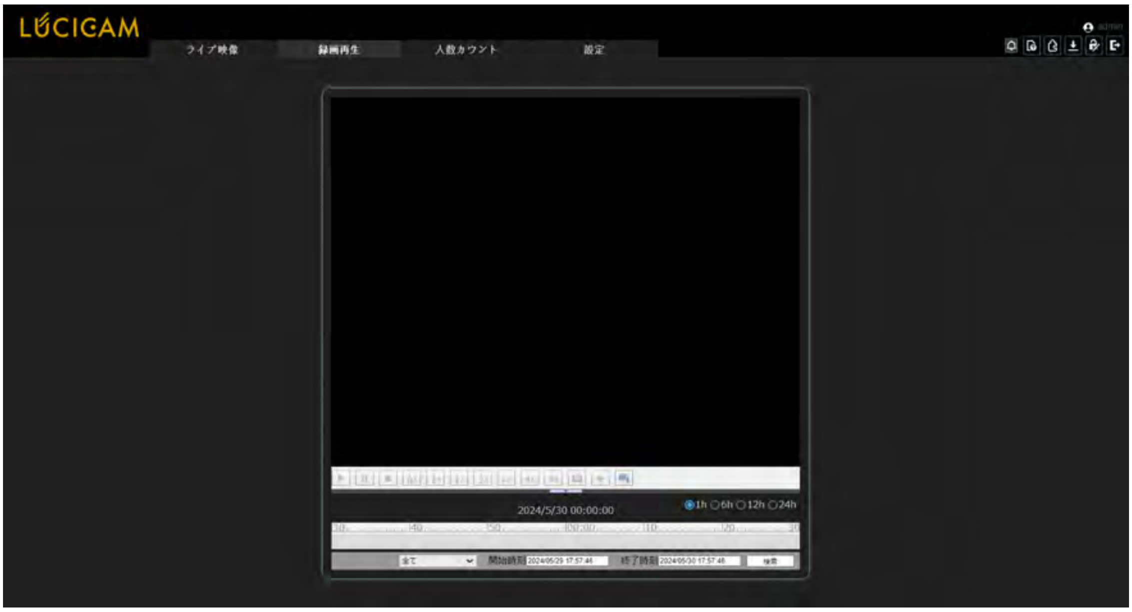
人間の顔のスナップショットが表示されます。

ナンバープレートのスナップショットが表示されます。

# 1.5 再生

Webインターフェースで[再生]をクリックします。ユーザーがSDカードを挿入し、SDカードに録画データがある場合は、[再生]をクリックすると、図1-11のように録画映像が表示されます。

図1-11 再生ページ




：再生、「スピーカー」をクリックしてサウンドのオンまたはオフを切り替えます。

：一時停止

：停止

：フレームバック / フレーム再生

：早送り、早送りの速度は変更が可能です。

：スナップショット、アイコンをクリックしてスナップショットを撮影します。

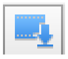
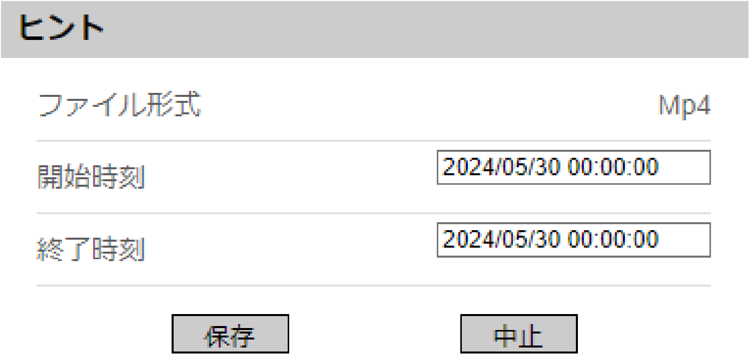
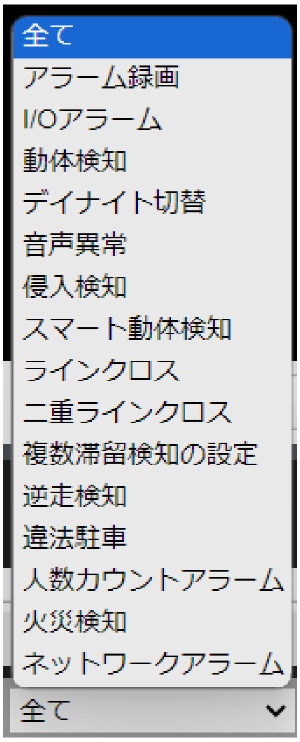
：バックアップ、アイコンをクリックしてバックアップを開始し、バーをドラッグして録画をダウンロードします。図1-12に示すヒントのポップアップウィンドウで、[保存]をクリックして映像を保存します。中止するには「キャンセル」をクリックします。

図1-12 バックアップのヒント






アラームの種類を選択し、開始時刻と終了時刻を設定して、アラームによる録画を検索します。

## 1.6 人数カウント(一部機種のみ対応)

人数カウントインターフェースでは、検索条件を設定して人数カウントのデータを表示できます（日付のポップアップウィンドウで詳細時間を選択します）。

図1-13に示すように、データを表示するには、折れ線グラフ、ヒストグラム、リストなどの3つの表示モードがあります。

図1-13 人数カウントのページ

「ダウンロード」をクリックして検索結果をダウンロードします。

折れ線グラフ、ヒストグラム、リストなどの結果の表示モードを選択します。

「検索」をクリックして人数カウントのデータを検索します。

結果のデータはローカルフォルダーに保存できます。

**----終了**

# 2 PTZのパラメータ

## 2.1 PTZ の制御と設定 (一部機種のみ対応)

### 詳細

PTZ機能は、高速ネットワークドーム、PTZカメラ、および外部PTZに接続されたデバイスでのみ利用できます。フォーカスとズームのアクションは電動カメラに使用できます。実際の機能については実際の製品をご参照ください。

### PTZの制御

ドームカメラまたは外部PTZに接続されたカメラでリアルタイム映像を閲覧する場合、PTZを制御してさまざまな方向から映像を表示させることができます。

図2-1に示すように、ライブ映像ページの下にある PTZ をクリックしてPTZコントロールページを開きます。8つの矢印キーをクリックしてPTZを8方向に移動できます。レンズをズームして焦点距離を調整することもできます。

図2-1 PTZ制御パネル

PTZ制御パネルでは、次の操作を行えます。

スライダーを左右にスライドさせると、PTZ回転速度を調整できます。

の矢印をクリックしてPTZを8方向に移動します。

または をクリックして焦点距離を調整します。

または をクリックして焦点距離を調整します。

または をクリックしてフォーカスを調整します。

をクリックして北方向を設定します。PTZ回転の基準点として北として任意の方向を定義できます。

をクリックしてホームポジションに戻ります。

をクリックするとオートフォーカスが行われます。

## PTZの設定

PTZカメラで利用できます。PTZの設定インターフェースは図2-2に示されます。

図2-2 PTZ設定パネル

PTZ設定パネルでは、次の操作を行えます。

- プリセット位置を追加、削除、呼び出します。
- トラックを追加、削除、呼び出します。
- スキャンを追加、削除、呼び出します。
- ツアーを追加、削除、呼び出します。
- ホームを設定します。
- アイドルを設定します。
- タイマーを設定します。
- 拡張子を設定します。
- ライトのオン/オフやブラシ機能を設定します。

  ブラシはレンズの掃除に使用します。ライトのオン/オフは、赤外線カメラシールドのオンとオフを制御するために使用されます。

NOTE

- ブラシまたはカメラシールドを備えたカメラでのみ使用できます。
- ライトのオン/オフは、特定のカメラでのみ使用できます。

### 3Dポジショニング

ライブビデオページの下にあるAをクリックして、3Dポジショニング機能を設定します。

3Dポジショニング機能は、特定の条件でPTZをすばやく回転し、焦点距離を変更します。長方形の枠を描いてフォーカスを変更することもできます。

NOTE

3DポジショニングのデフォルトtranslationはONです。

## 2.2 プリセット位置の設定と呼び出し

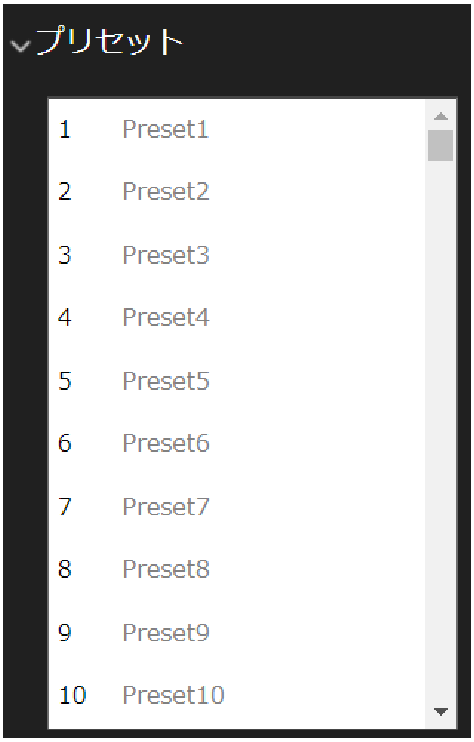
プリセット位置を構成し、プリセット位置を呼び出すことでカメラをプリセット位置まですばやく回転させることができます。

手順は次のとおりです。

Step 1 プリセット位置を設定します。

1. プリセットIDを選択します。

図2-3 プリセットの追加




2. PTZの方向を調整してプリセット位置の設定は完了です。

3. をクリックして保存し、クリックして名前を変更します。

4. 現在のプリセットを削除するには、をクリックします。

Step 2 プリセット位置を呼び出します。

プリセットリストからプリセット位置を選択して、プリセット位置を呼び出します。
アイコンをクリックして呼び出します。

**NOTE**

特別なプリセット:セットNo.64プリセット、PTZ機能は工場出荷時の設定に戻ります。
No.92プリセットを呼び出し、スキャンの開始点を設定します。
No.93プリセットを呼び出し、スキャンの終了点を設定します。
No.97プリセットを呼び出すと、SCAN1が呼び出されます。
No.97プリセットを設定し、MCUとチップのバージョンを表示します。
No.99プリセットを呼び出し、360°回転してスキャンします。
No.250プリセットを呼び出し、MCU温度を有効にします。
No.251プリセットを呼び出し、MCU温度を無効にします。
No.252プリセットを設定すると、PTZパラメータが工場出荷時の設定に戻ります。
103プリセットを呼び出し、ブラシは1回だけ機能します。この機能はブラシ付きPTZカメラのみに適用されます。

----終了

## 2.3 パターンの設定と呼び出し

パターンを記録して、プリセットパターンに基づいてカメラを繰り返し回転させることができます。

Step 1 パターンを設定します。

1. パターンIDとトラック名を設定します。
2. ▶リックしてパターンの開始位置を設定します。
3. PTZ制御パネルで矢印キーを使用して、必要なパターンを設定します。
4. ■リックしてパターンの設定を終了します。

図2-4 パターン設定

Step 2 トラックを呼び出します。

トラックリストからトラック名を選択し、 をクリックしてトラックを呼び出します。

現在のトラックを削除するには、 をクリックします。

**NOTE**

最大6つのトラックを設定できます。

**----終了**

# 2.4 スキャンの設定と呼び出し

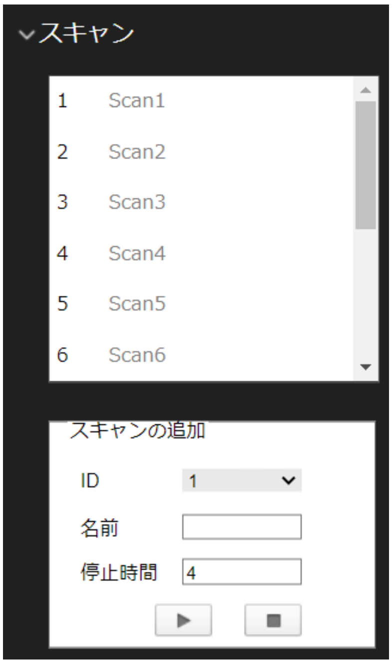
開始点と終了点を設定して、カメラが開始点から終了点まで繰り返し回転できるようにすることができます。

Step 1 スキャンを設定します。

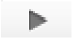
1. 「スキャン」をクリックします。

図 2-5 に示すように、「スキャンの追加」ページが表示されます。

図2-5 スキャンの設定




2. スキャンIDとスキャン名を設定します。

3.  をクリックします。

4. PTZ制御パネルで矢印キーを使用して、開始点と終了点を設定します。

5. をクリックしてスキャン設定を終了します。

Step 2 スキャンを呼び出します。

[スキャン]リストボックスからスキャンIDを選択し、 をクリックしてスキャンを呼び出します。

現在のスキャンを削除するには、 をクリックします。

**NOTE**

最大12個のスキャンを設定できます。

----終了

# 2.5 ツアーの設定と呼び出し

ツアーを設定することで、カメラをツアーに基づいて繰り返し回転させることができます。各ツアーにはプリセットがあり、待ち時間を設定する必要があります。

Step 1 ツアーを設定します。

1. 「ツアー」をクリックします。

図 2-6 に示すように、[ツアーの追加] ページが表示されます。

図2-6 ツアーの設定

2. ツアーIDとツアー名を設定します。

3. プリセットを選択して待ち時間を設定し、 をクリックします。

4. プリセットの選択と待機時間を設定し、 をクリックします。

5. さらにプリセットを追加するには、step3とstep4を繰り返します。

6. をクリックしてツアー設定を終了します。

Step 2 ツアーを呼び出します。

ツアーリストボックスからツアー値を選択し、 をクリックしてツアーを呼び出します。

現在のツアーを削除するには、 をクリックします。

**NOTE**
最大12個のツアーを設定できます。

----終了

# 2.6 ホームの設定

任意の1つの点をホームとして設定できます。デフォルトのホームは0.00/90.0/1X座標です。 をクリックするとホームポジションに直接戻ります。

Step 1 「ホーム」をクリックします。

図2-7に示すように、ホームページが表示されます。

図2-7 ホーム設定

Step 2 PTZキーボードを調整してレンズを操作します。

Step 3 をクリックしてホームに設定します。をクリックしてデフォルトのホームを復元します。

Step 4 をクリックしてホームを呼び出します。

----終了

## 2.7 アイドリングの設定

アイドリングを有効にすると、待機時間(1分～240分)の後にカメラが自動的にプリセット、パターン、スキャン、ツアーを実行できるようになります。

Step 1 「アイドリング」をクリックします。

図2-8に示すように、[アイドリングの追加]ページが表示されます。

図2-8 アイドリングの設定

Step 2 アイドリングボタンを有効にします。

Step 3 リストからアイドリングの種類と名前を設定します。

Step 4 待機時間を設定します(1分～240分)。

Step 5 ✔ をクリックしてアイドリングの設定を終了します。

----終了

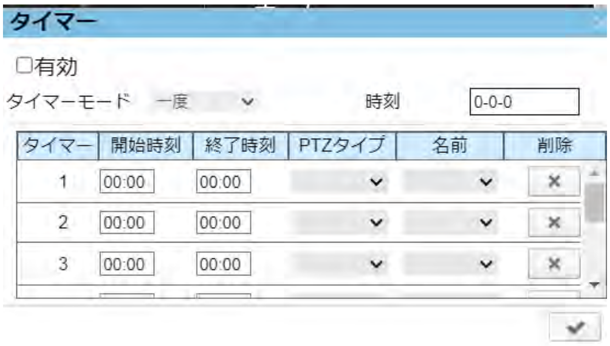
## 2.8 タイマーの設定

PTZタイマーを設定すると、カメラが設定時間内にプリセット、トラック、スキャン、ツアーを自動的に呼び出すことができ、終了時間後にカメラは動作と位置に戻ります。

Step 1 「タイマー」をクリックします。

「PTZタイマーの設定」ページが表示され、⚙ をクリックすると、図2-9に示すように「タイマー」ページが表示されます。

図2-9 タイマーの設定




Step 2 タイマーを有効にします。

Step 3 タイマーモードを設定します。タイマーモードには毎日と1回だけがあります。ワンスモードを選択した場合は時刻を設定してください。

Step 4 [1 回] を選択し、[時間] をクリックしてポップアップ カレンダーから日を選択します。

Step 5 タイマーを設定します。

ドロップダウンリストボックスから開始時間、終了時間、PTZタイプ、および名前を選択します。

NOTE

最大8つのタイマーを設定できます。

設定を削除するには、「削除」をクリックします。

Step 6 ✔ をクリックしてタイマー設定を終了します。

----終了

## 2.9 拡張機能の設定

拡張ページではライトのオン/オフ、ブラシ機能、再起動アクションを設定できます。一部の特殊なカメラには加熱と曇り止めが適用されます。

「拡張機能」をクリックすると、図2-10に示すように「拡張機能」ページが表示されます。

図2-10 拡張機能

ライト機能

をクリックしてライトを有効にします。
ライトオン/オフは、赤外線カメラシールドのオンとオフを制御するために使用されます。

ブラシ機能

をクリックしてブラシを有効にします。

ブラシはレンズの掃除に使用します。

**NOTE**

ブラシは、ブラシまたはカメラシールドを備えたカメラでのみ使用できます。

ライトのオン/オフは特定のカメラシールドでのみ使用できます。

再起動アクション

カメラが再起動し、再起動アクションが有効になっている場合、カメラは選択したPTZ
タイプと名前を実行します。

- 再起動アクション ボタンをクリックして再起動アクションを有効にします。
- ドロップダウンリストボックスからPTZタイプと名前を設定します。
- をクリックして再起動設定を終了します。

**----終了**

# 3 デバイス情報とストリーム

## 3.1 デバイス情報

### 詳細

デバイス情報には次のものが含まれます。

- デバイスID、名前、タイプ、モデル、メーカー名、およびMACアドレス。
- ハードウェアとソフトウェアのバージョン。
- ビデオチャネルの数、アラーム入力チャネルの数、アラーム出力チャネルの数、シリアルポート、ネットワークカードの数。

NOTE

- デバイス名を変更できます。他のすべてのパラメータは表示のみ可能です。
- デバイスをアップグレードすると、デバイス情報が自動的に更新されます。

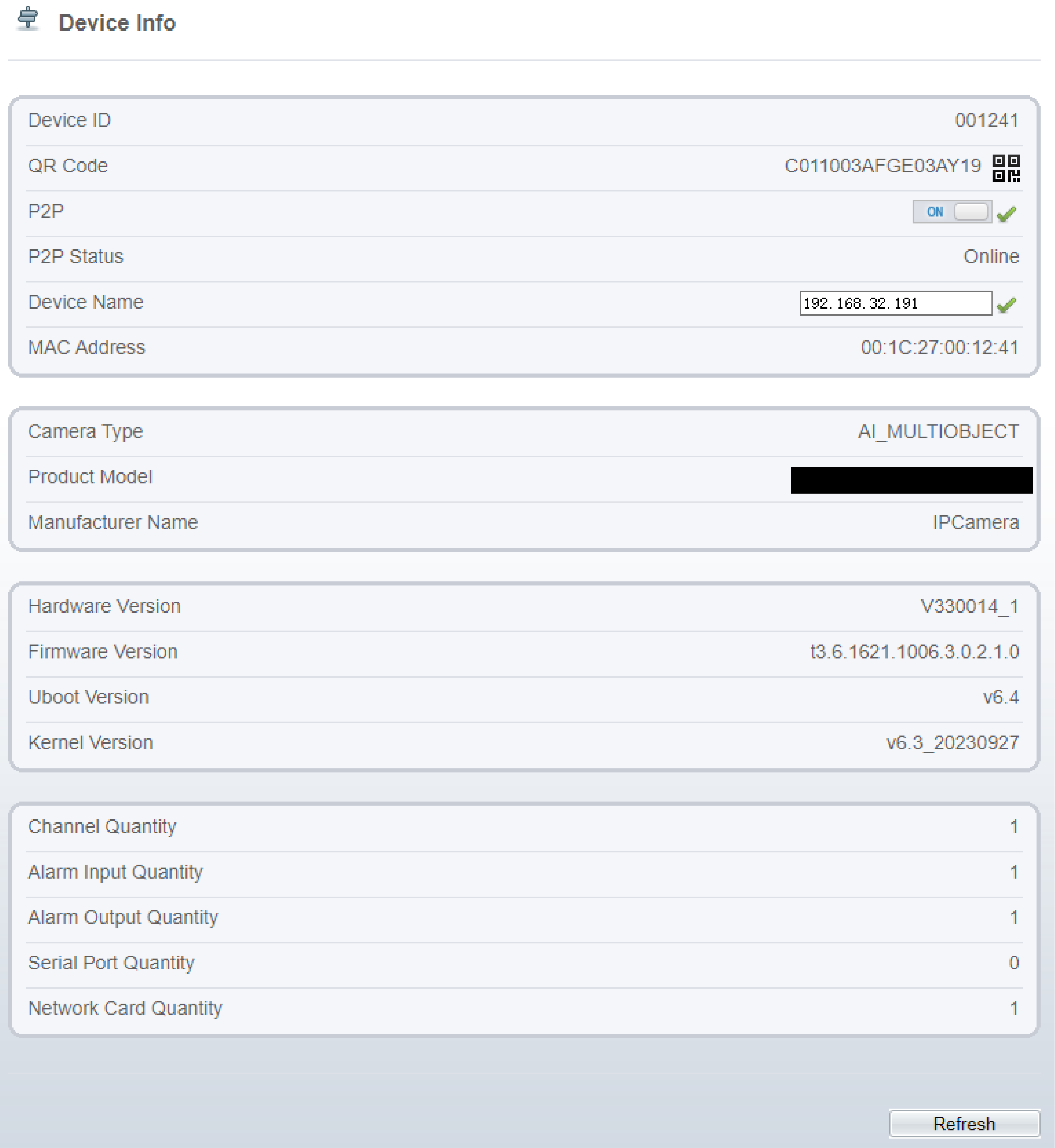
### 手順

Step 1 [設定] > [デバイス情報] をクリックします。

図3-1に示すように、[デバイス情報]ページが表示されます。

図3-1 デバイス情報ページ

図3-2 デバイス情報ページ2




Step 2 デバイス情報を表示し、表3-1に従ってデバイス名を設定します。

表3-1 デバイスパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| デバイスID | プラットフォームがデバイスを区別するために使用する一意のデバイス識別子。 | [設定方法]<br>パラメータは変更できません。 |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
| --- | --- | --- |
| QR Code | QRコードと文字コード。 | アイコンをクリックするとQRコードが拡大されます。 |
| P2P | P2Pを有効にします。デバイスのP2Pステータスがオンラインの場合、ユーザーはアプリでこのカメラを管理できます。 | [設定方法]<br>有効 |
| デバイス名 | デバイスの名前。<br>NOTE<br>*デバイス名は32バイトまたは10文字の簡略文字を超えることはできません。それ以外の場合、変更は失敗します。* | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| MACアドレス | カメラの性能を表します。 | [設定方法]<br>これらのパラメータは変更できません。 |
| カメラタイプ | | |
| 製品型番 | | |
| 製造メーカー | | |
| ハードウェアバージョン | | |
| ファームウェアバージョン | | |
| Ubootバージョン | | |
| Kernelバージョン | | |
| 映像チャンネル | | |
| チャンネル数 | | |
| アラーム入力数 | | |
| アラーム出力数 | | |
| シリアルポート数 | | |
| ネットワークカード数 | | |

Step 3 をクリックします。

「適用成功！」と表示されるので「OK」をクリックします。設定を保存します。

「適用失敗！」と表示された場合は、管理者にパラメータ設定権限を申請する必要があります。詳細については、「15.1ユーザーの設定」をご参照ください。

----終了

# 3. 2 映像と音声のエンコード

## 手順

Step 1 [設定] > [ストリーム] > [メインストリーム] をクリックします。

図3-3に示すように、「ストリーム設定」ページが表示されます。

図3-3 ストリーム設定ページ(CBR)

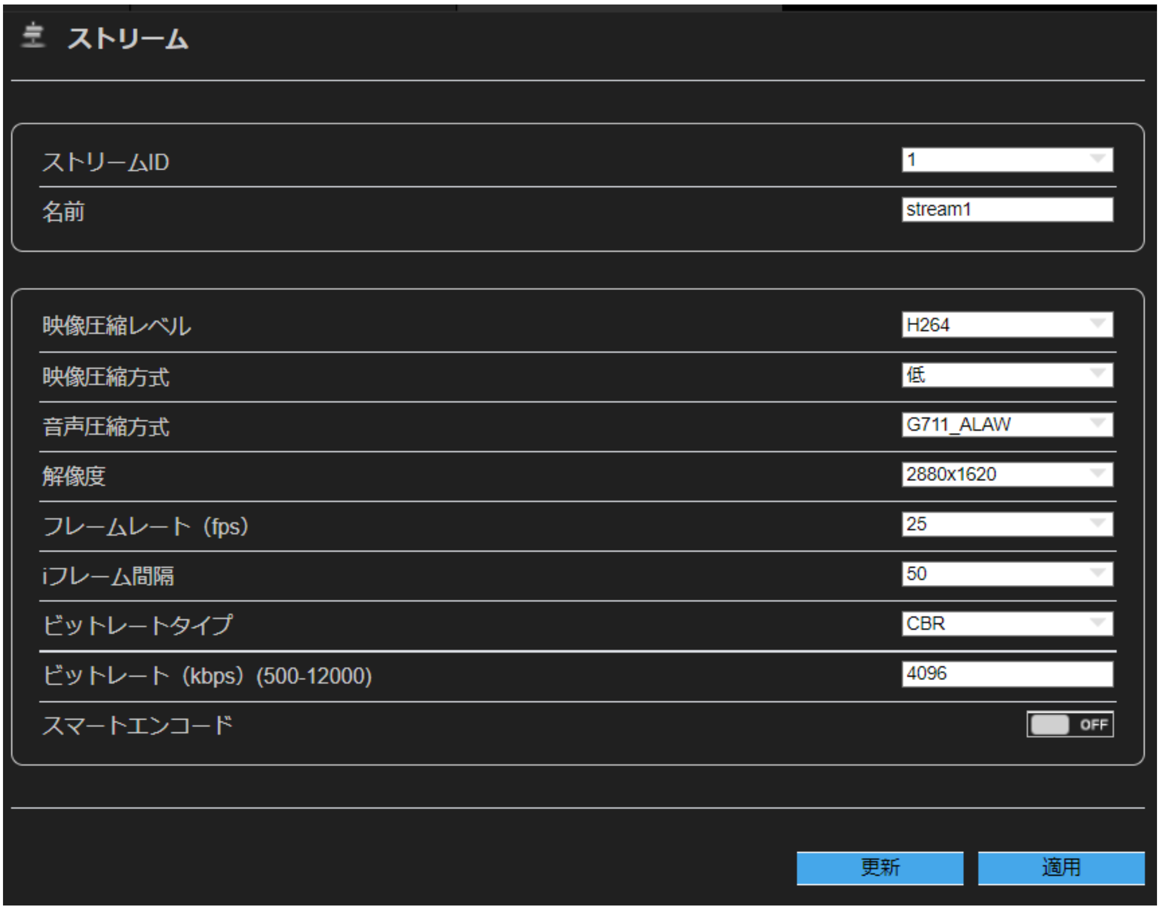


図3-4 ストリーム設定ページ(VBR)

Step 2 表3-2に従ってパラメータを設定します。

表3-2 ストリーム設定のパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| ストリームID | デバイスは最大3つのメインストリームをサポートします。<br>ストリーム1と2はH.264コードを適用できます。<br>ストリーム1には最大解像度を設定できます。<br>ストリーム2には低解像度のみ設定できます。<br>ストリーム3は最も低い解像度です。<br>ストリーム4はサブストリームです。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストボックスから値を選択します。 |
| 名前 | ストリームの名前。<br>NOTE<br>ストリーム名は文字、数字、文字、下線で構成されます。 | [設定方法<br>値を手動で入力します。値は32バイトを超えることはできません。<br>[初期値]<br>Stream 1 |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
| --- | --- | --- |
| 映像圧縮方式 | ビデオコーデックは、ビデオに必要な画質とネットワーク帯域幅を決定します。現在、次のコーデック規格がサポートされています。<br>MJPEG<br>MJPEGは標準のフレーム内圧縮コーデックです。圧縮後の画質は良好です。動画にはモザイクは表示されません。MJPEGは比例圧縮をサポートしていないため、大きなストレージ容量が必要です。録画とネットワーク送信は、大きなハードディスク容量と帯域幅を占有します。MJPEGは長時間の連続録画や動画のネットワーク送信には対応しておりません。アラーム画像の送信に使用できます。<br><br>H.264<br>H.264は、H.264ロープロファイル、H.264メインプロファイル、およびH.264ハイプロファイルで構成されます。H.264ハイプロファイルのパフォーマンスはH.264メインプロファイルのパフォーマンスよりも高く、H.264メインプロファイルのパフォーマンスはH.264ベースプロファイルのパフォーマンスよりも高くなります。ハードウェアデコードデバイスを使用する場合は、デバイスのデコード性能に基づいて適切なコーデックを選択します。H.264ハイプロファイルのハードウェアパフォーマンス要件は最も高く、H.264ベースプロファイルのハードウェアパフォーマンス要件は最も低くなります。<br><br>H.265<br>H.265は高度なビデオエンコード規格です。H.264の改良規格です。H.265は、ストリーム、エンコード品質、アルゴリズムの複雑さを改善して、構成を最適化しています。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストボックスから値を選択します。<br>[初期値]<br>H.264 ハイプロファイル<br>NOTE<br>H.264ハイプロファイルコーデックは、ハードウェアに対する高い要件を意味します。ハードデコード能力が低い場合は、H.264メインpﾛﾌｧｲﾙまたはH.264バースプロファイルを使用してください。<br>ユーザーがストリーム1にMJPEGを選択すると、FTPアップロードのビデオが正しく再生されないなど、一部の機能がエラーになります。 |
| 音声圧縮方式 | 次の音声コーデック規格がサポートされています。<br>G711_ULAW:主に北米と日本で使用されます。<br>G711_ALAW:主にヨーロッパなどの地域で使用されます。<br>RAW_PCM:オリジナルの音声データのコーデック。このコーデックはプラットフォームデータによく使用されます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストボックスから値を選択します。 |
| 解像度 | 解像度が高いほど、画質が向上します。<br>NOTE<br>IPカメラは、機種によって異なる解像度をサポートします。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストボックスから値を選択します。 |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| フレームレート(fps) | フレームレートは、カメラが1秒あたりに撮影できる画像、ショット、またはフレームの数です。1秒あたりのフレーム数によってビデオの滑らかさが決まります。フレームレートが22.5f/sより高いビデオは、人間の目では滑らかであると見なされます。<br>さまざまな周波数のフレームレートは次のとおりです。<br>50 Hz: 1–25 f/s<br>60 Hz: 1–30 f/s<br>NOTE<br>周波数は、[デバイス背邸]>[カメラ]ページで設定します。MJPEGコーディング形式の最大フレームレートは12フレーム/秒です。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストボックスから値を選択します。 |
| Iフレーム間隔(f) | Iフレームでは、他のフレームをデコードする必要はありません。<br>Iフレーム間隔が小さいほど、ビデオ品質は向上しますが、帯域幅は高くなります。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストボックスから値を選択します。 |
| ビットレートタイプ | ビットレートは、単位時間あたりに送信されるビット数です。<br>次のビットレートタイプがサポートされています。<br>Constant bit rate (CBR)<br>圧縮速度が速いです。ただし、ビットレートが不適切だと、動画が不鮮明になる場合があります。<br>Variable bit rate (VBR)<br>ビットレートは画像の複雑さに応じて変化します。符号化効率が高く、動画の解像度を確保できます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストボックスから値を選択します。 |
| 最大ビットレート<br>(500-12000) | ビットレートの最大値を示します。モデルによって範囲が異なる場合がありますので、実際の製品をご参照ください。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| 画質 | カメラ出力の映像品質。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストボックスから値を選択します。 |
| スマートエンコード | スマートエンコード<br>スマートエンコードにはH.264およびH.265が含まれます。スマートエンコードが有効になると、ストレージ容量が50%削減されます。<br>メインストリームのみがスマートエンコードに対応しています。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてスマートエンコードを有効にします。 |

Step 3 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示され、設定が保存されます。

「適用失敗！」というメッセージが表示された場合は、管理者にパラメータ設定権限を申請する必要があります。詳細については、「15.1ユーザーの設定」をご参照ください。
ビットレートが無効であることを示すメッセージが表示された場合は、新しいビットレート値を入力してください。

----終了

# 3.3 ROIパラメータ

## 手順

Step 1 [設定] > [ストリーム] > [ROI] をクリックします。

図3-5に示すように、ROIページが表示されます。

図3-5 ROI設定ページ

Step 2 表3-3に従ってパラメータを設定します。

表3-3 ROI パラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| チャンネル | 一般的なカメラの場合、デフォルトはチャンネル1です。サーマルカメラの場合、1は可視光チャネル、2はサーマルチャネルです。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストボックスから値を選択します。<br>[初期値]<br>Stream 1 |
| ストリーム | ストリームID. | [設定方法]<br>ドロップダウンリストボックスから値を選択します。<br>[初期値]<br>Stream 1 |
| 有効 | ROIを有効にする。 | [設定方法]<br>ボタンをクリック<br>[初期値]<br>OFF |
| エリアID | ROIエリアID | [設定方法]<br>ドロップダウンリストボックスから値を選択します。<br>[初期値]<br>1 |
| レベル | ROIの視覚効果。レベルが高いほど、エリアはよりクリアになります。領域の外側ほどぼやけます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストボックスから値を選択します。<br>[初期値]<br>5 |
| エリア名 | エリアに設定する名前。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。値は32バイトを超えることはできません。 |

Step 3 「描画」をクリックすると赤枠が表示されるので、長方形の四隅をドラッグして位置を調整します。

Step 4 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示され、設定が保存されます。

----終了

# 3.4 スナップショット

## 手順

Step 1 「設定」>「ストリーム」>「スナップショット」をクリックします。

図3-6に示すように、[スナップショット]ページが表示されます。

図3-6 スナップショット設定ページ

Step 2 表3-4に従ってパラメータを設定します。

表3-4 スナップショット設定のパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| スナップショット解像度 | スナップショットの解像度を選択します。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストボックスから値を選択します。<br>[初期値]<br>**1280*720** |
| スナップショット品質 | スナップショットの品質を選択します。 | [設定方法]<br>ボタンクリック<br>[初期値]<br>**中** |

----終了

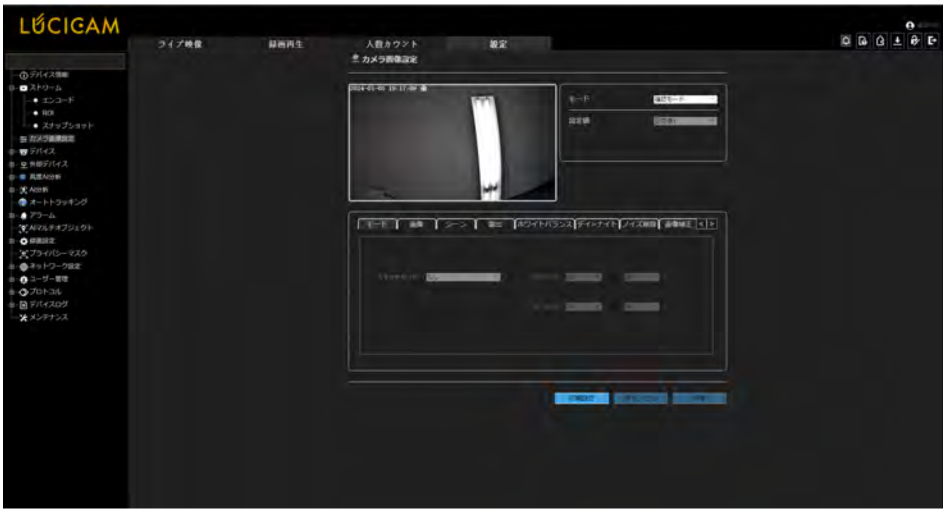
# 4 画像設定

## 4.1 画像設定インターフェースへのアクセス

### 操作手順:

Step 1 Webインターフェースで、[設定] > [イメージ設定] インターフェースに入ります。

図4-1 画像設定ページ



Step 2 モードの項目で調整を選択してパラメータを設定します。設定値は4つまで設定できます。

**NOTE**

- すべての画像設定は調整モードで変更できます。インターフェースで Standard ▾ をクリックし、調整モードを選択します。
- 工場出荷時設定にリセット:すべてのパラメータが工場出荷時の設定にリセットされます。
- キャンセル:設定は最後の設定に復元されます。

----終了

## 4.2 モード

### 操作手順:

Step 1 画像設定インターフェースで[モード]タグをクリックすると、図4-2に示すように[モード]ページが表示されます。

図4-2 モードページ

Step 2 左中隅にある[モード]を選択して、画像設定ページをアクティブにします。

Step 3 各項目の設定を行います。

Step 4 「保存」をクリックして設定を保存します。

# 4.3 画像設定

図4-3に画像設定インターフェースを示します。

図4-3 画像設定ページ

表4-1では、画像設定パラメータについて説明します。

表4-1 画像設定パラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定方法 |
|---|---|---|
| 輝度 | 画像の全体的な明るさを示します。値が大きくなるにつれて画像が明るくなります。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値]<br>50 |
| 彩度 | 画像の色の彩度を示します。値が大きくなるにつれて、画像がよりカラフルになります。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値]<br>50 |

| パラメータ | 説明 | 設定方法 |
|---|---|---|
| **シーャプネス** | 画像の定義を示します。値が増加すると、画像がより鮮明になります。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値]<br>50 |
| コントラスト | 画像の明るい部分と暗い部分のコントラストを示します。値が大きくなるにつれて、コントラストが増加します。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値]<br>50 |

# 4.4 シーン設定

図4-4は、シーンモードインターフェイスを示しています。

図4-4 シーンモードページ

表4-2では、FFCモードのパラメータについて説明します。

表4-2 FFCパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定方法 |
|---|---|---|
| **シーン** | カメラの動作モードを示します。<br>屋外: 屋外のシーンに適用されます。<br>屋内: 屋内シーンに適用されます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストボックスから値を選択します。<br>[初期値]<br>**屋外** |
| **ミラー** | 画像のピクセル位置を選択するために使用されます。<br>正常：画像を反転しません。<br>水平:画像が左右に反転します。<br>垂直:画像が上下に反転します。<br>水平＋垂直:画像が180度回転します。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストボックスから値を選択します。<br>[初期値]<br>正常 |
| **縦長モード** | 通路モードが有効な場合、画像は時計回りに90度回転します。一部の機種では、ストリーム2/3、H.265またはH.264ビデオエンコードタイプ、解像度CIFまたはQVGAを選択すると、ライブ映像が再生されない場合があります。一部機種のみに適用されます。 | [設定方法]<br>縦長モードにチェックを入れます。<br>[初期値]<br>無効 |

# 4.5 露出

図4-5と図4-6は、露出インターフェースを示しています。

図4-5 露出インターフェース（IPカメラ）

図4-6 露出インターフェース（スピードドーム）

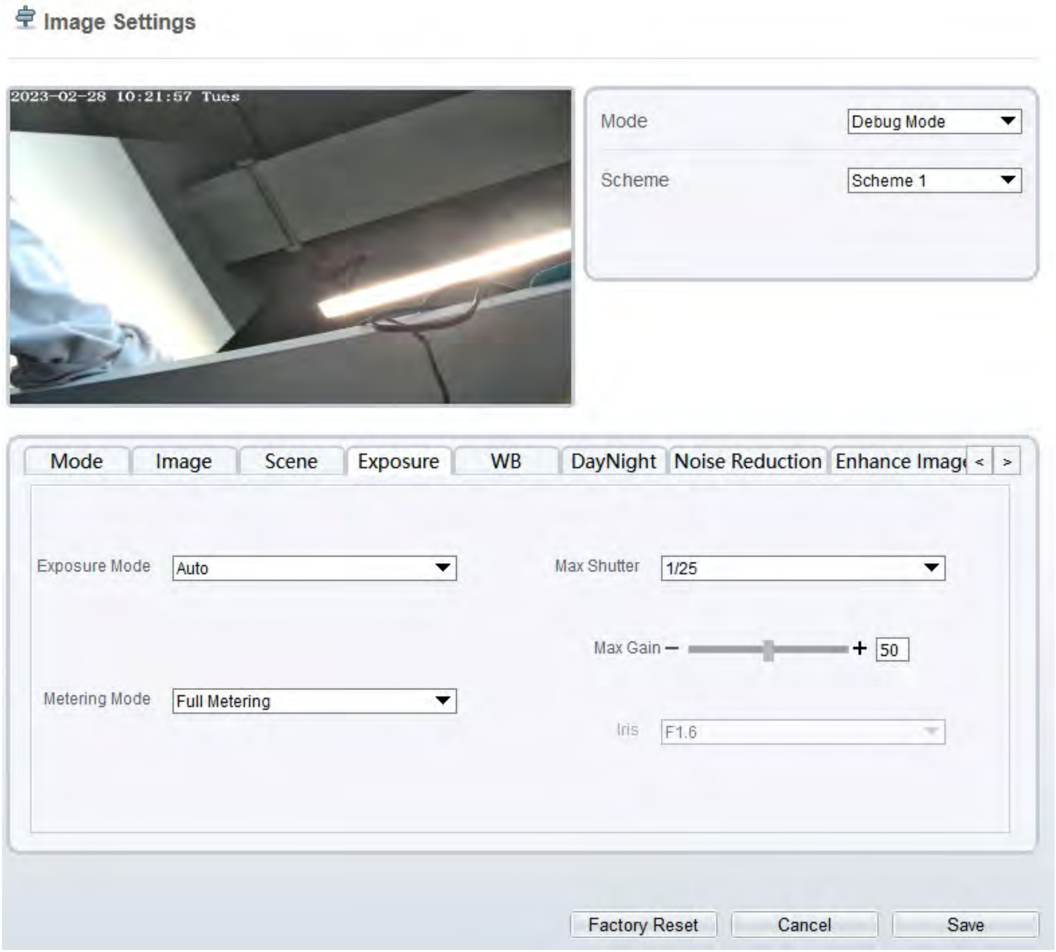



表4-3では、露出パラメータについて説明します。

表4-3 露出パラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定方法 |
|---|---|---|
| **露出モード** | 露出モードには次のものがあります。<br>自動:監視環境に基づいて自動で露出を設定します。<br>マニュアル：シャッター設定、アイリス設定、ゲイン設定の3つの項目を設定することで、画像の明るさを調整できます。<br>シャッター優先度:シャッター設定を固定値に設定できます。アイリスとゲインはシステムによって自動的に調整されます。<br>アイリス優先（スピードドーム用）：アイリス設定を固定値に設定できます。シャッターとゲインはシステムによって自動的に調整されます。 | [設定方法<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>自動 |
| **測定モード** | 測定エリアを選択します。<br>全体測定:測光中、画像のすべてのエリアが同じ重みを持ちます。つまり、すべての領域が測定に関与します。<br><br>スポット測定:測定中、画像の中央スポットの重みが最も高くなります。<br><br>部分測定:測定中、画像の中央領域(全体の領域の1/2)の重みが最も高く、その他の領域の重みが最も低くなります。 | [設定方法<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>全体 |
| **最大シャッター** | デバイスは周囲の明るさに基づいてシャッター時間を自動的に調整します。シャッター時間はこのパラメータの値以下になります。 | [設定方法 ]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値] **1/25** |
| **最大ゲイン** | デバイスは外部光に基づいてゲインを自動的に調整します。ゲインはこのパラメータの値以下になります。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値] **50** |

| パラメータ | 説明 | 設定方法 |
| --- | --- | --- |
| アイリス（スピードドーム） | マニュアルモード、アイリス優先モード時に有効です。アイリスを設定することで画像の明るさを調整できます。値が大きくなるにつれて明るさが増します（シャッターとゲインが同じ場合）。ただし、このモードではカメラの動きに応じてシャッターとゲインが自動的に調整されます。そのため、アイリスを大きくしても画像の明るさが上がらない場合があります。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>**F1.6** |
| **アイリス（IPカメラ）** | レンズに入る光を制御するために使用されます。<br>オートアイリスは次のいずれかの状態に設定できます。<br>自動<br>アイリスは自動的に調整され、レンズに入る光を制御します。<br>全開<br>アイリスが全開になります。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>**自動** |
| **アイリススピード** | アイリスの自動調整速度を表します。値が大きくなるほど速度が速くなります。速度を出しすぎると不安定になる可能性があります。<br>NOTE<br>このパラメータはオートアイリスが有効な場合に有効です。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値]<br>**50** |
| **固定ゲイン** | 露出モードがマニュアルの場合、固定ゲインを設定できます。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値]<br>**50** |

# 4.6 WB設定

図4-7は、WB設定インターフェースを示しています。

図4-7 WB設定ページ

表4-4に、WB設定パラメータを示します。

表4-4 WB設定のパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定方法 |
|---|---|---|
| モード | さまざまなシーンに応じてWBモードを選択すると、画像の色彩が向上します。<br>**自動**: オートホワイトバランス (WB) モードでは、システムはモニタリング環境に基づいて自動的にホワイトバランスを調整します。<br>**白熱電球**<br>**蛍光灯**<br>**日中**<br>**影**<br>**手動**:手動WBモードでは、監視環境に基づいてWBモードを手動で選択できます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>自動 |
| レッドゲイン | チャンネルに適用されるレッドゲインを示します。値が大きくなるにつれて色温度が低くなります。<br>NOTE<br>このパラメータは、手動モードがカスタマイズに設定されている場合に有効です。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値]<br>**0** |
| ブルーゲイン | チャンネルに適用されるブルーゲインを示します。値が大きくなるにつれて色温度が高くなります。<br>NOTE<br>このパラメータは、手動モードがカスタマイズに設定されている場合に有効です。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値]<br>0 |

# 4.7 デイ/ナイト

デイナイトモードの設定はデバイスの機種によって異なります。詳細については、次のセクションをご参照ください。図 4-8 は、デイナイト モード インターフェースを示しています。

図4-8 デイ/ナイトモードページ（スケジュール）

図4-9 デイ/ナイトモードページ（オート）

表4-5では、デイ/ナイトモードのパラメータについて説明します。

表4-5 デイ/ナイトのパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定方法 |
| --- | --- | --- |
| **デイ/ナイト設定モード** | 自動、デイ、ナイト、スケジュールに設定できます。<br>自動モード<br>周囲の明るさに応じて、画像の色とフィルターの状態が自動的に切り替わります。フィルターは、日中は赤外線がセンサーに届かないようにし、夜間はすべての光がセンサーに届くようにします。<br>デイモード<br>画像はカラー撮影で、フィルターは日中の状態で、センサーへの赤外線の侵入を防ぎます。<br>ナイトモード<br>画像は白黒で、フィルターは夜間状態にあり、赤外線がセンサーに入るようになります。<br>スケジュールモード<br>設定した時間に応じてデイモードとナイトモードを切り替えます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>自動 |
| **デイ/ナイト切替感度** | 昼と夜が切り替わる感度。感度の値が高く、光の強度が高い程夜に切り替わりやすくなります。<br>**NOTE**<br>このパラメータは自動モードで有効です。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値] **50** |
| **遅延(秒)** | 昼から夜、または夜から昼までの切替の遅延時間。<br>**NOTE**<br>このパラメータは自動モードで有効です。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値] **0** |
| **ライトモード** | モデルごとに、赤外線、白色 LED、インテリジェント デュアル ライト (カメラには I赤外線と白色 LED の 2 つのライトがあります)、なし、などのライト モードを選択できます。カメラの性能によって異なります。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。 |
| **赤外線** | **自動**: 赤外線ランプは、光依存抵抗器 (LDR) によって識別される外部環境に基づいて有効または無効になります。<br>**ON**: 強制的にナイトモードに移行します。<br>**OFF**: 赤外線ランプが無効になっています。LDRで識別した外部環境に応じてフィルターや画像の色を切り替えます。<br>**NOTE**<br>このパラメータは自動モードで有効です。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[設定方法]<br>自動 |

| パラメータ | 説明 | 設定方法 |
|---|---|---|
| **強度** | 赤外線の強度。値が大きくなるにつれて、画像が明るくなります。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値] **50** |
| **デイ/ナイト切替時刻** | 昼から夜に切り替わる時刻。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>**18:00** |
| **ナイト/デイ切替時刻** | 夜から昼に切り替わる時刻。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[設定方法]<br>**6:00** |

補助光の設定

カメラの補助光には 4 つのモードがあります。インテリジェント デュアル ライト (アラームがトリガーされた後に白色LEDに切り替わり、警報が解除されてから 30 秒後に元に戻ります)、白色LED、IRLED、無効（補助光を無効にすることを選択すると、画像はカラー撮影モードのままになります）。

カメラごとに異なる補助光モードに設定できます。実際のシーンに応じて設定してください。

デイモード: 周囲に光が十分にあるシーンで 24 時間使用でき、補助光をオンにせず、映像はカラー撮影モードで撮影されます。

ナイトモード： 周囲に光が十分にないシーンで 24 時間使用でき、補助光をオンにします（4つのモードの補助光に従って選択できます）。

自動モード：環境の明るさに応じて、設定された補助光モードを自動的に切り替えます。

スケジュール モード: 1 日の開始時刻と終了時刻を設定します。この期間はデイモードになります。

補助光の明るさは自動か手動で選択できます。自動モードとは、現在の環境に応じて自動的に調整できることを意味します。手動モードでは、バーをスクロールして光の強度の値を設定できます。

# 4.8 ノイズ削減

図 4-10 は、ノイズ削減インターフェースを示しています。

図4-10 ノイズ削減ページ(オート )

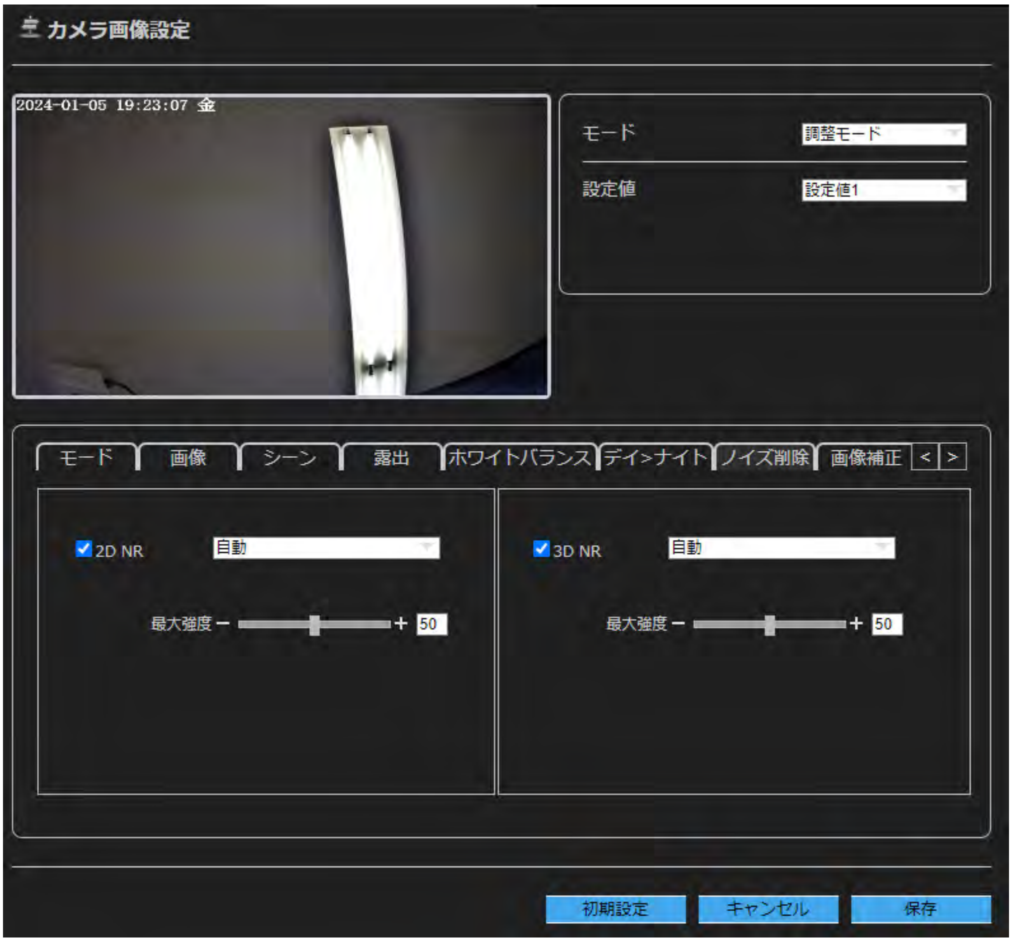



図4-11 ノイズ削減ページ(手動 )

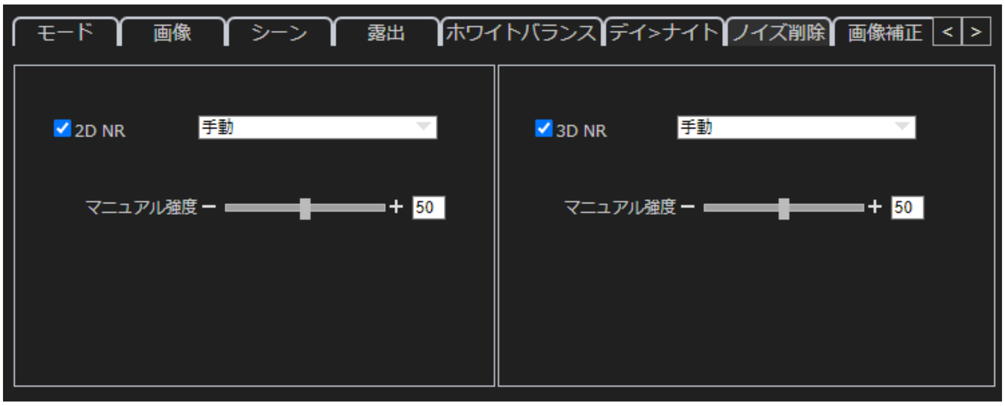



表4-6では、ノイズ削減パラメータについて説明します。

表4-6 ノイズ削減のパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定方法 |
| --- | --- | --- |
| 2D NR | 画像のノイズを軽減します。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[設定方法]**自動** |
| 3D NR | 画像のノイズを軽減します。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[設定方法]**自動** |
| 最大強度 | オートノイズフィルターモード時に有効です。パラメータ値が0の場合、ノイズ フィルタは無効になります。パラメータ値が0より大きい場合、ノイズ フィルタが有効になり、システムはこのパラメータの値を超えることなく、周囲の明るさに基づいてノイズ フィルタ レベルを自動的に調整します。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値] **50** |
| 固定強度 | 手動ノイズフィルターモード時に有効です。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値] 50 |

# 4.9 画像補正

図4-12は画像補正インターフェースを示し、表4-7は画像補正パラメータを示します。

図4-12 画像補正インターフェース

表4-7 画像補正のパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定方法 |
|---|---|---|
| WDR | 明るさの差が大きい環境で、前景と背景を同時に表示する場合に使用します。明るさの差が大きい場合、WDR レベルを上げてより良い画像効果を得ることができます。 | [設定方法]<br>WDR モードにチェックを入れて、スライダーをドラッグします。<br>[初期値] **50** |
| HLC | ハイライト環境での画像をより鮮明に表示します。 HLC を有効にすると、画像の全体的な明るさが低下し、ハイライトの前でオブジェクトを表示できるようになります。 | [設定方法]<br>HLC モードにチェックを入れて、スライダーをドラッグします。<br>[初期値] 50 |
| BLC | 逆光環境でも画像をより鮮明に表示します。 BLC を有効にすると、画像の全体的な明るさが増し、バックライトの前でオブジェクトを表示できるようになります。一方、バックライトの背後にあるオブジェクトは過剰に露出します。 | [設定方法]<br>BLC モードにチェックを入れて、スライダーをドラッグします。<br>[初期値] 50 |
| 手ブレ補正 | カメラがわずかに揺れ、手ぶれ補正が有効になっていると、画像の揺れと視角が減少します。 | [設定方法]<br>手ぶれ補正モードにチェックを入れます。 |
| 曇り止め | 曇り止めを有効にすると、曇った環境でも画像がより鮮明に表示されます。値が大きくなるにつれて、画像がより鮮明になります。<br>一部のモデルのみに適用されます。 | [設定方法]<br>曇り止めモードにチェックを入れて、スライダーをドラッグします。<br>[初期値] **50** |

# 4.10 ズームフォーカス (一部機種のみ対応)

図4-13と図4-15はズームフォーカスインターフェイスを示し、表4-7はズームフォーカスパラメータを示します。

図4-13 ズームフォーカスページ1（IPカメラ）

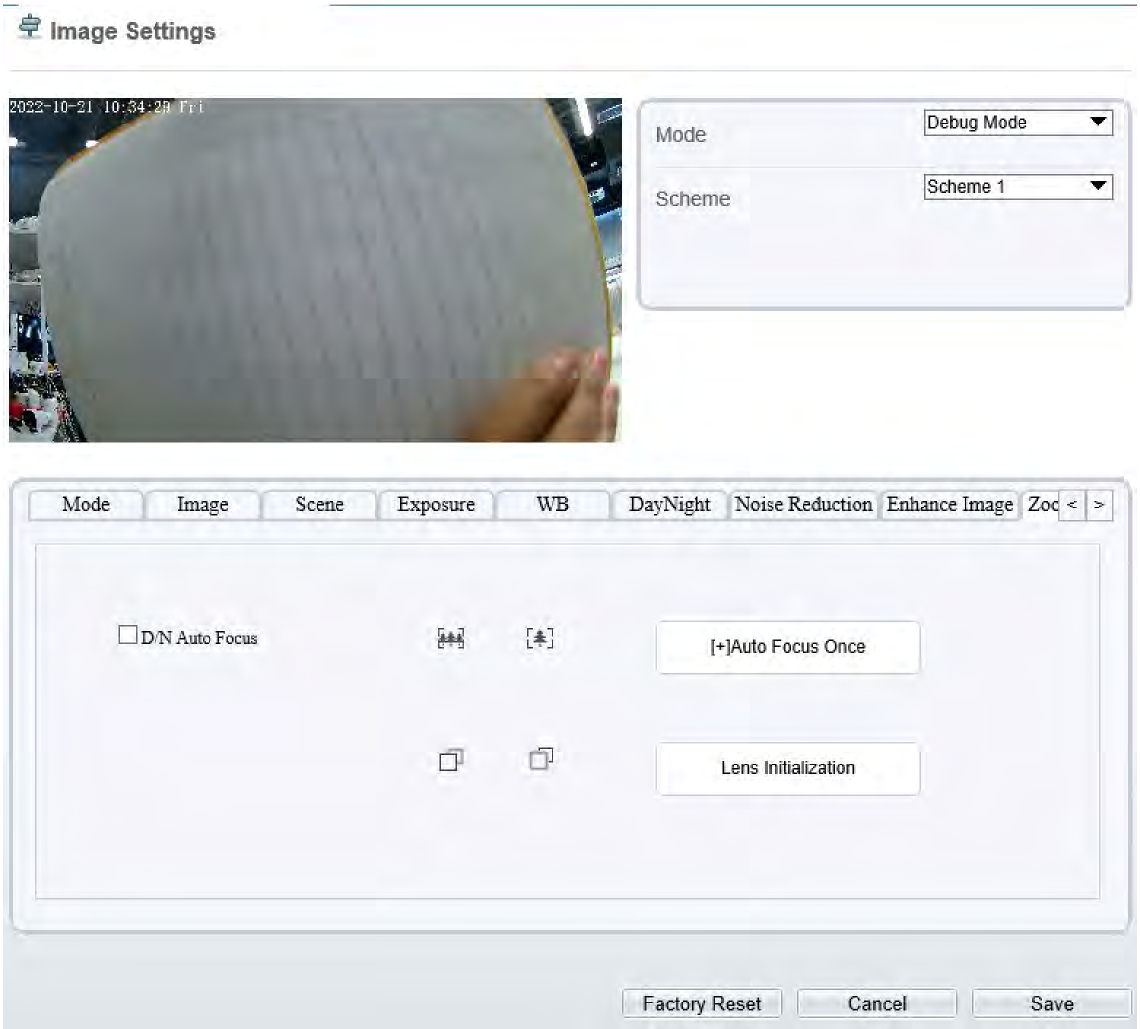


図4-14 ズームフォーカスページ2（IPカメラ）

図4-15 ズームフォーカスページ（スピードドーム）

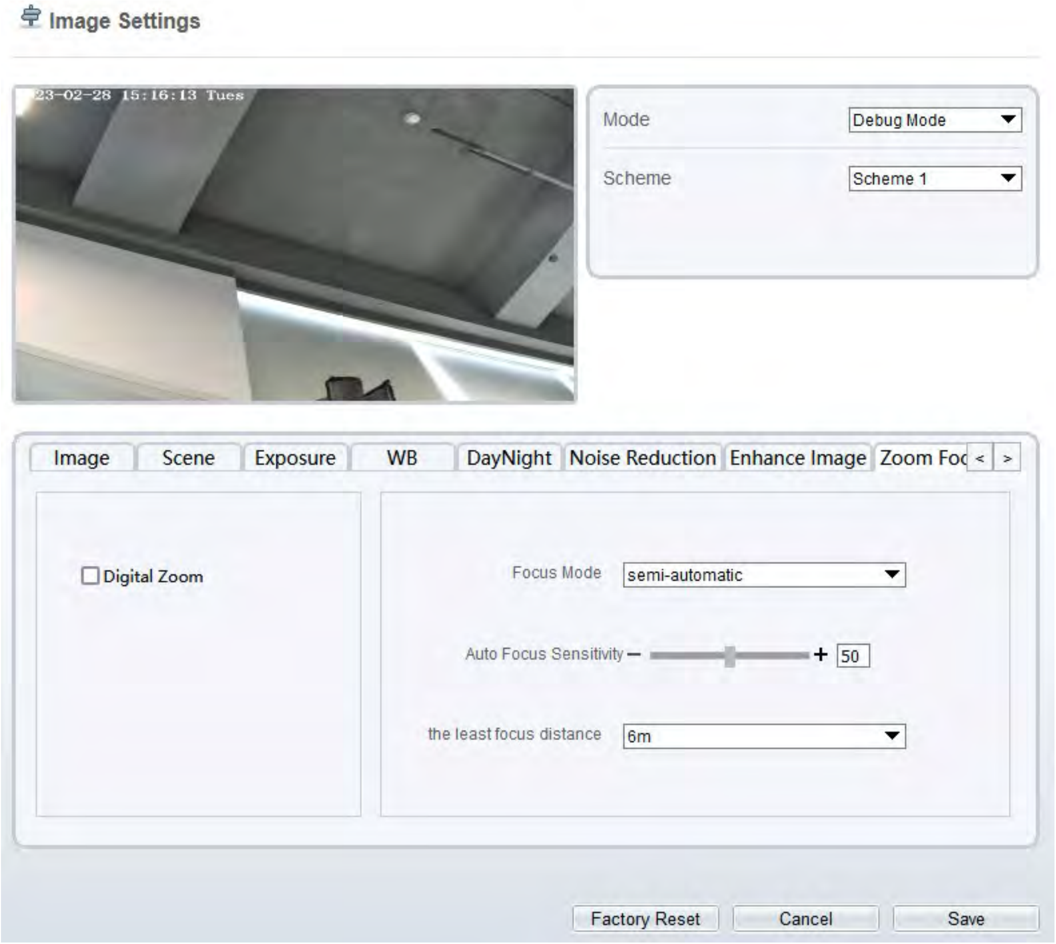



表4-8 ズームフォーカスのパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定方法 |
|---|---|---|
| デイ/ナイト<br>オートフォーカス | 昼から夜、または夜から昼までオートフォーカスをトリガーするために使用されます。 | [設定方法]<br>オートフォーカスにチェックを入れます。 |
| オートフォーカス一回 | クリックするとオートフォーカスが1回行われます。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックします。 |
| 初期化 | カメラのレンズが初期位置に戻ります。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックします。 |
| デジタル | 光学モードで画像を37倍に拡大した後、デジタルズームを可能にする機能です。 | [設定方法]<br>デジタルをクリックします。 |

| パラメータ | 接続 | 設定方法 |
|---|---|---|
| フォーカスモード | オート、マニュアル、またはセミオートモードに設定できます。<br>オート フォーカス モード: シーンに基づいてフォーカス調整を自動的に行います。<br>マニュアルフォーカス モード: ボタンを使用してフォーカスをト調整できます。<br>セミオートフォーカス モード: PTZ が移動またはズームしたときに、自動的にフォーカスを 1 回だけ調整します。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>**セミオート** |
| オート<br>フォーカス<br>感度 | オートフォーカスの感度を表します。感度が高いと、映像がわずかに変化しても、再びピントを合わせやすくなります。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値] **50** |
| 最短撮影距離 | 最短撮影距離を表します。この値よりも距離が小さい場合、カメラは焦点を合わせません。たとえば、最短焦点距離が 1.5 m に設定されている場合、カメラは 1.5 m を超える距離にあるオブジェクトにのみ焦点を合わせ、1.5 m 未満の距離にあるオブジェクトの変化はフォーカス調整に影響しません。<br>NOTE<br>このパラメータは可視光にのみ適用されます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>**3 m** |

**----終了**

# 5 デバイス

## 5.1 ローカルネットワーク

### 説明

ローカルネットワークパラメータには次のものが含まれます。

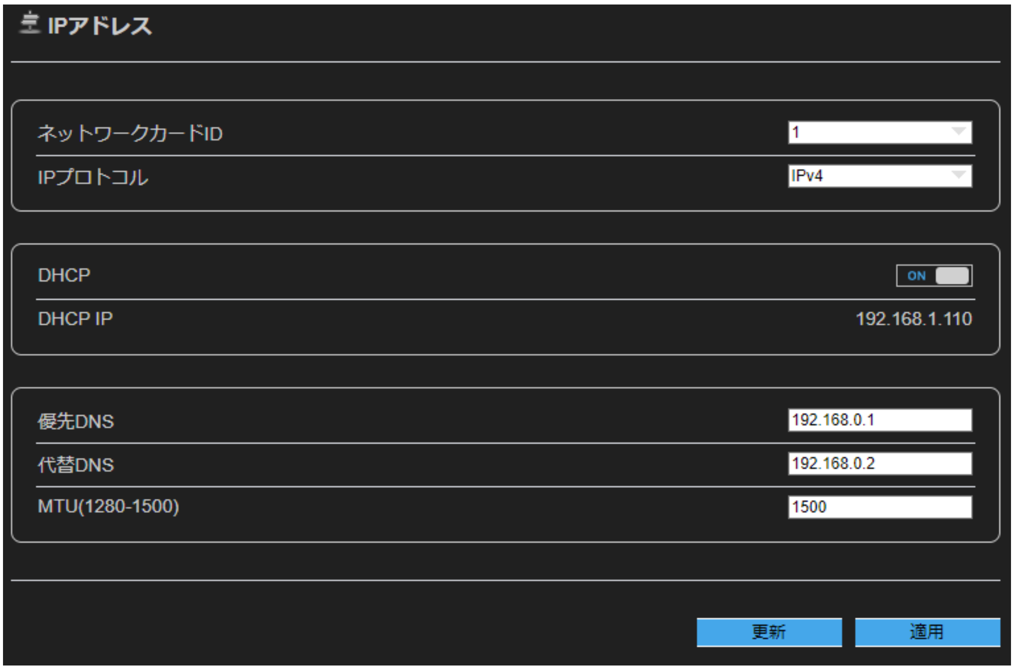
IPプロトコル
IPアドレス
サブネットマスク
デフォルトゲートウェイ
DHCP
優先DNSサーバー
代替DNSサーバー
MTU

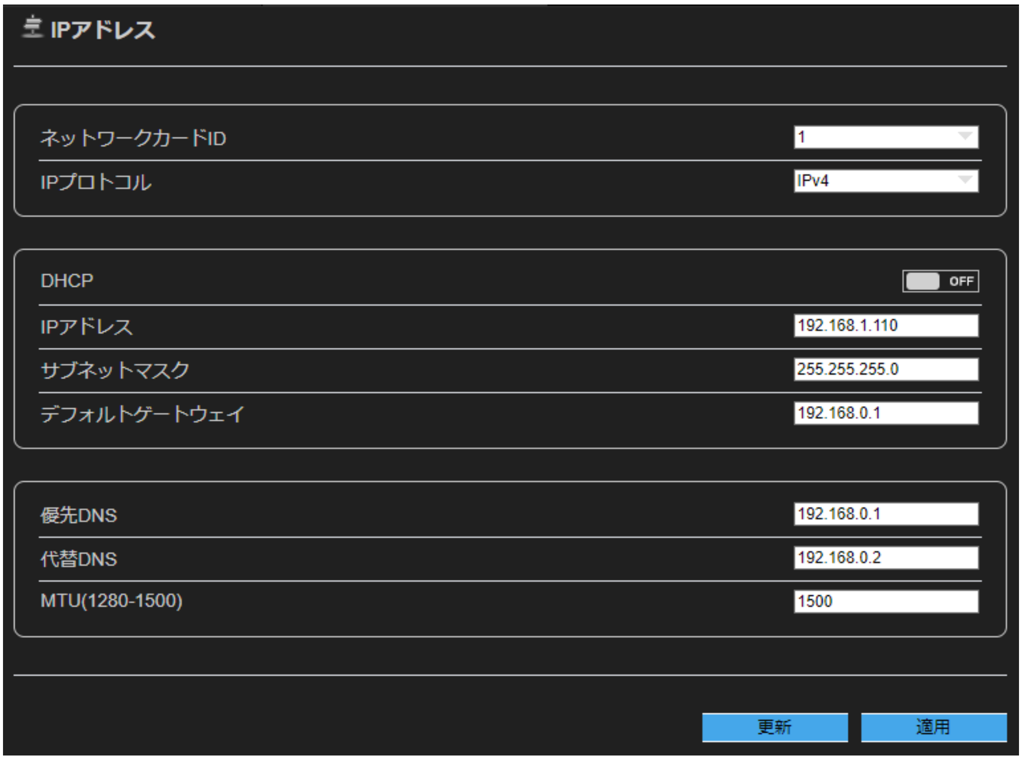
### 手順

Step 1 [設定] > [デバイス] > [IPアドレス] を選択します。

図5-1に示すように、[[IPアドレス]ページが表示されます。

図5-1 [IPアドレスワークページ






Step 2 表5-1に従ってパラメータを設定します。

表5-1 ローカルネットワークパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| ネットワークカードID | -- | [初期値]<br>1 |
| IPプロトコル | IPv4 は、32 ビットのアドレス長を使用する IP プロトコルです。<br>IPv6 は、64 ビットのアドレス長を使用する IP プロトコルです。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値] IPv4 |
| DHCP | DHCP を有効にすると、デバイスは DHCP サーバーから IP アドレスを自動的に取得します。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックして DHCP を有効にします。<br>NOTE<br>*デバイスの現在のP アドレスを検索するには、デバイス名に基づいてプラットフォーム上で検索を実行する必要があります。* |
| DHCP IP | DHCP サーバーがデバイスに割り当てた IP アドレス。 | N/A |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
| --- | --- | --- |
| IPアドレス | 必要に応じて設定できるデバイスのIPアドレス。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値] 192.168.1.110 |
| サブネットマスク | ネットワークアダプターのサブネットマスク。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値] 255.255.255.0 |
| デフォルトゲートウェイ | クライアントがゲートウェイ経由でデバイスにアクセスする場合、このパラメータを設定する必要があります。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値]  192.168.0.1 |
| 優先DNSサーバー | DNS サーバーの IP アドレス。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値] 192.168.0.1 |
| 代替DNSサーバー | ドメインサーバーのIPアドレス。<br>優先 DNS サーバーに障害がある場合、デバイスは代替 DNS サーバーを使用してドメイン名を解決します。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値]  192.168.0.2 |
| MTU | ネットワーク送信データパケットの最大値を設定します。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>NOTE<br>MTU 値の範囲は 1280 ～ 1500 です。デフォルト値は 1500 です。 |

Step 3 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されたら、設定が保存されます。 「ネットワークパラメータの設定に成功しました。システムに再度ログインしてください。」というメッセージが表示されます。新しい IP アドレスを使用して Web 管理システムにログインします。

「パラメータが無効です」というメッセージが表示された場合は、パラメータを正しく設定してください。

**----終了**

# 5.2 デバイスポート

## 説明

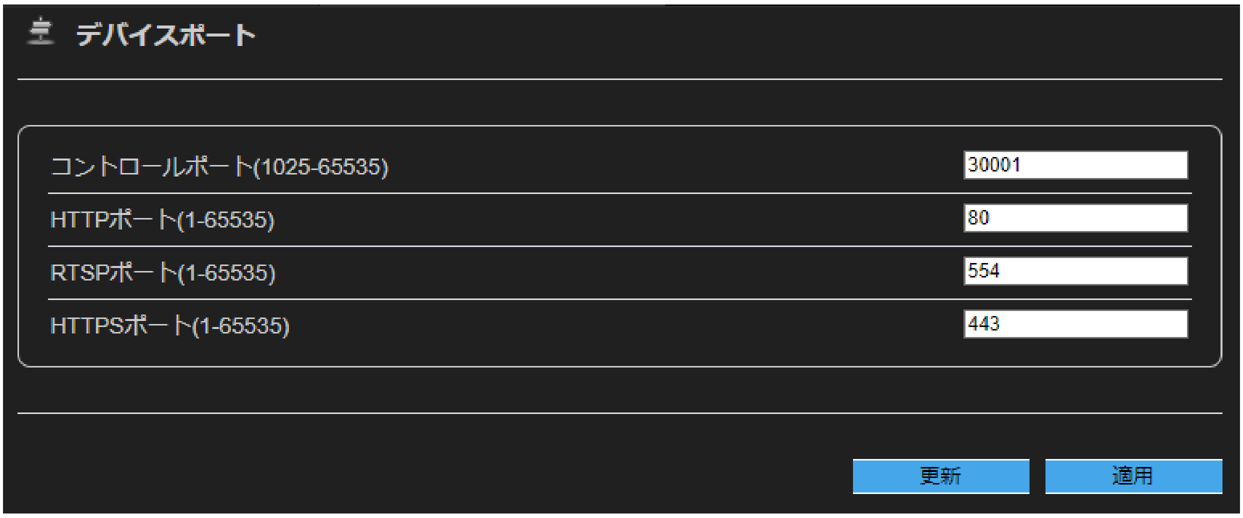
LAN内のデバイスルートマッピング用に、HTTPポート、制御ポート、RTSP(リアルタイムストリーミングプロトコル)ポート、およびSSL制御ポートを設定する必要があります。

## 手順

Step 1 [設定] > [デバイス] > [デバイス ポート] を選択します。

図5-2に示すように、[デバイスポート]ページが表示されます。

図5-2 デバイスポートページ




Step 2 表5-2に従ってパラメータを設定します。

表5-2 デバイスポートのパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
| --- | --- | --- |
| コントロールポート | 音声と映像の転送と信号の通信に使用されるポート。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値]<br>30001 |
| HTTPポート | Webアクセスで使用するポート。ポートを 86 に変更します。入力する必要があります。<br>「http://192.168.0.120:86/」でWebにアクセスします。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値]<br>80 |
| RTSPポート | RTSPプロトコルポート。ルールは「設定 > プロトコル > プロトコル情報」をご参照ください。VLC プレーヤーで「rtsp://192.168.0.120:554/snl/live/1/1」をクリックすると、ライブビデオが表示されます。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値]<br>554 |
| HTTPSポート | セキュアソケットレイヤー上のハイパー テキスト転送プロトコル。「構成 > デバイス> システム」で、Web モードを HTTPS に設定します。「https://192.168.0.120:443」を入力してWebにアクセスします。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値]<br>443 |
| SSL コントロールポート | セキュアソケットレイヤー制御ポート。一部の機種のみ対応。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値] 20001 |

**NOTE**

制御ポートを変更することは推奨できません。制御ポート、HTTP ポート、および SSL 制御ポートの値の範囲の詳細については、通信マトリックスをご参照ください。

Step 3 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されたら、設定が保存されます。
「ポートが無効です。確認してください。」というメッセージが表示された場合は、正しいポート番号を入力してください。

**----終了**

# 5.3 日付時刻

## 説明

[日付時刻] ページで、日付と時刻を変更できます。設定できるパラメータは次のとおりです。

タイムゾーンとDST
日付時刻
NTPサーバー

## 手順

Step 1 [設定] > [デバイス] > [日付時刻] を選択します。

図5-3に示すように、[日付時刻]ページが表示されます。表5-3ではパラメータについて説明します。

図5-3 日付時刻ページ

表5-3 日付時刻パラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| タイムゾーン | N/A | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>グリニッジ標準時 |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| サマータイム | サマータイム開始時刻になると、デバイスの時刻が自動的に 1 時間進みます。 サマータイム終了時刻になると、デバイスの時刻が自動的に 1 時間戻ります。<br>NOTE<br>*サマータイムは、夕方の日照時間が長くなり、朝の時間が少なくなるように時計を進めることです。現在、世界の約 110 か国が サマータイムを導入しています。国が異なれば、サマータイム定も異なります。2011年 3 月 27 日以降、ロシアは恒久的な DST の使用を開始しました。* | [設定方法]<br>サマータイムを有効にするには、サマータイムのボタンをクリックします。 |
| 現在時刻 | デバイスの時刻。 | [設定方法]<br>・PCから時刻を同期します。<br>・値を手動で入力します。 |
| PC同期 | 現在のPCの時刻。 | N/A |
| 手動設定 | デバイスの時刻を手動で設定できます。 | [設定方法]<br>[手動で設定]をクリックし、日付と時刻をYYYY-MM-DDHH:MM:SSの形式で設定します。 |
| NTP | NTPサーバーのIPアドレスまたはドメイン名。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてNTPを有効にし、値を手動で入力します。 |
| NTPサーバーアドレス | NTPサーバーのIP。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| NTPポート | NTPサーバーのポート番号。 | NTPサーバーのポート番号。<br>[初期値]<br>**123** |
| 同期時間間隔<br>（10秒以上） | デバイスの時刻がNTPサーバーの時刻と同期しているかどうかを確認する時間間隔を設定します。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値]<br>**3600** |

Step 2 [タイムゾーン]ドロップダウンリストボックスからタイムゾーンを選択します。

Step 3 (オプション)ボタンをクリックしてDSTを有効にし、DSTの開始時刻と終了時刻を指定します。

Step 4 デバイスの時刻を変更します。

- PCから時刻を同期します。
  [現在のPC時間]をクリックします。
- デバイスの時刻を手動で設定します。
  - 手動で設定] をクリックします。
  - 時間設定コントロールが表示されます。
  - 日付と時刻を設定します。

Step 5 NTPを設定します。

1. ボタンをクリックしてNTPを有効にします。
2. NTPサーバーのIPアドレスまたはドメイン名、ポート番号、および時間間隔を入力します。

Step 6 をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示され、設定が保存されます。

----終了

# 5.4 カメラ

## 手順

Step 1 [設定]>[デバイス]>[放送方式]を選択します。

図5-4に示すように、[放送方式]ページが表示されます。表5-4ではパラメータについて説明します。

図5-4 放送方式ページ

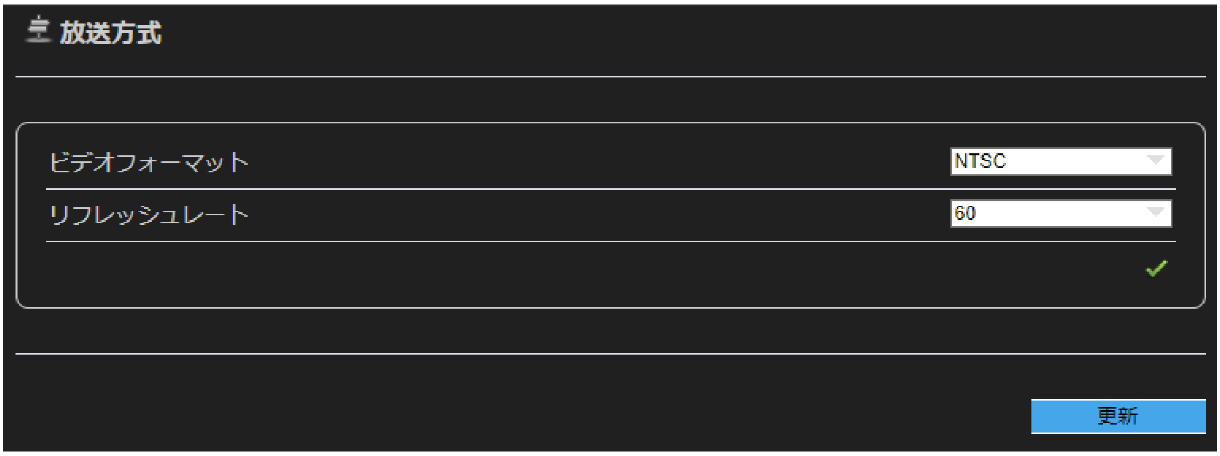


表5-4 カメラのパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| 映像システム | 選択肢は次のとおりです。<br>PAL: ヨーロッパおよび中国本土、インド、パキスタンなどで使用されます。<br>NTSC：米国、日本、韓国、中国、台湾などで使用されています。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>PAL<br>NOTE<br>映像方式の変更が可能かどうかは機種によって異なります。 |
| ビデオリフレッシュレート | 選択肢は次のとおりです。<br>・50Hz：PAL方式に対応。<br>・60 Hz: NTSC方式に対応しています。 | [設定方法]<br>映像規格に従ってください。 |

Step 2 チャンネル名を入力します。

**NOTE**

チャネル名は 0 ～ 32 バイトの長さで、数字と文字などを入力することができます (< > % & \",=+| などの一部の特殊文字を除く)。

Step 3 ✔ をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されます。

**NOTE**

映像規格が変更されると、「デバイスが再起動されます。変更してもよろしいですか?」というメッセージが表示され、設定が自動的に保存されます。設定はデバイスの再起動後に有効になります。

**----終了**

# 5.5 OSD

## 説明

オンスクリーンディスプレイ（OSD）機能を使用すると、デバイス名、チャンネルIDと名前、時間、その他のカスタマイズされたコンテンツを映像上に表示できます。OSDフレームを任意の場所にドラッグして配置できます。

・解像度がD1およびCIFの場合、Webインターフェースでカスタマイズされた OSDは通常、最大22文字を表示できます。

・OSDは、英語、日本語、および一部の特殊文字のみに対応しています。

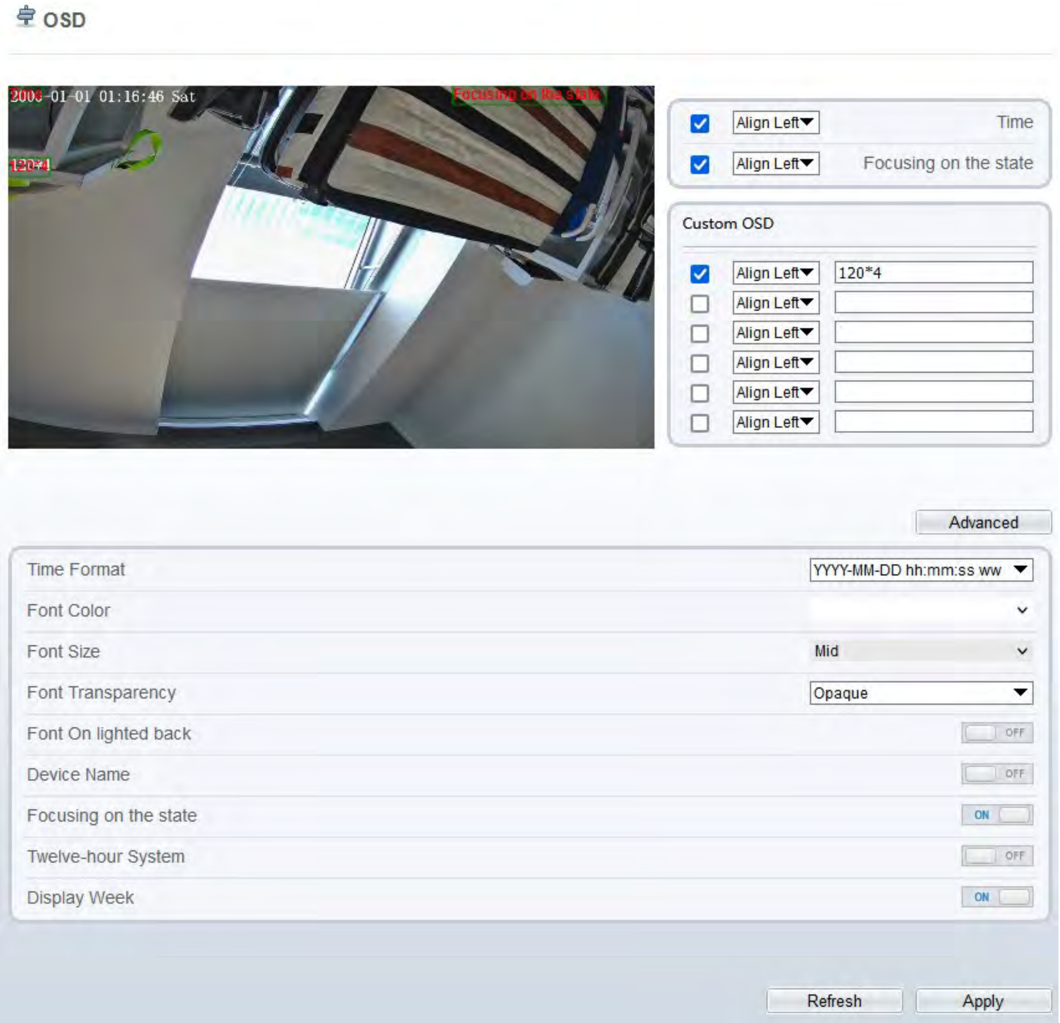
## 手順

Step 1 [設定]>[デバイス]>[オーバーレイ]を選択します。

図5-5に示すように、オーバーレイページが表示されます。

図5-5 PTZ オーバーレイページ

図5-6 オーバーレイ (一般カメラ)




Step 2 表5-5に従ってパラメータを設定します。

**NOTE**

OSD表示エリアは7つまでです。

表5-5 OSDのパラメータ

| パラメータ | 詳細 | 設定 |
|---|---|---|
| 時刻 | 時刻を表示するかどうかを示します。 | [設定方法]<br>時刻をクリックします。 |
| フォーカスの状態 | フォーカスの状態を表示します。<br>NOTE:<br>オートフォーカスレンズのカメラにのみ対応しています。 | [設定方法]<br>フォーカスの状態をクリックします。 |

| パラメータ | 詳細 | 設定 |
|---|---|---|
| カスタムOSD | 文字を1行入力できます。 | [設定方法]<br>1. カスタムOSDリストにチェックを入れます。<br>2. 文字を入力します。<br> をクリックして保存します。 |
| 時刻表示形式 | 時刻を表示する形式。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>YYYY-MM-DD hh:mm:ss ww |
| 文字の色 | 文字の色の設定。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>白 |
| 文字の大きさ | 文字の大きさの設定。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>中 |
| 文字の透明度 | 文字の透明度の設定。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>不透明 |
| 文字の縁取り | 文字の縁取りの設定。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックして、文字の縁取りを有効にします。 |
| デバイス名 | デバイス名を表示するかどうかを設定します。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてデバイス名を有効にします。 |
| PTZポジション | PTZカメラでのみ使用できます。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックして 有効にします。 |
| PTZアクション | | [設定方法]<br>ボタンをクリックして 有効にします。 |
| PTZ温度 | | [設定方法]<br>ボタンをクリックして 有効にします。 |

| パラメータ | 詳細 | 設定 |
|---|---|---|
| フォーカスの状態表示 | フォーカスの状態を表示します。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックして 有効にします。 |
| AMPM表示 | 時間形式はAMPMで表示されます。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックして 有効にします。 |
| 曜日表示 | 曜日を表示します。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックして 有効にします。 |

Step 3 「詳細設定」をクリックし、「時間形式」、「文字の色」、「文字の透明度」、「文字の縁取り」などのパラメータを設定します。
Step 4 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージと表示され、設定が保存されます。

----終了

# 5.6 音声入力(一部機種のみ対応)

## 説明

[音声入力]ページでは、音声入力モードと音量を設定できます。

## 手順

Step 1 [音声入力]ページでは、音声入力モードと音量を設定できます。

図5-7に示すように、「音声入力」ページが表示されます。表5-6ではパラメータについて説明します。

図5-7 音声入力ページ

表5-6 音声入力のパラメータ

| パラメータ | 詳細 | 設定 |
|---|---|---|
| 音声入力の有効化 | 音声入力機能を有効にするかどうかを示します。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックして音声入力を有効にします。 |
| 音声入力の種類 | 音声入力タイプには次のものがあります。ライン入力/内蔵マイク<br>音声入力が有効である必要があります。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。 |
| 音声入力音量 | 音声入力の音量を調整できます。 | [設定方法]<br>スライダーを左右にスライドさせます。<br>[初期値] 50<br>NOTE<br>値の範囲は0～100です。 |

Step 2 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

# 5.7音声出力 (一部機種のみ対応)

## 説明

[音声出力]ページでは、音声出力方法と音量を設定できます。

## 手順

Step 1 [設定]>[デバイス]>[音声出力]を選択します。

図5-8に示すように、「音声出力」ページが表示されます。表5-7ではパラメータについて説明します。

図5-8 音声出力ページ

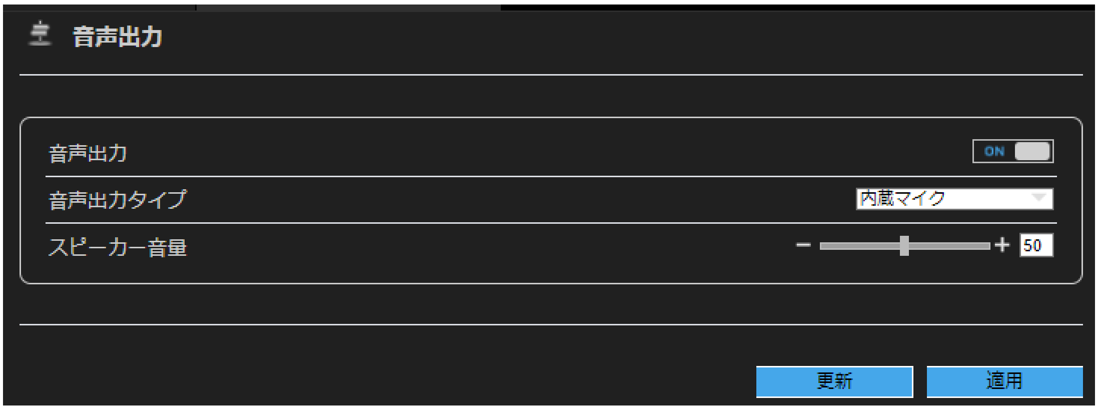



表5-7 音声出力のパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
| --- | --- | --- |
| 音声出力の有効化 | 音声出力機能を有効にするかどうかを示します。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックして音声出力を有効にします。 |
| 音声出力の種類 | スピーカーの種類には次のものがあります。<br>外部スピーカー<br>有効な音声出力デバイスが必要です。<br>内部スピーカーとは、カメラ自体のスピーカーを意味します。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。 |
| 音声出力音量 | 音声出力の音量を調整できます。 | [設定方法]<br>スライダーを左右にスライドさせます。<br>[初期値] 50<br>NOTE<br>値の範囲は0～100です。 |

Step 2 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

# 5.8 ドームPTZ (一部機種のみ対応)

## 説明

高速ドームカメラは外部キーボードに接続することができ、ユーザーはキーボードを使用してカメラのPTZメニューを制御できます。

## 手順

Step 1 [設定]>[デバイス]>[ドームPTZ]を選択します。

図5-9に示すように、ドームPTZページが表示されます。

図5-9 ドームPTZページ

Step 2 PTZアドレスを入力します。デフォルトは1です。

Step 3 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

## 5.9 CVBS機能 (一部機種のみ対応)

### 準備

ディスプレイデバイスをVIDEO OUTポートに接続します。

### 説明

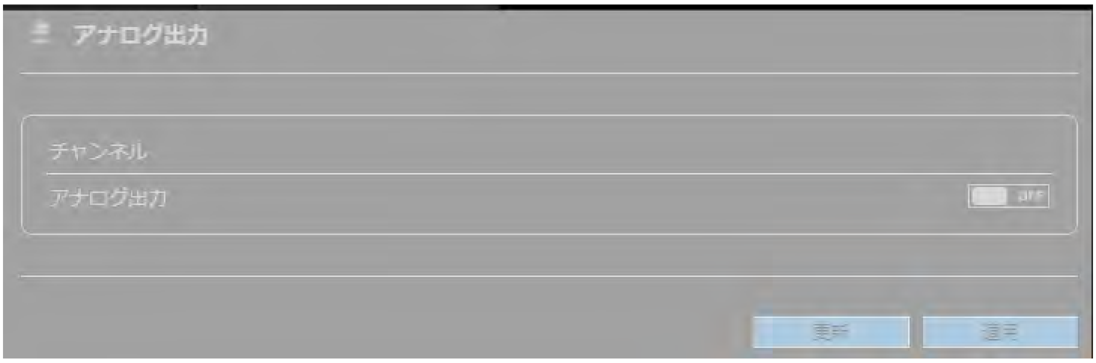
アナログ出力機能が有効な場合、IPカメラはVIDEO OUTポートを介してビデオサーバーまたはディスプレイデバイスにアナログ信号を送信できます。

### 手順

Step 1 [設定] > [デバイス] > [CVBS] を選択します。

図5-10に示すように、[CVBS]ページが表示されます。

図5-10 CVBSページ



Step 2 ボタンをクリックしてBNC映像出力を有効にします。

Step 3 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

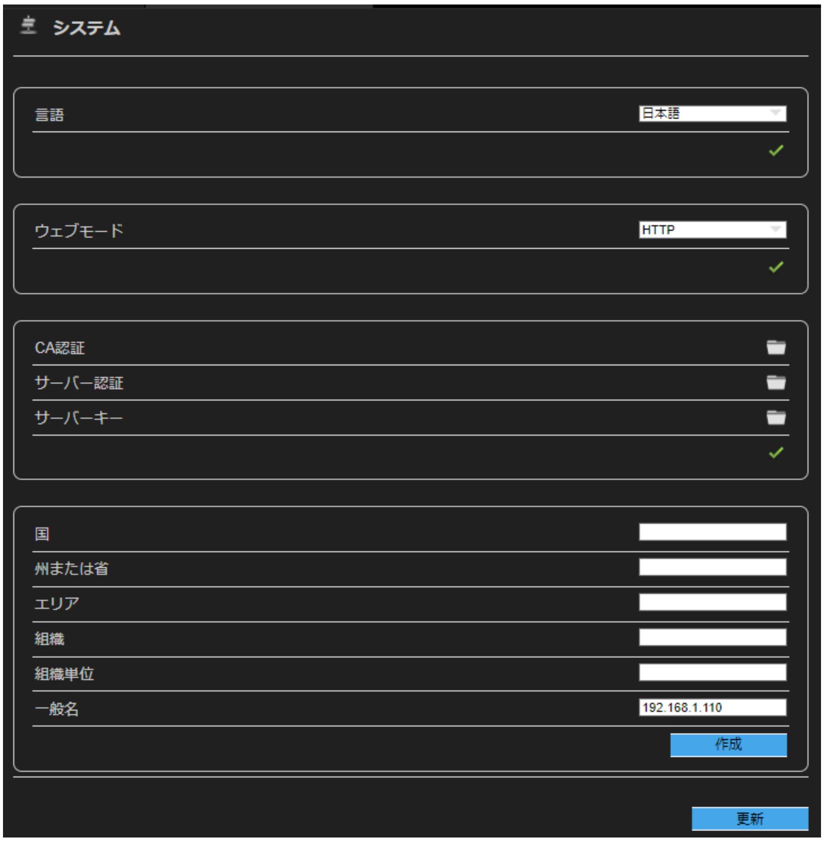
# 5.10 システムサービス

## 手順

Step 1 [設定] > [デバイス] > [システム] を選択します。

図5-11に示すように、[システム]ページが表示されます。

図5-11 システムサービスページ




Step 2 [言語]ドロップダウンリストボックスから言語を選択します。

Step 3 をクリックすると「適用成功」のメッセージが表示されます。

Step 4 「OK」をクリックすると、設定が保存されます。

Step 5 [Webモード]ドロップダウンリストボックスからWebモードを選択します。

Step 6 をクリックすると、「この操作によりデバイスが再起動されます。続行しますか?」というメッセージが表示されます。

Step 7 [OK]をクリックすると、デバイスが再起動し、設定が自動的に保存されます。

Step 8 ローカルフォルダーからCA証明書、サーバー証明書、サーバー証明書、サーバーキーを選択します。

Step 9 をクリックして証明書を更新します。

----終了

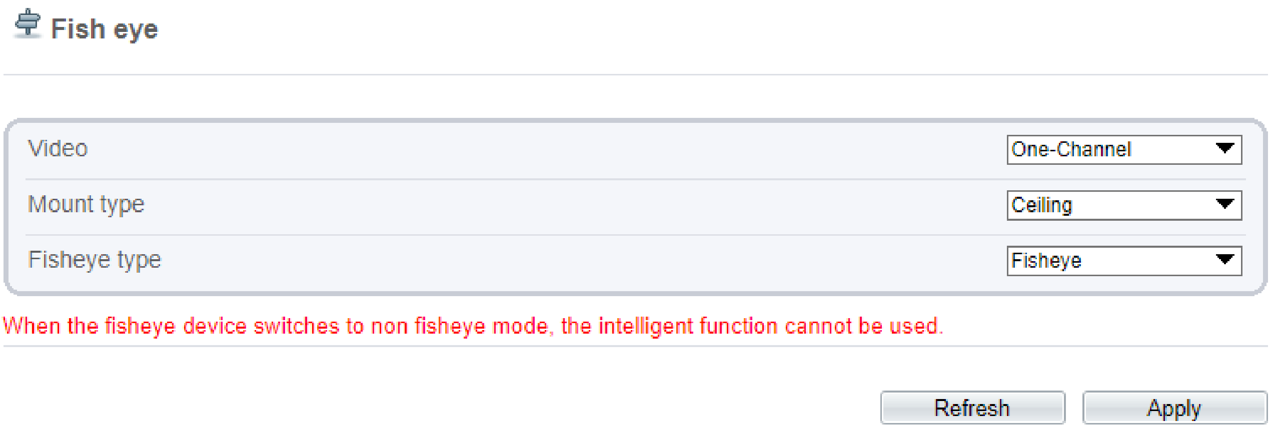
# 5.11 フィッシュアイ (一部機種のみ対応)

## 手順

Step 1 [設定] > [デバイス] > [フィッシュアイ] をクリックします。

図5-12に示すように、[フィッシュアイ]ページが表示されます。

図5-12 フィッシュアイページ




Step 2 ビデオモードを選択します。
1チャネル(4PTZフィッシュアイタイプの場合、リアルタイム映像は4つの画像が表示されます。)または、マルチチャネル(4PTZフィッシュアイタイプの場合、リアルタイム映像は1つの画像が表示されます)を選択します。ビデオモードを切り替えると、デバイスがリセットされます。

Step 3 マウントタイプをお選びください。横向き、下向き、上向きの3種類があります。

Step 4 フィッシュアイタイプを選択します。

1チャンネルのフィッシュアイタイプには次のものがあります。

・フィッシュアイ:オリジナル360°、サラウンド画像。インテリジェント分析機能はこのタイプのみで使用できます。

・ダブルパノラマ：ダブル180°パノラマ画像。

・4PTZ:4分割画像でデワープ表示します。

・シングルパノラマ:シングル180°パノラマ画像。

・フィッシュアイ+3PTZ:360°サラウンド+3デワープ画像。

・マルチチャンネルフィッシュアイタイプには、4PTZおよびフィッシュアイ+3PTZが含まれます。

Step 5 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

# 5.12 音声ノイズ削減 (一部機種のみ対応)

## 説明

[音声ノイズ除去]ページでは、音声ノイズ除去を有効にして、内蔵マイクに対する外部環境ノイズの影響を軽減できます。

## 手順

Step 1 [設定]>[デバイス]>[音声ノイズ除去]を選択します。

図5-13に示すように、[音声ノイズ除去]ページが表示されます。

図5-13 音声ノイズ削減ページ

Step 2 [音声ノイズ除去]ボタンをクリックして、音声ノイズ除去を有効にします。

Step 3 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

# 5.13 ソフトウェアライセンス

## 手順

Step 1 [構成] > [デバイス] > [ソフトウェア ライセンス] をクリックします。

図 5-14 に示すように、[ソフトウェア ライセンス] ページが表示されます。

図5-14 ソフトウェアライセンスページ

Step 2 [ライセンスの表示]をクリックすると、オープンソース ソフトウェアのライセンスを表示できます。

----終了

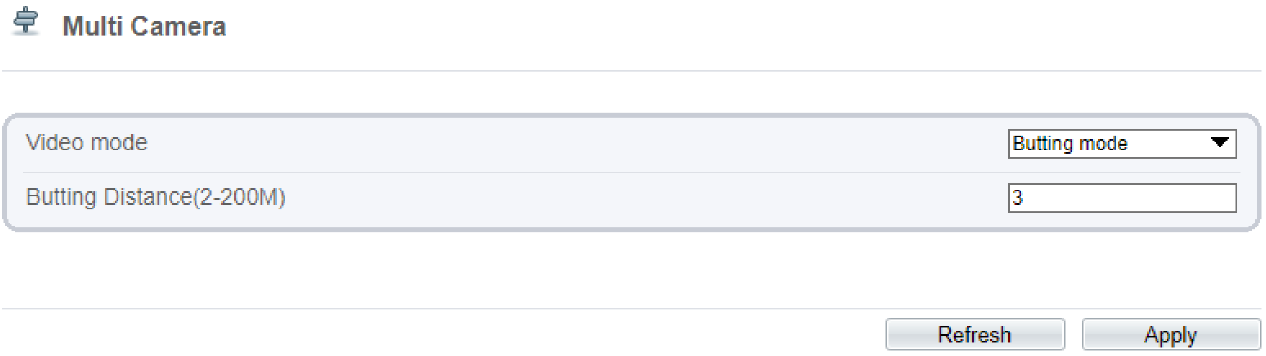
# 5.14 マルチチャンネル (一部機種のみ対応)

## 手順

Step 1 [設定] > [デバイス] > [マルチチャネル] をクリックします。

図5-14に示すように、[マルチチャンネル]ページが表示されます。

図5-15 マルチチャンネルページ




Step 2 ビデオモード、バッティングモード、またはマルチチャンネルを選択します。

バッティングモードは、リアルタイム映像が2つのレンズの統合画像であることを示します。

マルチチャンネルとは、カメラに2つのチャンネルがあり、2つのレンズの画像が独立していることを示します。

Step 3 距離を設定します。これは、2つのレンズの画像がこの距離位置で自然に統合されることを示します。

Step 4 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

# 6 外部デバイスの設定

外部PTZは一部の機種にのみに対応しています。

## 説明

IPカメラが外部PTZに接続されている場合、PTZプロトコル、PTZアドレス、ボーレート、データビットなどの外部PTZパラメータを設定できます。

**CAUTION**

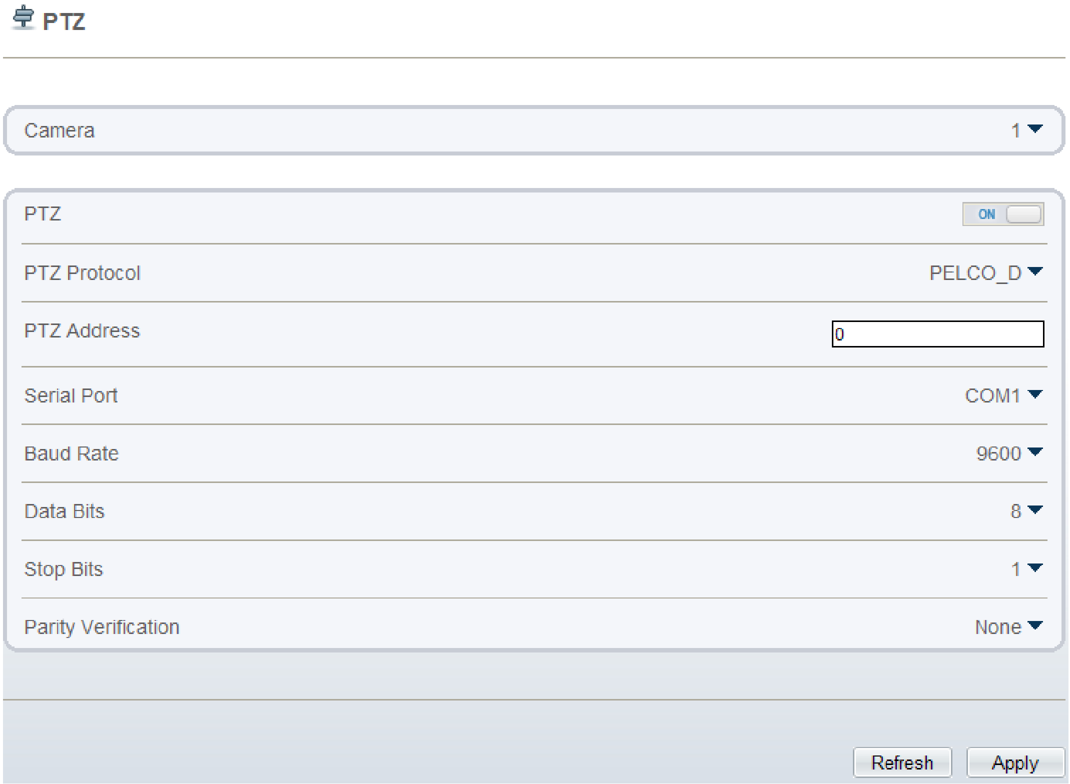
この機能は、外部PTZに接続されたカメラでのみ使用できます。PTZアドレスは外部PTZのアドレスに設定する必要があります。そうしないと、外部PTZは使用できません。

## 手順

Step 1 [設定] > [外部デバイス] > [PTZ] を選択します。

図6-1に示すように、PTZページが表示されます。

図6-1 PTZページ




Step 2 図6-1に示すように、PTZページが表示されます。

表6-1 PTZのパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| PTZ | デバイスが外部PTZに接続している場合は、この機能を有効にします。<br>NOTE<br>IPドームカメラの場合、このチェックボックスは淡色表示になります。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてPTZ設定を有効にします。 |
| PTZプロトコル | PELCO_DやPELCO_Pなどの外部PTZによって使用されるプロトコル。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>NOTE<br>外部PTZパラメータが設定されている場合、これらのパラメータは外部PTZの設定と一致する必要があります。 |
| PTZアドレス | 外部PTZのアドレス。 | |
| シリアルポート | デフォルト値はCOM1です。 | |
| ボーレート | 外部PTZで使用されるボーレート。値の範囲は300ビット/秒～115200ビット/秒です。デフォルト値は4800ビット/秒です。 | |
| データビット | 値は、外部PTZで使用される設定と一致する必要があります。4～8の範囲の値に設定できます。通常、値は8です。 | |
| 停止ビット | N/A | |
| パリティ検証 | N/A | |

Step 3 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

**----終了**

# 7 高度AI分析

## 7.1 火災検知 (一部機種のみ対応)

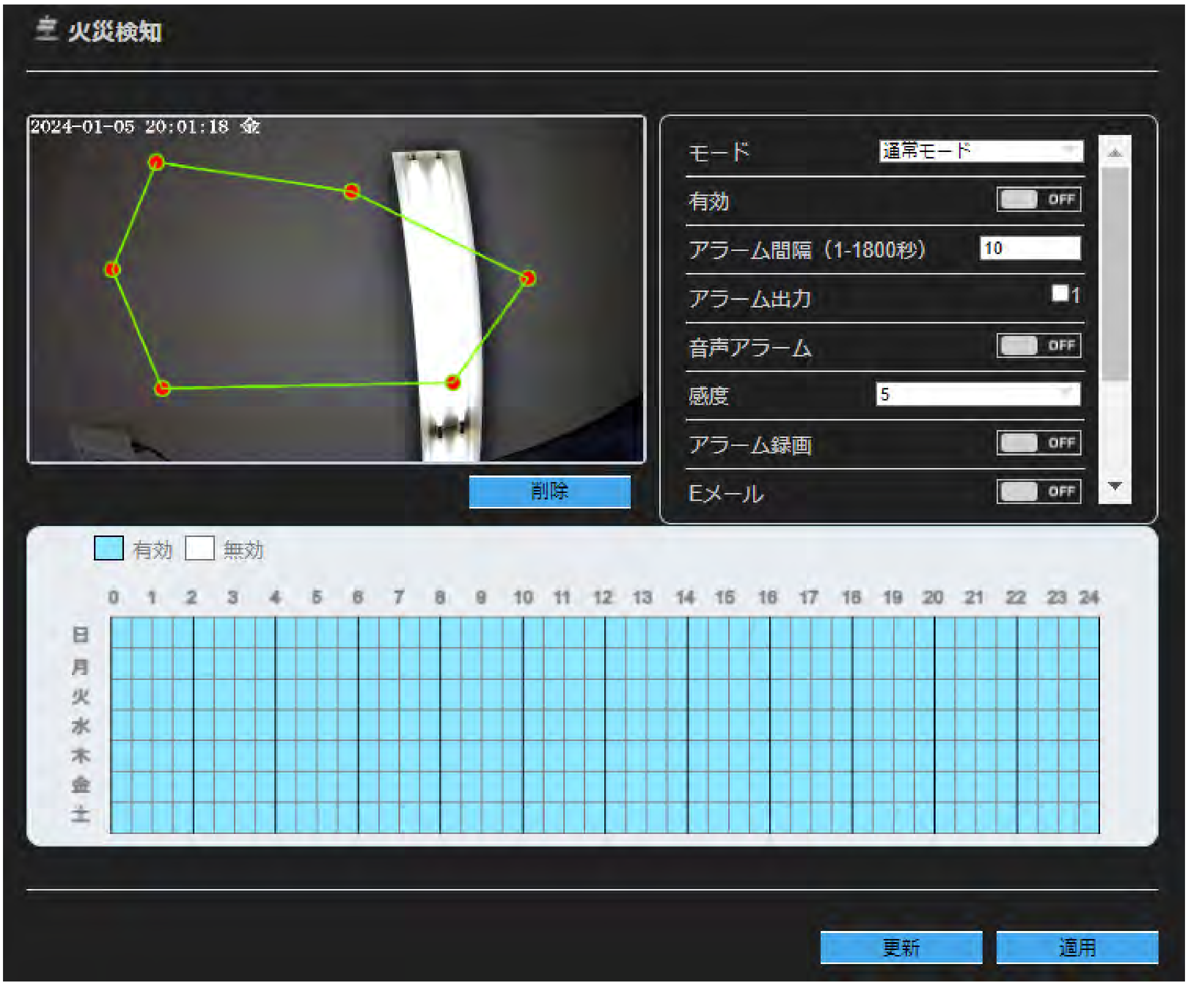
### 説明

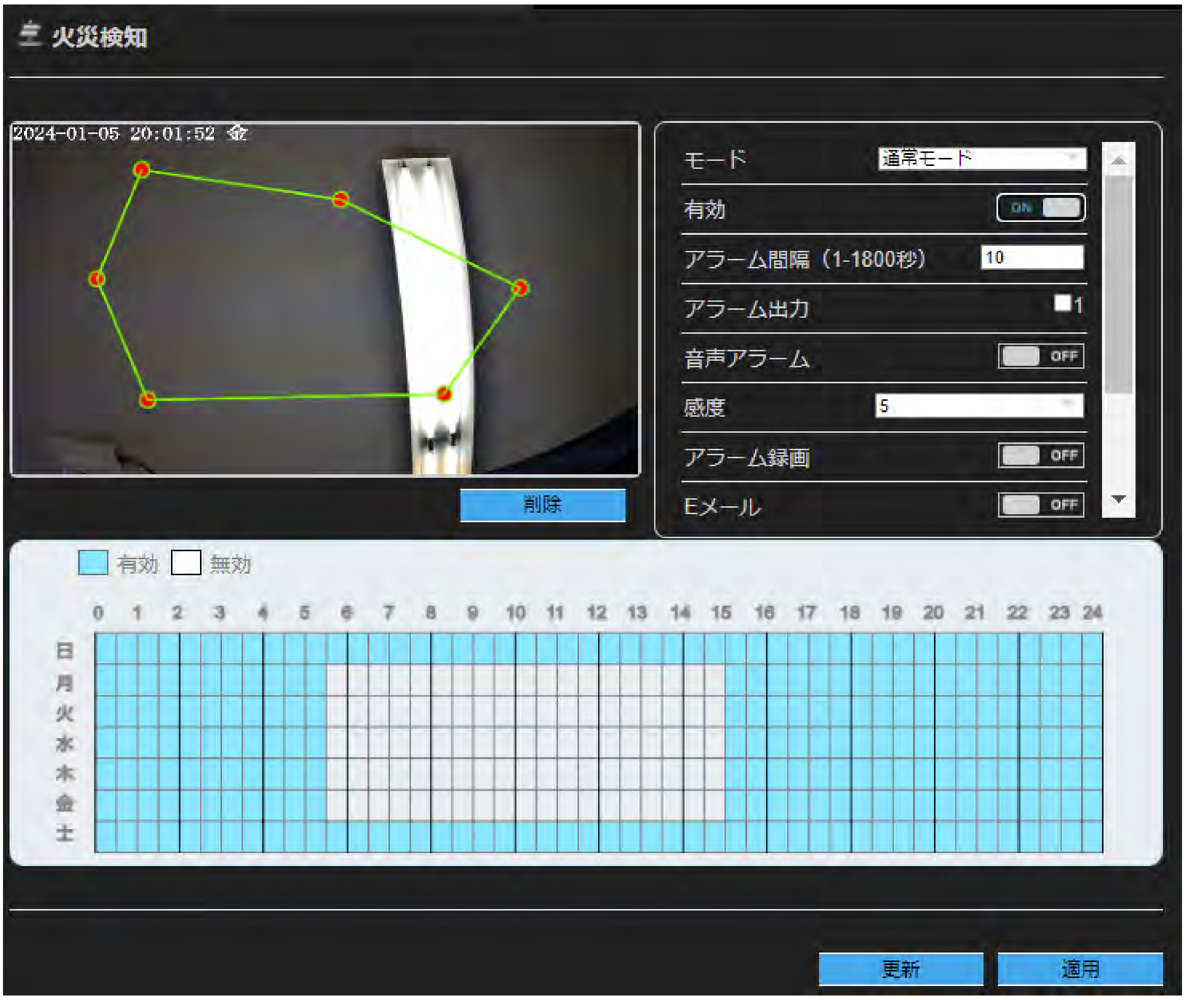
火災検知機能とは、設置場所で誰かが喫煙したり、炎を発生させたりした場合に警報を発する機能です。

### 手順

Step 1 図7-1に示すように、[設定]>[高度AI分析]>[火災検知]を選択して、火災検知インターフェースにアクセスします。

図7-1 火災検知ページ






Step 2 火災検知に関するすべてのパラメータを設定します。表7-1では、特定のパラメータについて説明します。

表7-1 火災検知パラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| モード<br>(PTZカメラのみ) | 通常モードとプリセットポイントモードの2つのモードを選択できます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値] 通常モード |
| プリセットポイント | プリセットポイントモードを選択する場合は、事前に設定されているものを選択してください。 | --- |
| 有効化 | サーマルチャネルで、ボタンを有効にしてアラームを有効にします。 | [設定方法]<br>有効にするには、「有効化」をクリックします。<br>[初期値] **OFF** |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| 出力チャンネル | 出力チャンネルの設定にチェックを入れ、デバイスが外部アラームインジケーターに接続されている場合、アラームがトリガーされるとアラームインジケーターが信号を送ります。 | [設定方法]<br>クリックしてIDを選択します。 |
| 音声アラーム | 有効にすると、アラームが発生したときに音声が再生されます。<br>音声アラームファイルを選択します（「設定>アラーム>音声アラーム出力」で設定）。 | [設定方法]<br>クリックしてアラーム音を有効にします。<br>[初期値] **OFF** |
| 感度 | 喫煙者を検知する感度。値が高いと警報が鳴りやすくなりますが、精度は低くなります。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値] **5** |
| アラーム録画 | ユーザーがカメラにSDカードを取り付けている場合;<br>アラームが発生したときにアラームを記録するようにします。 | [設定方法]<br>クリックしてアラーム録画を有効にします。<br>[初期値] **OFF** |
| SMTP | SMTPサーバーを有効にするボタンを有効にします。 | [設定方法]<br>クリックしてSMTPを有効にします。<br>[初期値] **OFF** |
| FTPアップロード | ファイル転送プロトコルを有効にするボタンを有効にします。 | [設定方法]<br>クリックしてFTPアップロードを有効にします。<br>[初期値] **OFF** |
| 白色LEDアラーム | カメラには白色光またはデュアルライトが搭載されている必要があります。<br>アラームが作動されると、デバイスは白色LEDが点灯します。 | [設定方法]<br>クリックして白色光アラームを有効にします。<br>[初期値] **OFF** |
| 赤青フラッシュアラーム | カメラには赤青フラッシュが搭載されていることが必要です。<br>アラームが作動すると、デバイスは赤色の光と青色の光が交互に点滅します。 | [設定方法]<br>赤と青の光アラームを有効にします。<br>[初期値] **OFF** |

Step 3 検知エリアを設定します。カーソルを描画インターフェースに移動させ、クリックして点を生成し、カーソルを移動させて線を描画し、クリックして別の点を生成します。この手順でエリアが生成されます。このように線を描き続けて任意の形を作り、右クリックでエリアの描画を終了します。

**NOTE**

・描いた線が別の線と交差できない場合、線の描画は失敗します。
・最大32辺の任意の形状を描くことができます。
・検知エリア数は最大8です。

Step 4 検知エリアを設定します。

有効アイコン 有効 をクリックして、スケジュールを設定します。無効アイコン 無効 をクリックして、スケジュールを設定します。

**方法1：**マウスの左ボタンをクリックして、月曜日から日曜日までの0:00～24:00内の任意の時刻を選択します。

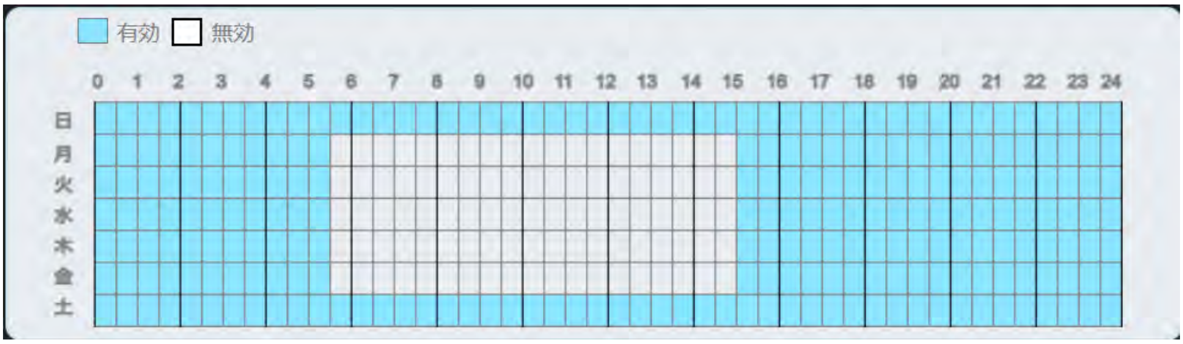
**方法2：**マウスの左ボタンを押したままドラッグしてマウスを放し、月曜日から日曜日までの0:00～24:00の範囲でスケジュールを選択します。

スケジュールの削除: 無効 をクリックして、選択したスケジュールを削除します。方法はスケジュールの設定と同じです。

**NOTE**

・カーソルをドラッグして時間を選択する場合、カーソルを時間エリアの外に移動することはできません。それ以外の場合は時間を選択できません。

図7-2 スケジュール設置ページ




Step 5 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

**----終了**

# 8 AI分析の設定

## 8.1 侵入検知

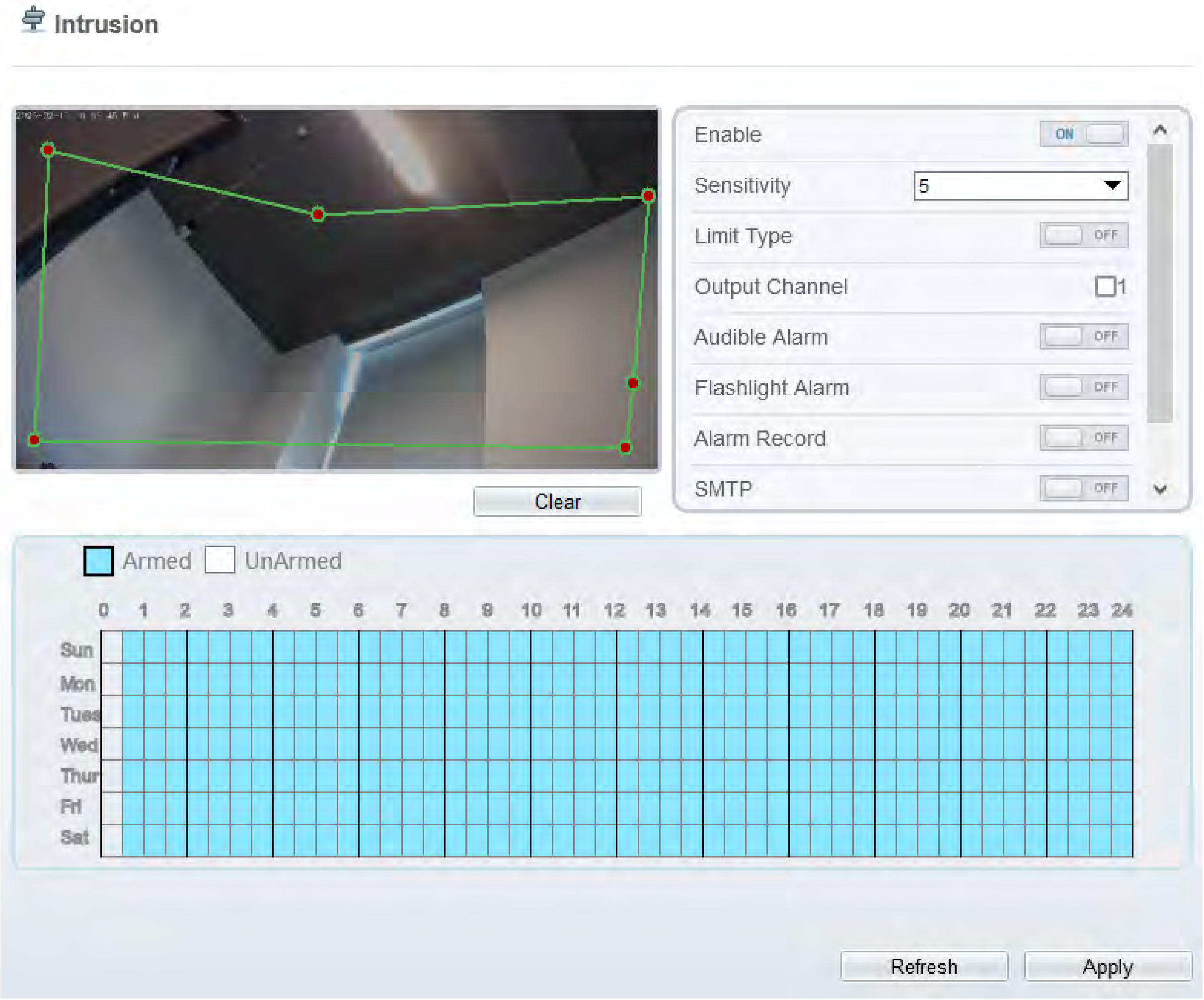
### 説明

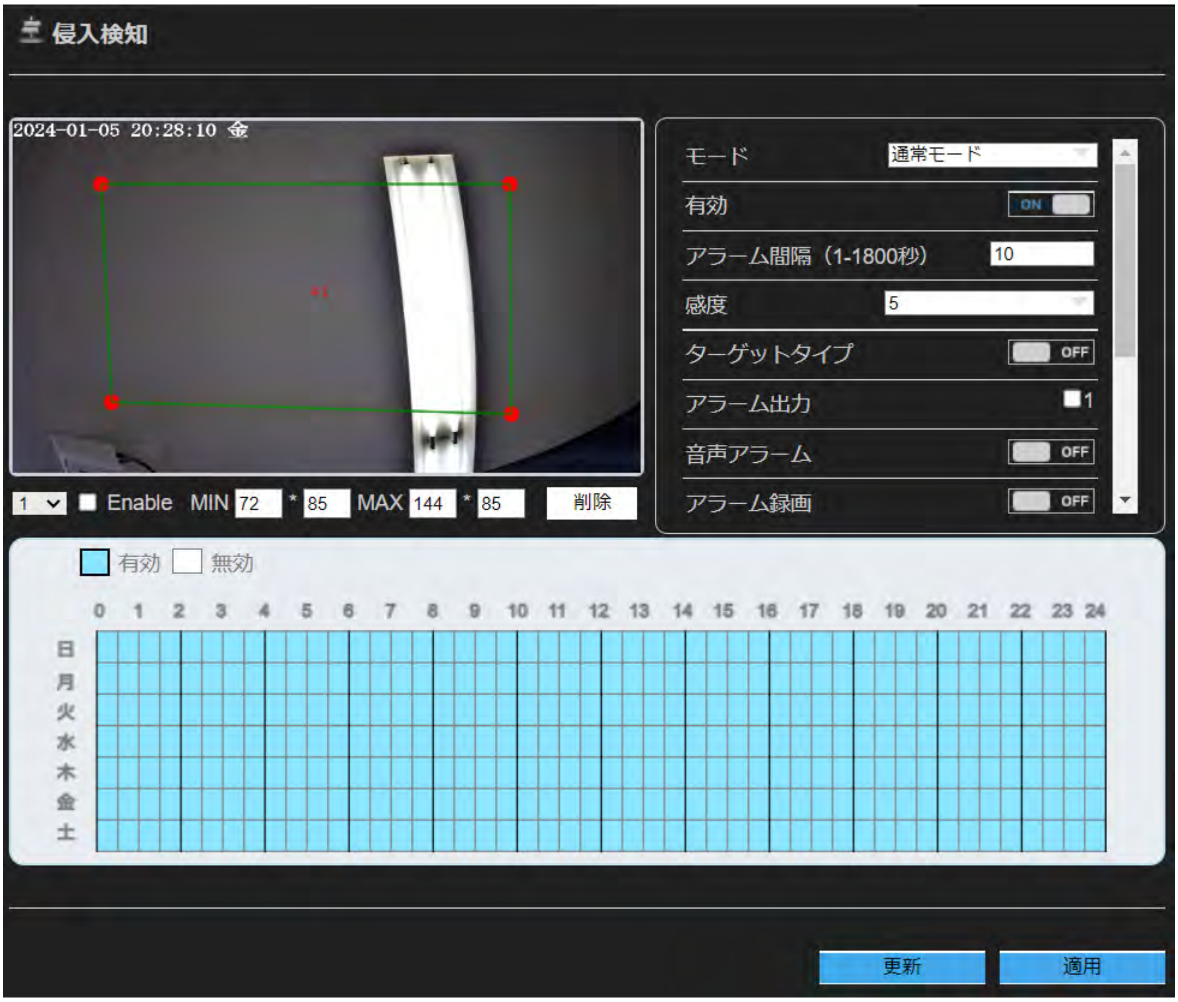
侵入検知機能とは、対象物（人、車、人と車の両方）が警戒エリア内に侵入した場合に警報を発する機能を指します。

### 手順

Step 1 図8-1に示すように、[AI分析]>[侵入検知]を選択して、[侵入検知]インターフェースにアクセスします。

図8-1 侵入検知設定ページ






Step 2 侵入検知のすべてのパラメータを設定します。表8-1に具体的なパラメータを示します。

表8-1 侵入検知パラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| モード（PTZカメラにのみ対応） | 通常モードとプリセットポイントモードの2つのモードを選択できます。プリセットポイントモードを選択する場合は、事前にプリセットを設定してください。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値]<br>通常モード |
| 有効化 | ボタンを有効にしてアラームを有効にします。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] **OFF** |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| 感度 | ターゲットを検出する感度。値が高いとターゲットを検出しやすくなりますが、精度は低くなります。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値]<br>**5** |
| ターゲットタイプの制限 | タイプドロップダウンリストから制限タイプ（人または車/人/車）を選択できるようにします。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] **OFF** |
| 出力チャンネル | 出力チャンネルの設定にチェックを入れ、デバイスが外部アラームデバイスに接続されている場合、アラームが作動するとアラームデバイスが信号を送ります。一部の機種のみに対応しています。 | [設定方法]<br>クリックしてIDを選択します。 |
| 音声アラーム | 有効にすると、アラームが発生したときに音声が再生されます。<br>「設定>アラーム>音声アラーム出力」からアラーム音声ファイルを選択します。 | [設定方法]<br>クリックして音声検出アラームを有効にします。<br>[初期値] **OFF** |
| フラッシュライトアラーム | フラッシュライトアラームを有効にすると、アラームが作動するとフラッシュライトが点滅します。一部の機種のみ対応しています。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] **OFF** |
| アラーム録画 | ボタンを有効にしてアラーム録画を有効にします。 | [設定方法]<br>クリックしてアラーム録画を有効にします。<br>[初期値] **OFF** |
| SMTP | SMTPサーバーを有効にするボタンを有効にします。詳細については、第14.5章をご参照ください。 | [設定方法]<br>クリックしてSMTPを有効にします。<br>[初期値] **OFF** |
| FTPアップロード | ファイル転送プロトコルの有効化ボタンを有効にします。詳細については、14.6章をご参照ください。 | [設定方法]<br>クリックしてFTPアップロードを有効にします。<br>[初期値] **OFF** |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| ホワイトライトアラーム | デイナイトモードがないとモードで、ライトが”赤外線”または”なし”の場合、この動作は有効です。<br>白色光アラームを有効にすると、アラームが動作すると白色光が点灯します。一部の機種のみに対応しています。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] **OFF** |
| ホワイトフラッシュアラーム | カメラには白色光またはデュアルライトが必要です。<br>アラームが作動すると、デバイスは白色LEDライトが点滅します。 | [設定方法]<br>クリックして白色光アラームを有効にします。<br>[初期値] **OFF** |
| 赤青フラッシュアラーム | カメラには赤青LEDが搭載されている必要があります。<br>アラームが作動すると、赤と青の光が交互に点滅します。 | [設定方法]<br>赤と青の光アラームを有効にします。<br>[初期値] **OFF** |

Step 3 検知エリアを設定します。

カーソルを描画インターフェースに移動させ、クリックして点を作成し、カーソルを移動させて線を描画し、クリックして別の点を作成します。このようにして、ラインを描き続けて任意のエリアを形成し、右クリックしてラインの描画を終了します。図8-2をご参照ください。

図8-2 エリア設定ページ

**NOTE**

- 描いたラインが別のラインと交差できない場合、ラインの描画は失敗します。
- 最大8辺の任意のエリアを描くことができます。
- 設定できるエリア数は最大8つまでです。

Step 4 スケジュールを設定します。詳細については、7.1step4をご参照ください。

Step 5 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

# 8.2 ラインクロス検知

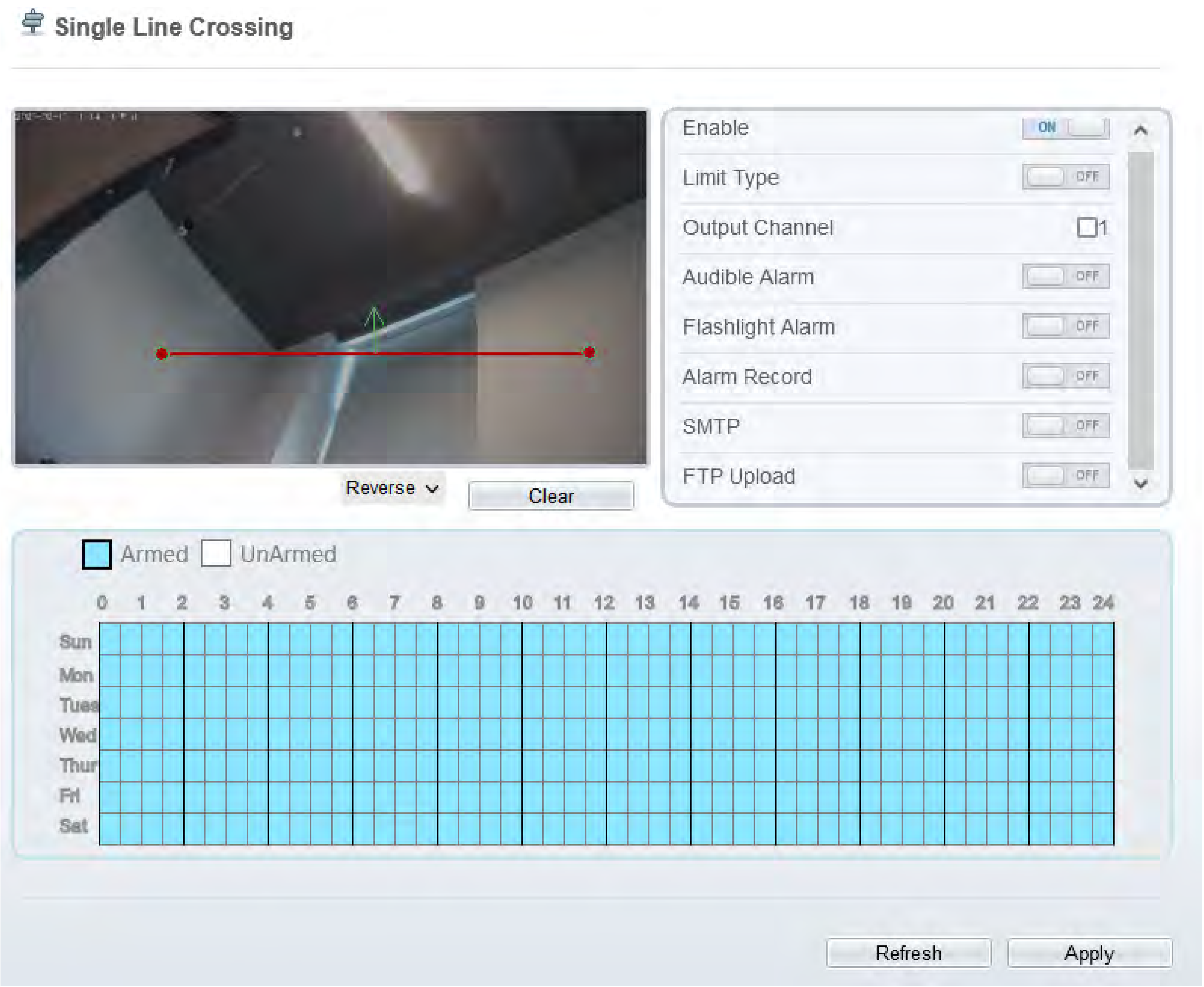
## 説明

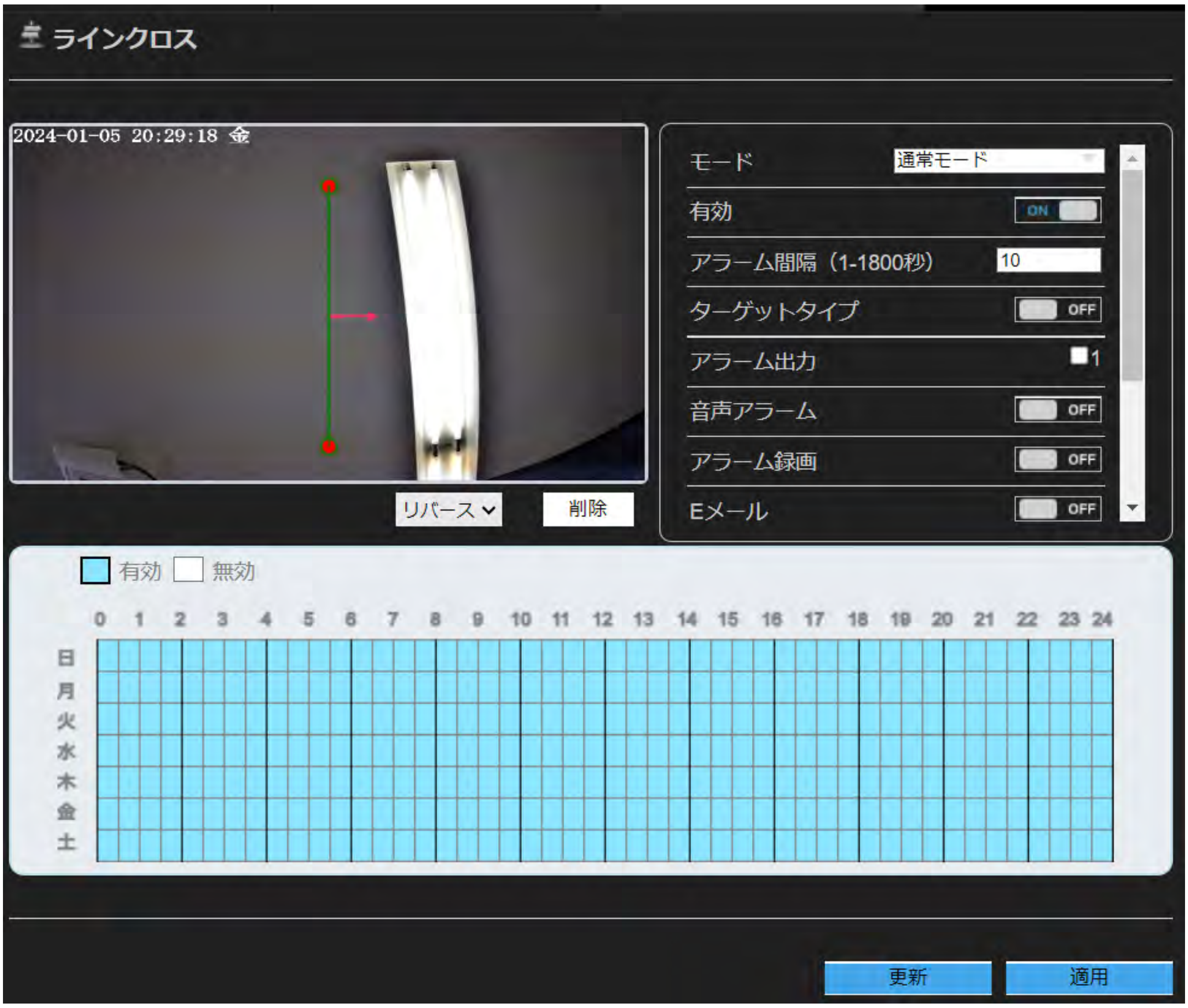
ラインクロスとは、監視エリア内の任意の位置に設定でき、進行禁止方向を指定する線であり、対象物（人や車など）がこのを越えるとアラームが作動します。

## 手順

Step 1 図8-3に示すように、[AI分析]>[ラインクロス検知]を選択して、ラインクロス設定インターフェースにアクセスします。

図8-3 ラインクロス検知設定ページ





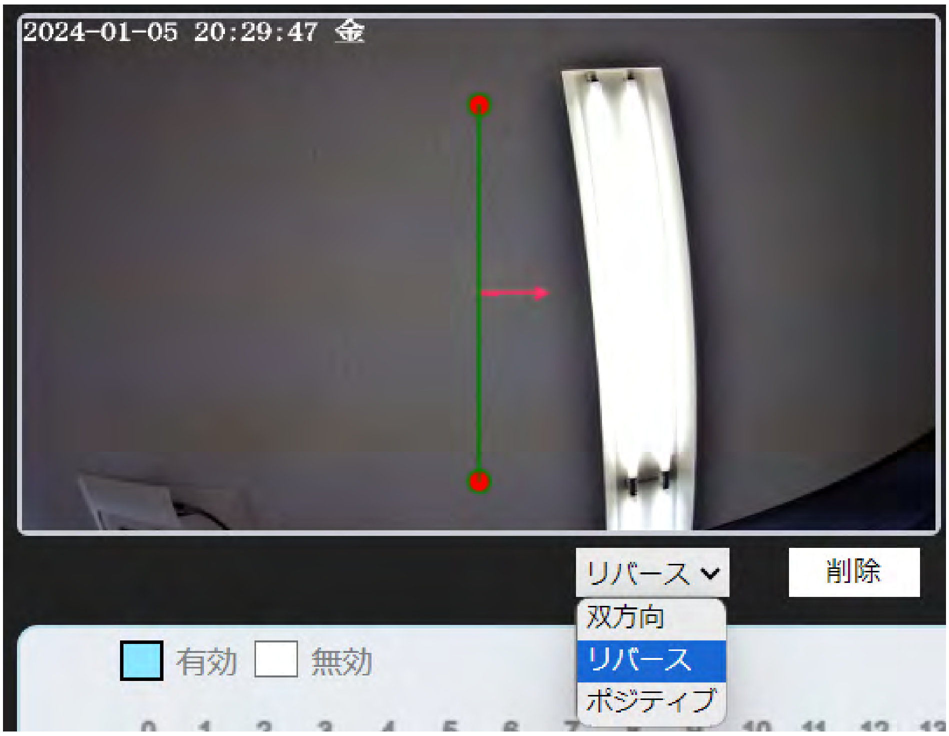

Step 2 ラインクロスのすべてのパラメータを設定します。7.1step2をご参照ください。

Step 3 検知エリアを設定します。

**ラインの描画:** カーソルを描画インターフェースに移動させ、マウスの左ボタンを押したままカーソルを移動して線を描画します。マウスの左ボタンを放すと、1本のラインが作成されます。

**ラインクロスの設定:** 線をクリックして(警戒ラインが赤に変わります)、ラインクロスの線を選択し、その方向を正、逆、または双方向に設定するか、選択した線を削除します。また、ラインクロスの終点でマウスの左ボタンを押したままマウスを移動させ、このラインクロスの位置と長さを変更することもできます。図8-4に示すように、右クリックしてラインを削除できます。

図8-4 エリア設定ページ




**NOTE**

・画面上にターゲットが出現してから認識に時間がかかり、オブジェクトが警戒ラインを越えたと認識した場合にのみアラームが発生するため、警戒ラインは中央に描くようにしてください。
・人の足を認識対象とするラインクロスは、短いと認識対象を見逃しやすいため、短すぎることはできません。

Step 4 スケジュールを設定します。詳細については、7.1step4をご参照ください。

Step 5 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

# 8.3 二重ラインクロス

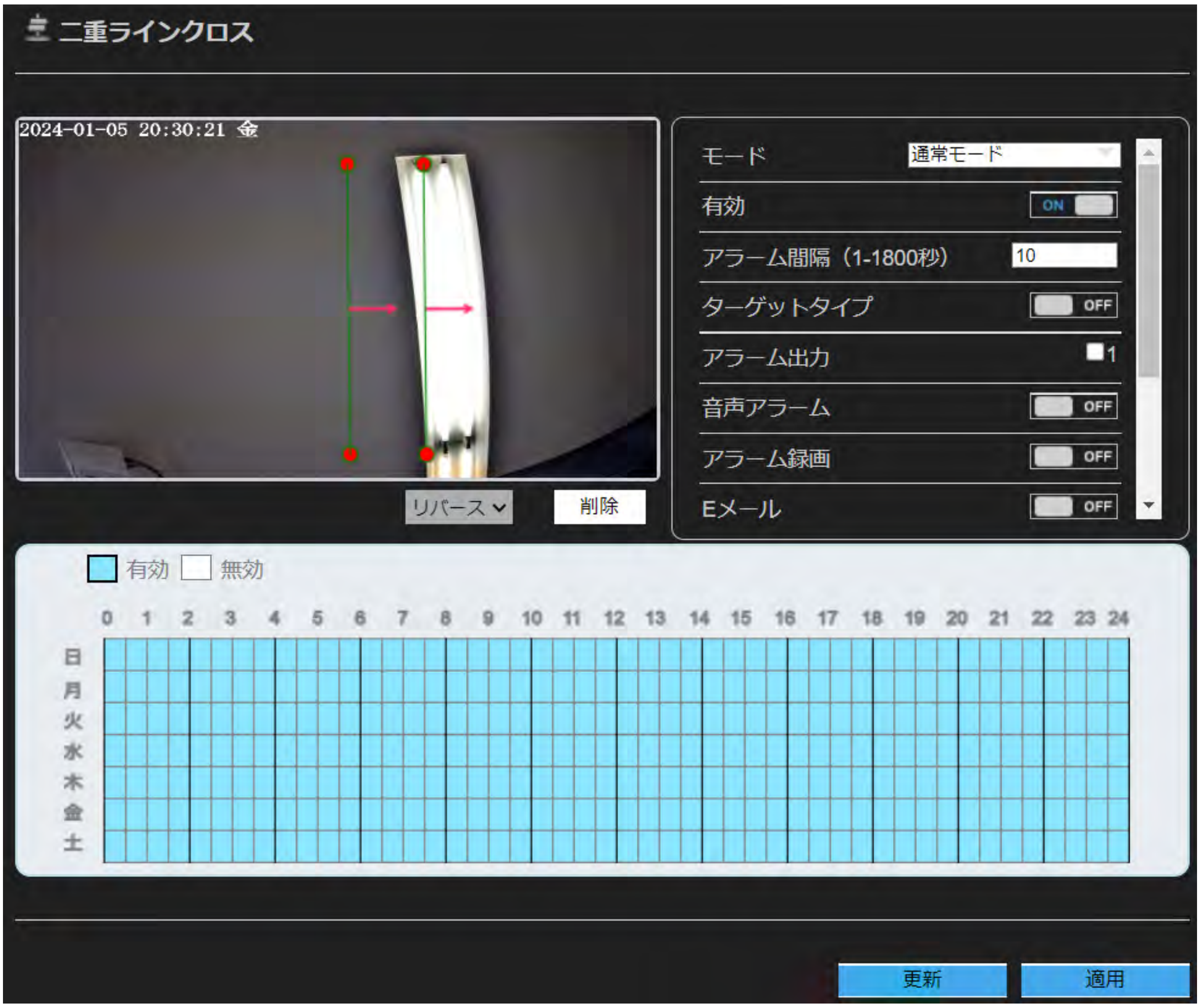
## 説明

二重ラインクロスとは、視野内の任意の位置に設定され、禁止された進行方向を指定する2本の線を指します。対象物体（人や車など）が設定された進行方向に沿って移動し、通過最大時間内に特定の順序（ライン1、ライン2）でラインを横切ると、アラームが作動します。

## 手順

Step 1 図8-5に示すように、[AI分析]>[二重ラインクロス]を選択して、二重ラインクロス設定インターフェースにアクセスします。

図8-5 二重ラインクロス設定インターフェース



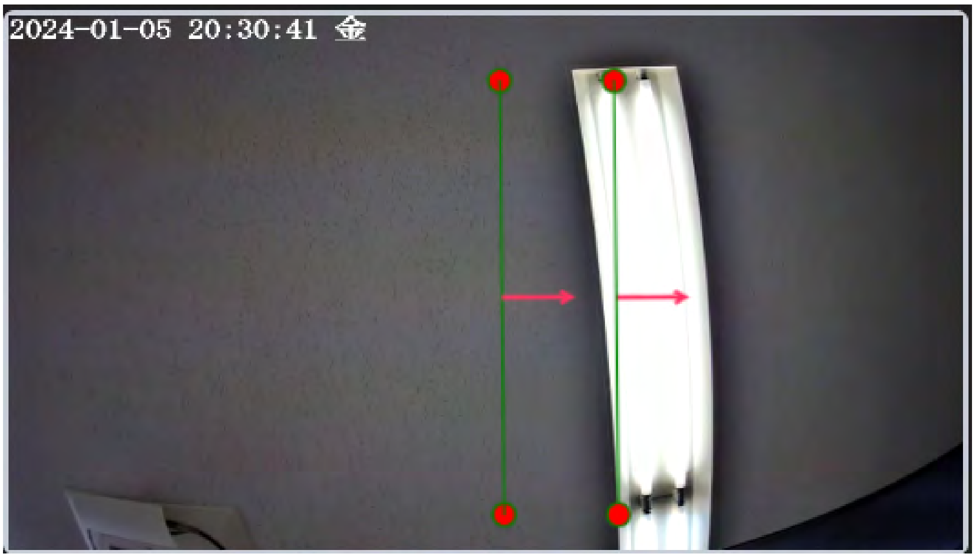

Step 2 二重ラインクロスのすべてのパラメータを設定します。7.1step2をご参照ください。

Step 3 検知エリアを設定します。

**ラインの描画:**カーソルを描画インターフェースに移動させ、マウスの左ボタンを押したままカーソルを移動させて2本の線を描画します。マウスの左ボタンを放すと、番号が付けられた2つのラインが作成されます。二重ラインクロスのいずれかを選択して、方向を正または逆に設定します。

**二重ラインクロスの設定:** 二重ラインクロスの1つをクリックして(警戒ラインが赤に変わります)、警戒ラインを選択し、方向を正または逆に設定するか、選択した線を削除します。ラインの終点でマウスの左ボタンを押したままマウスを移動させて、ラインの位置と長さを変更することもできます。図8-6に示すように、右クリックしてラインを削除できます。

図8-6 エリア設定ページ




NOTE

・2つの警戒ラインは順番に並んでいます。設定された最大通過時間内にターゲットが警戒ライン1を通過し、次に警戒ライン2を通過した場合にのみアラームが発生します。
・画面上にターゲットが出現してから認識に時間がかかり、二重ラインクロスを越えたと認識した場合のみアラームが発生するため、中央に交差する二重線を描くようにしてください。
・認識対象として人の足を検出する二重ラインクロスは、短いと認識対象外になりやすいため、短すぎてはいけません。
・二重ラインクロスは手動で方向を変更することはサポートされていません。[反転]を選択すると方向を変更できます。

Step 4スケジュールを設定します。詳細については、7.1step4をご参照ください。

Step 5 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

## 8.4 滞留検知

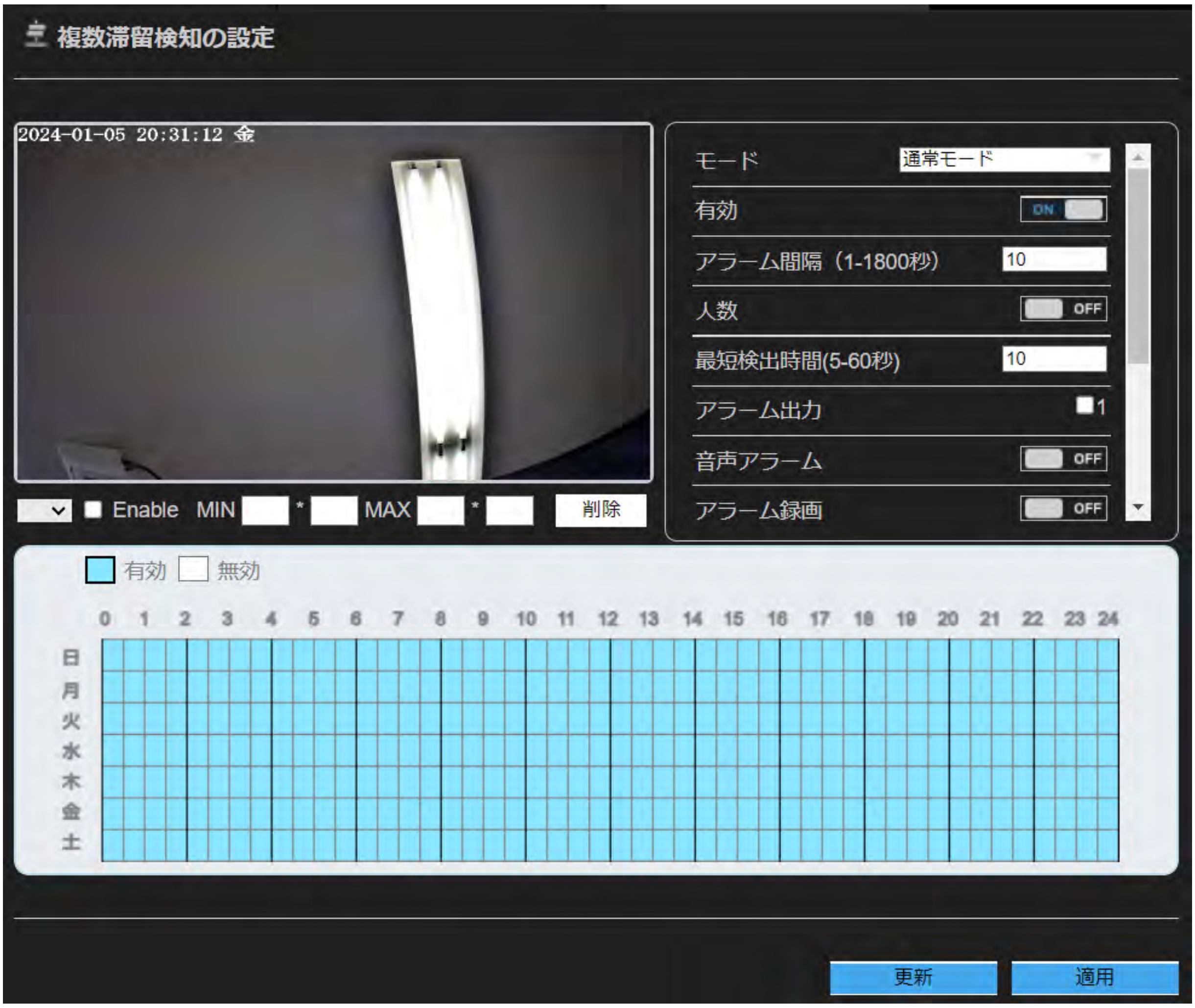
### 説明

滞留検知では、視野内の検知エリア内で指定された種類の複数のターゲット(人や車など)の最短徘徊時間を設定できます。このエリア内の複数のターゲットの徘徊時間が、設定された最短徘徊時間を満たすと、アラームが作動します。

### 手順

Step 1 図8-7に示すように、[AI分析]>[滞留検知]を選択して、滞留検知設定インターフェースにアクセスします。

図8-7 滞留検知設定ページ

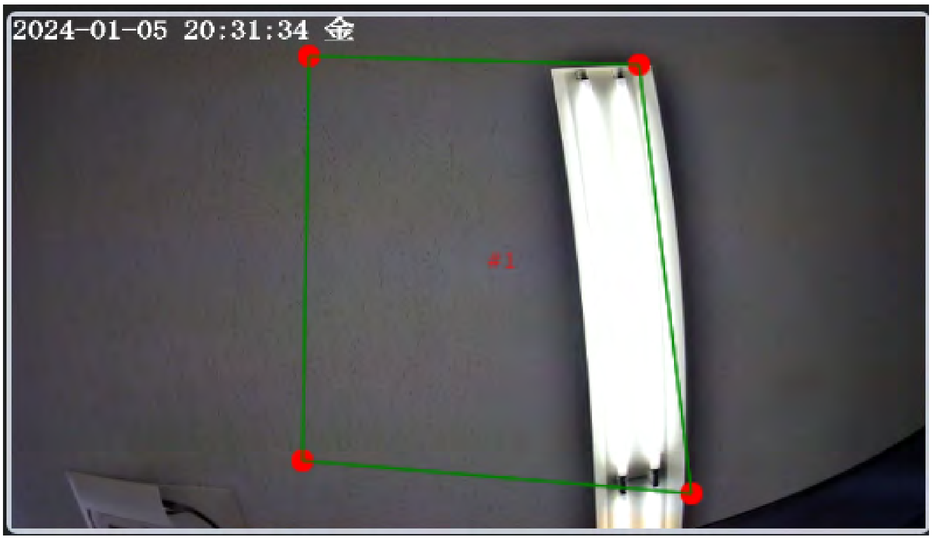



Step 2 滞留検知のすべてのパラメータを設定します。7.1step2をご参照ください。

Step 3 検知エリアを設定します。

カーソルを描画インターフェースに移動させ、クリックして点を作成し、カーソルを移動して線を描画し、クリックして別の点を作成します。このようにしてラインが作成されます。このようにして、図8-8に示すように、線を描画して任意のエリアを作成し、右クリックして線の描画を終了します。

図8-8 エリア設定ページ




NOTE

・描いたラインが別のラインと交差できない場合、ラインの描画は失敗します。
・最大8辺の任意のエリアを描くことができます。
・設定できるエリア数は最大8つまでです。

Step 4 スケジュールを設定します。詳細については、7.1step4をご参照ください。

Step 5 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

# 8.5 逆走検知

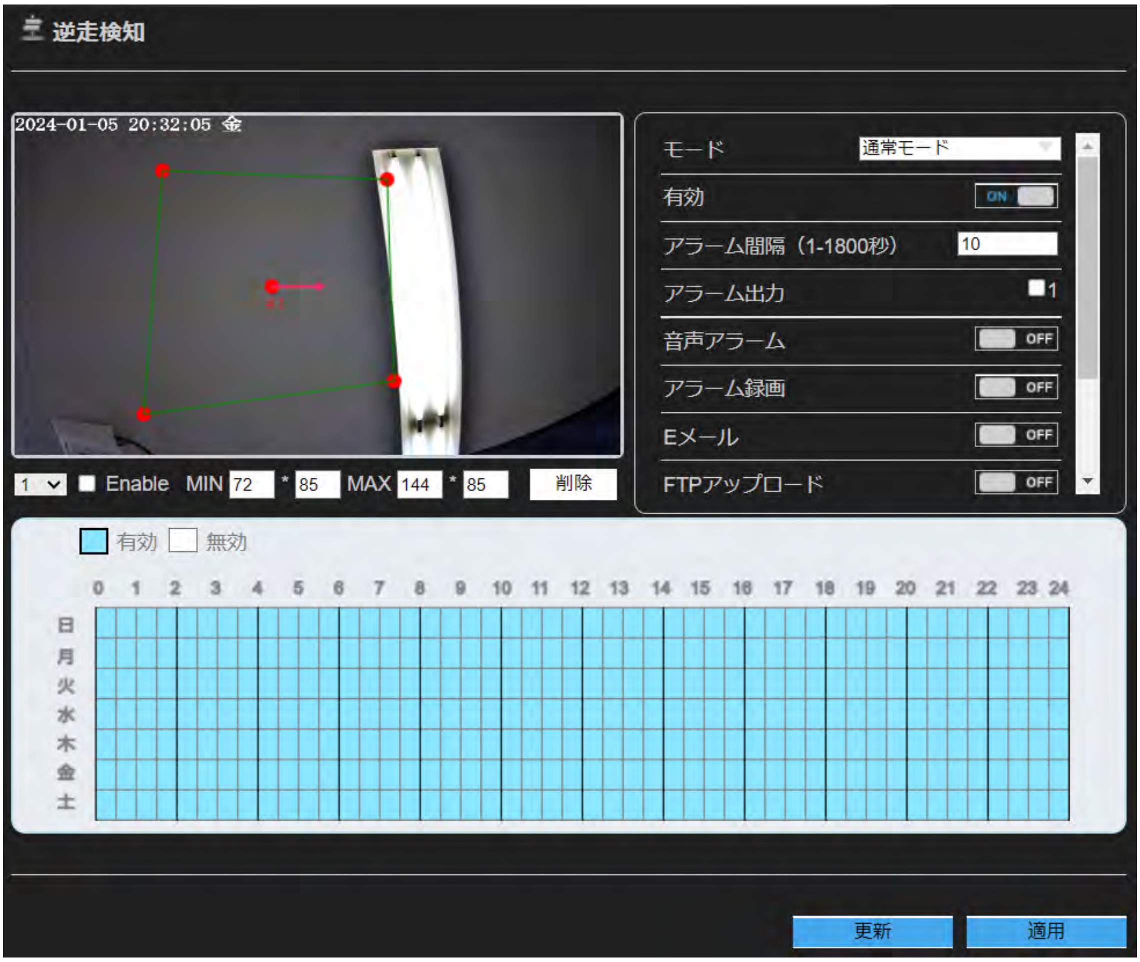
## 説明

逆走検知では、映像画面上のエリア内のターゲットの移動方向の基準を設定できます。このエリア内の特定種類の対象物（人や車など）が設定した進行方向に移動するとアラームが作動します。

## 手順

Step 1 図8-9に示すように、[AI分析]>[逆走検知]を選択して、逆走検知設定インターフェースにアクセスします。

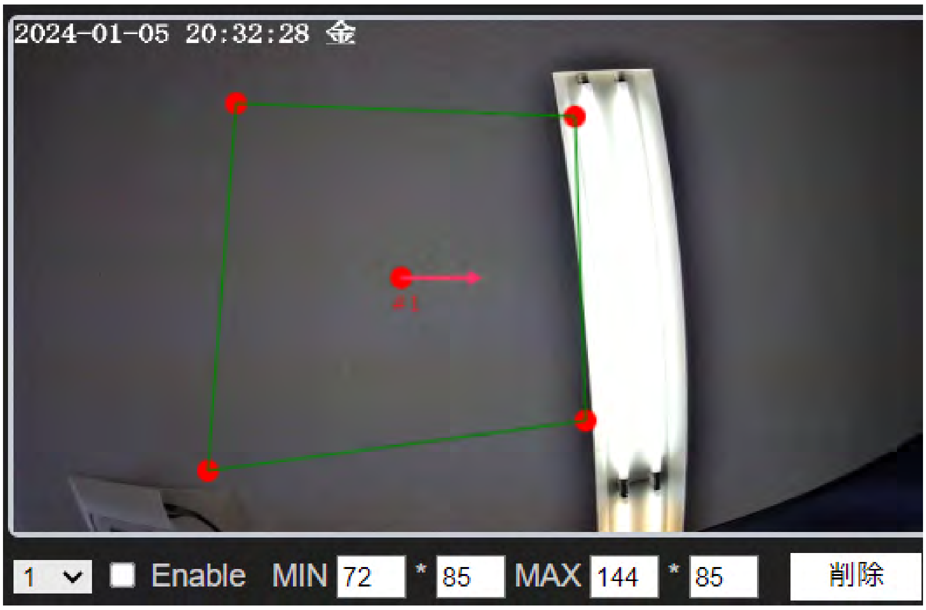
図8-9 逆走検知設定ページ




Step 2 逆走検知のすべてのパラメータを設定します。7.1step2をご参照ください。検知エリアを設定します。

カーソルを描画インターフェースに移動させ、クリックして点を作成し、カーソルを移動して線を描画し、クリックして別の点を作成します。このようにしてラインが作成されます。このようにして、線を描き続けて任意のエリアを形成し、右クリックして線の描画を終了し、フィールド内の矢印を移動すると逆の方向を設定できます。図8-10をご参照ください。

図8-10 エリア設定ページ




NOTE

- 描いたラインが別のラインと交差できない場合、ラインの描画は失敗します。
- 最大8辺の任意のエリアを描くことができます。
- 設定できるエリア数は最大8つまでです。

Step 3 スケジュールを設定します。詳細については、7.1step4をご参照ください。

Step 4 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

# 8.6 駐車検知 (一部機種のみ対応)

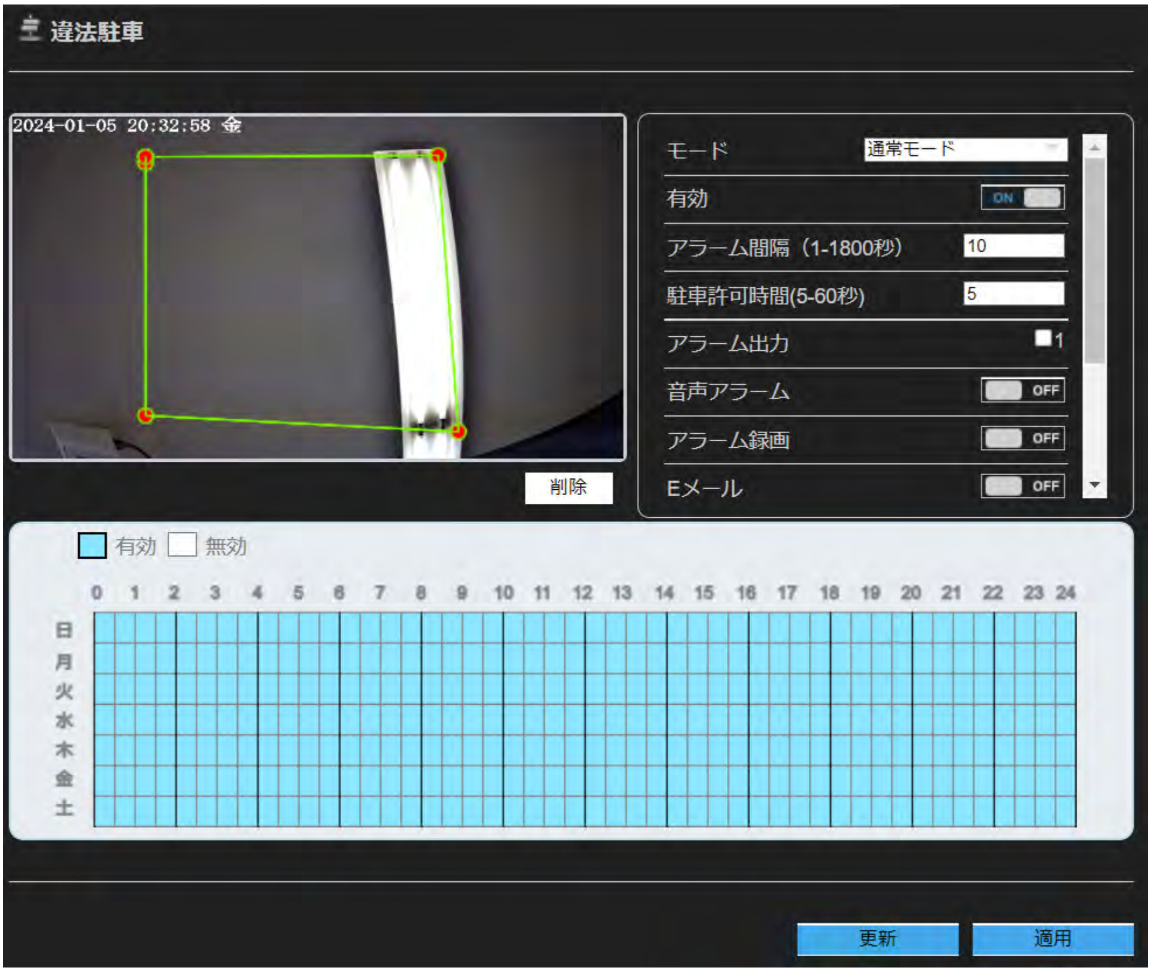
## 説明

違法駐車検知により、映像画面上の設定エリア内でターゲットの滞留時間基準を設定できます。このエリア内に指定された種類の対象（車）の滞在時間が、設定された駐車許可時間を超過した場合にアラームが作動します。

## 手順

Step 1 図8-11に示すように、[AI分析]>[違法駐車検知]を選択して、違法駐車検知の設定インターフェースにアクセスします。

図8-11 駐車検知設定ページ




Step 2 違法駐車検知に関するすべてのパラメータを設定します。7.1step2をご参照ください。

Step 3 検知エリアを設定します。

カーソルを描画インターフェイスに移動させ、クリックして点を作成し、カーソルを移動して線を描画し、クリックして別の点を作成します。このようにしてラインが生成されます。このようにして、図8-12に示すように、線を描画して任意のエリアを形成し、右クリックして線の描画を終了します。

図8-12 エリア設定ページ

NOTE

- 描いたラインが別のラインと交差できない場合、ラインの描画は失敗します。
- 最大8辺の任意のエリアを描くことができます。
- 設定できるエリア数は最大8つまでです。

Step 4 スケジュールを設定します。詳細については、7.1step4をご参照ください。

Step 5 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

# 8.7 人数カウント (一部機種のみ対応)

ユーザーは特別エリアで人数をカウントするための線を引くことができます。

## 手順

Step 1 図8-13に示すように、[AI分析]>[人数カウント]を選択して、人数カウント設定インターフェースにアクセスします。

図8-13 人数カウント設定ページ

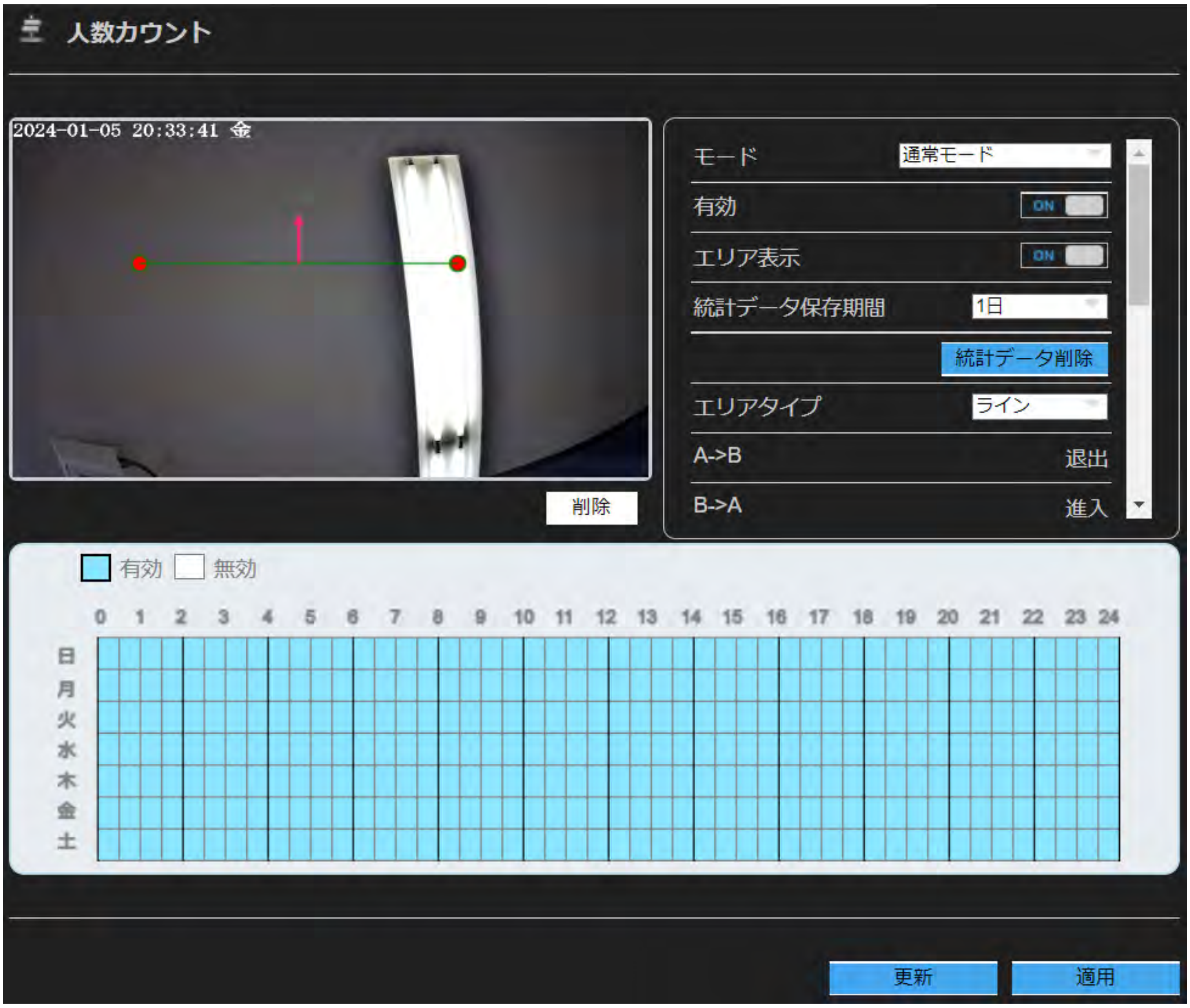
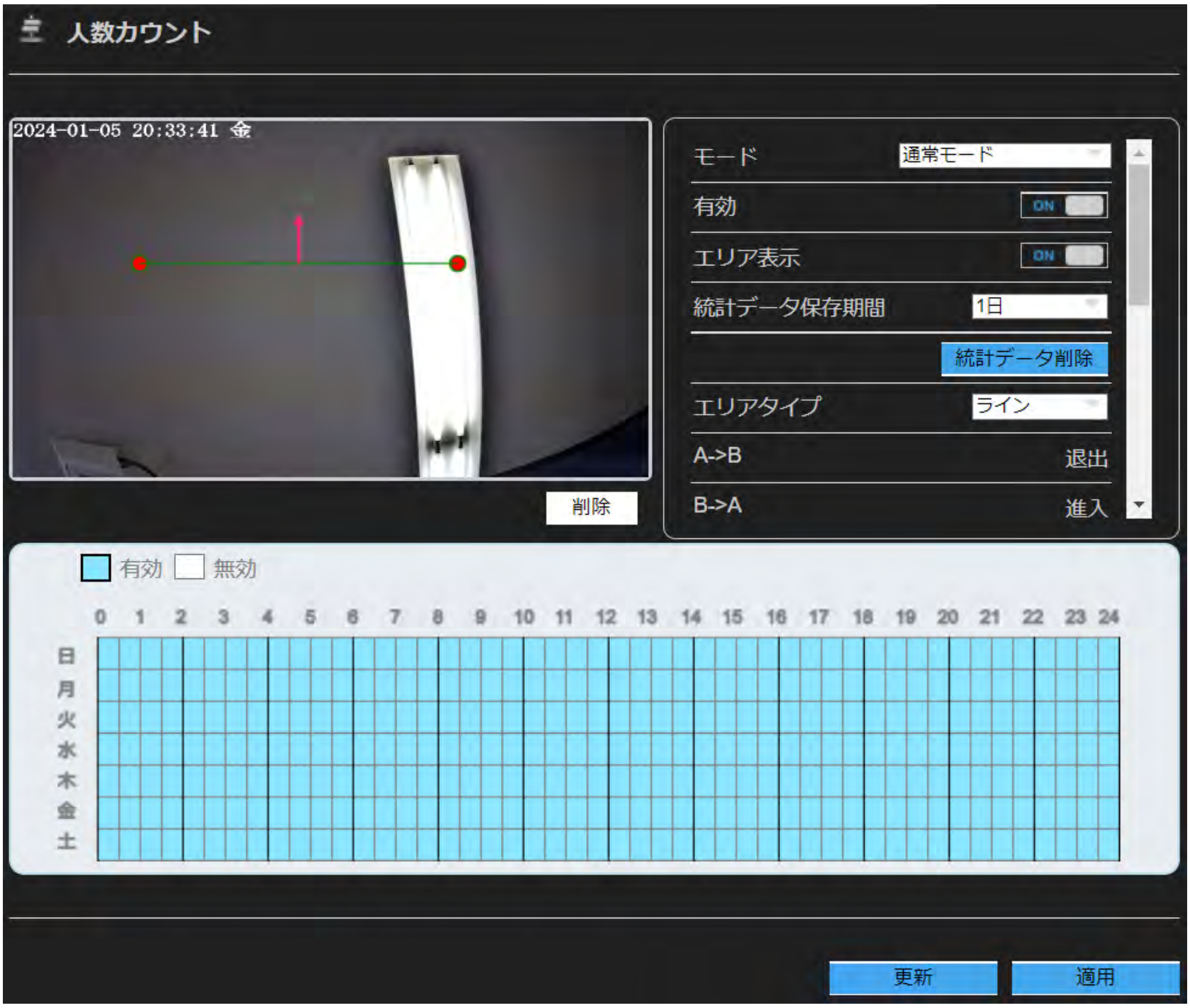


図8-14 人数カウント設定ページ（PTZカメラ）




Step 2 違法駐車検知のすべてのパラメータを設定します。表8-2では、特定のパラメータについて説明します。

図8-2 人数カウントのパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| モード<br>(PTZカメラのみ対応) | 通常モードとプリセットポイントモードの2つのモードを選択できます。<br>プリセットポイントモードを選択する場合は、事前に設定したプリセットを選択してください。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>通常モード |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| 有効化 | ボタンを有効にしてアラームを有効にします。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] **OFF** |
| OSD有効化 | OSDを有効にすると、統計データがライブ映像画面に表示されます。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] **OFF** |
| カウントデータ<br>削除間隔 | カメラは設定した間隔で統計データを削除します。10分/30分/1時間/2時間/12時間/1日/カスタム時間(hh:mm)<br><br>「データを削除」をクリックすると、データがすぐに消去されます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値]<br>**12 時間** |
| エリアの種類 | ライブ映像画面に線を描きます。<br>AとBのラベルは進入と退出を示します。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値]<br>**ライン** |
| 補正値の設定 | 有効にすると、カウント補正値を設定します。値は正または負にすることができます。たとえば、数える前に30人がエリアに入った場合、30と入力して修正します。既に30人がエリア外に出ている場合は-30を入力してください。 | [設定方法]<br>有効にする/エリアボックスに値を入力します。<br>[初期値] **0** |
| 人数超過アラーム | 有効にすると、カウント数がしきい値を超えた場合にアラームが作動します。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] **OFF** |
| アラームしきい値 | アラームをアクティブにするしきい値です。 | [設定方法]<br>有効にする/エリアボックスに値を入力します。<br>[初期値] **1000** |
| 出力チャンネル | 出力チャンネルの設定にチェックを入れ、デバイスが外部アラームデバイスに接続されている場合、アラームが作動するとアラームインジケーターが信号を送ります。一部の機種のみに対応しています。 | [設定方法]<br>クリックしてIDを選択します。 |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| フラッシュライトアラーム | フラッシュライトアラームを有効にすると、アラームが作動するとフラッシュライトが点滅します。一部の機種のみ対応しています。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] **OFF** |
| 音声アラーム | 有効にすると、アラームが発生したときに音声が再生されます。<br>音声アラームファイルを選択します(「設定>アラーム>音声アラーム出力」で設定)。<br>一部の機種のみ対応しています。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] **OFF** |
| アラーム録画 | ボタンを有効にしてアラーム録画を有効にします。 | [設定方法]<br>クリックしてアラーム録画を有効にします。<br>[初期値] **OFF** |
| SMTP | SMTPサーバーを有効にするボタンを有効にします。<br>SMTPのパラメータは、[設定]>[ネットワーク]>[SMTPインターフェース]で設定できます。 | [設定方法]<br>クリックしてSMTPを有効にします。<br>[初期値] **OFF** |
| FTPアップロード | ファイル転送プロトコルを有効にするボタンを有効にします。<br>FTPのパラメータは、[設定]>[ネットワーク]>[FTPインターフェース]で設定できます。 | [設定方法]<br>クリックしてFTPを有効にします。<br>[初期値] **OFF** |
| 白色LEDアラーム | デイナイトモードがナイトモードで、ライトが”赤外線”または”オフ”の場合、この動作は有効です。<br>白色光アラームを有効にすると、アラームが作動すると白色光が点灯します。一部の機種のみ対応しています。 | [設定方法]<br>クリックしてオンにします。<br>[初期値] **OFF** |

Step 3 検知エリアを設定します。

カーソルを描画インターフェースに移動させ、クリックして点を作成し、カーソルを移動して線を描画し、クリックして別の点を作成します。このようにしてラインを作成します。このように線を描き続けて任意のエリアを作り、右クリックで線の描画を終了します。

Step 4 スケジュールを設定します。詳細については、7.1step4をご参照ください。

Step 5 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

**----終了**

# 8.8 スマートモーション

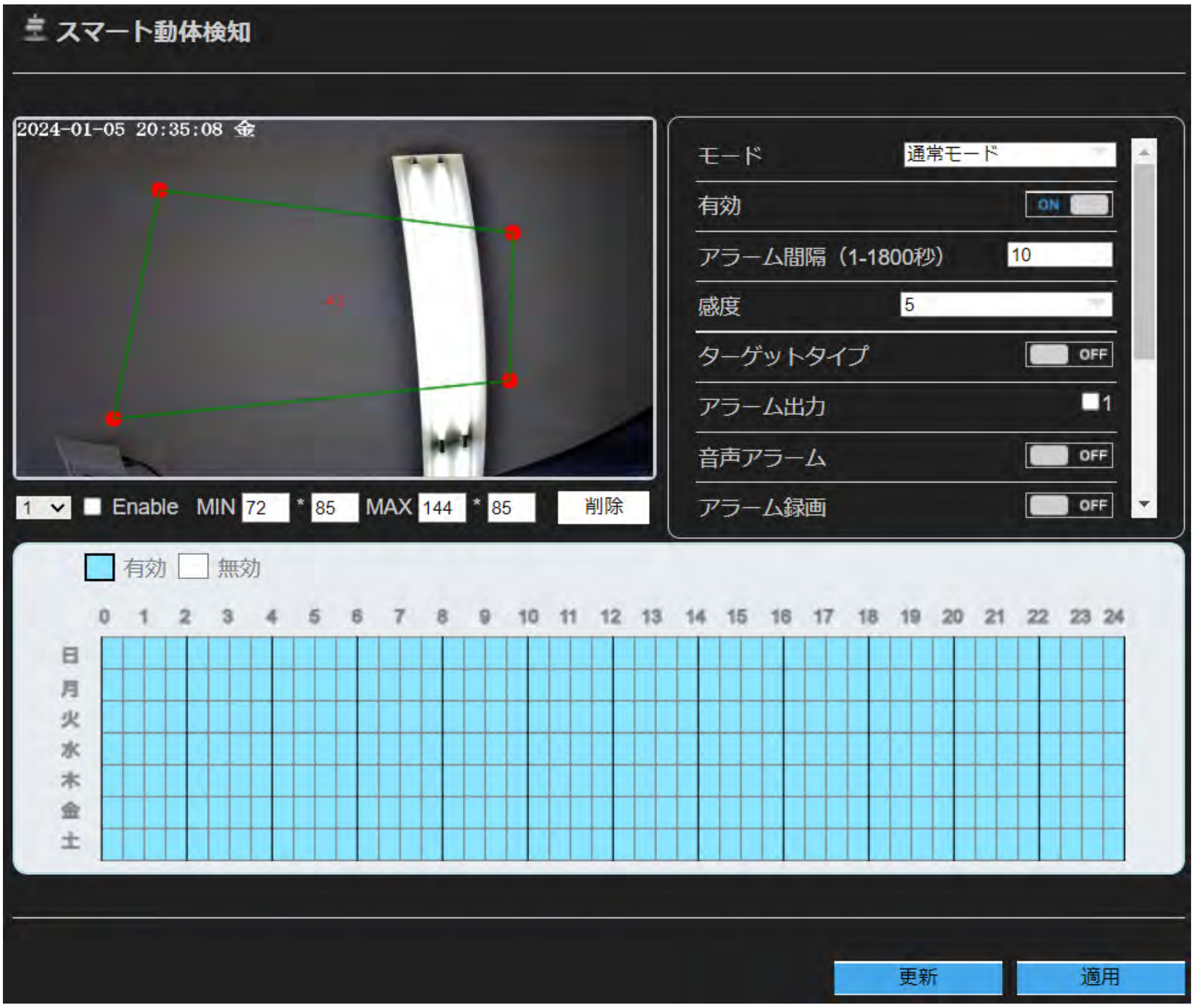
## 説明

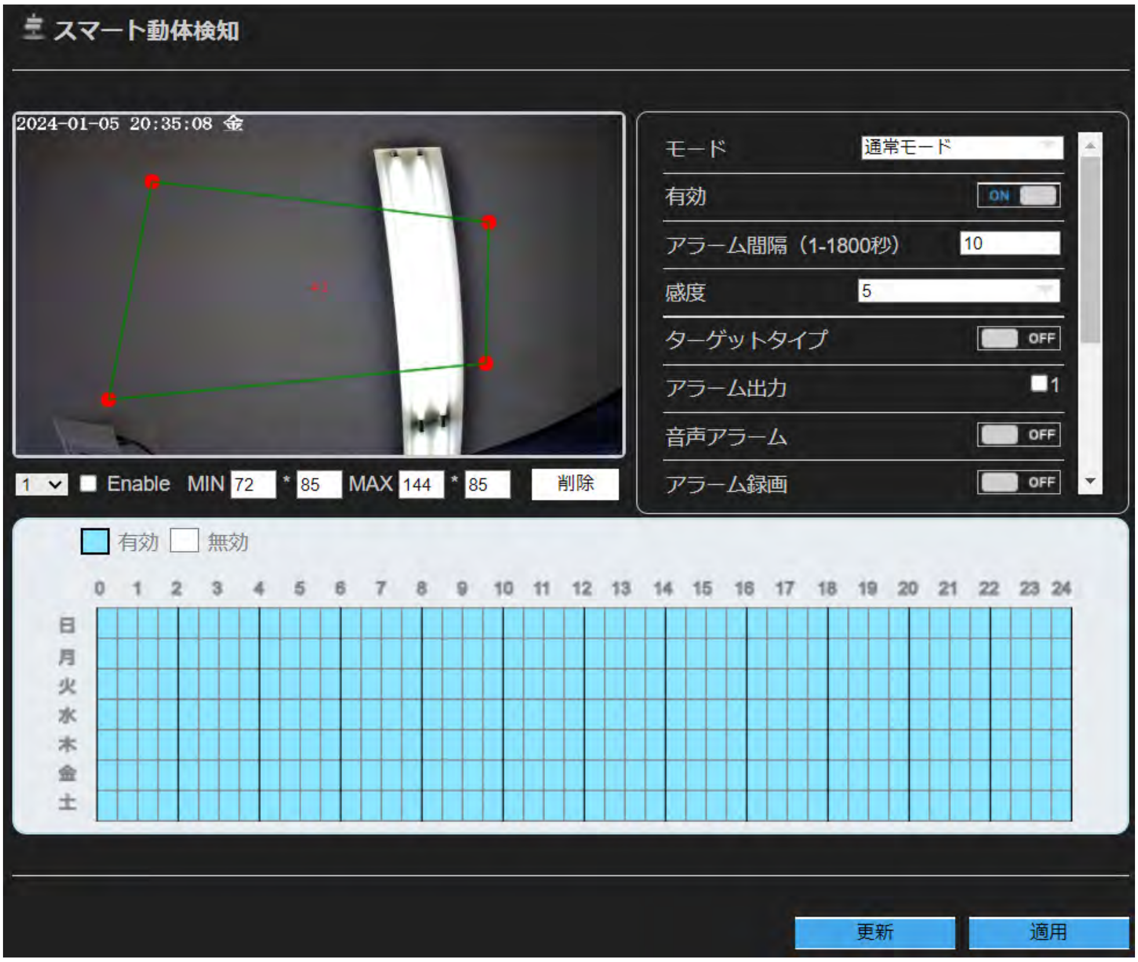
スマートモーション機能とは、設定エリアで対象物（人、車、人と車の両方など）が移動したときにアラームを発生させる機能です。

## 手順

Step 1 図8-15に示すように、[AI分析]>[スマートモーション]を選択します。

図8-15 スマートモーション設定ページ






Step 2 スマートモーションのすべてのパラメータを設定します。7.1step2をご参照ください。

Step 3 検知エリアを設定します。

カーソルを描画インターフェースに移動させ、クリックして点を作成し、カーソルを移動して線を描画し、クリックして別の点を作成します。このようにしてラインを作成します。このように線を描き続けて任意のエリアを作り、右クリックで線の描画を終了します。

**NOTE**

- 描いたラインが別のラインと交差できない場合、ラインの描画は失敗します。
- 最大8辺の任意のエリアを描くことができます。
- 設定できるエリア数は最大8つまでです。

Step 4 スケジュールを設定します。詳細については、7.1step4をご参照ください。

Step 5 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

# 8.9 詳細設定

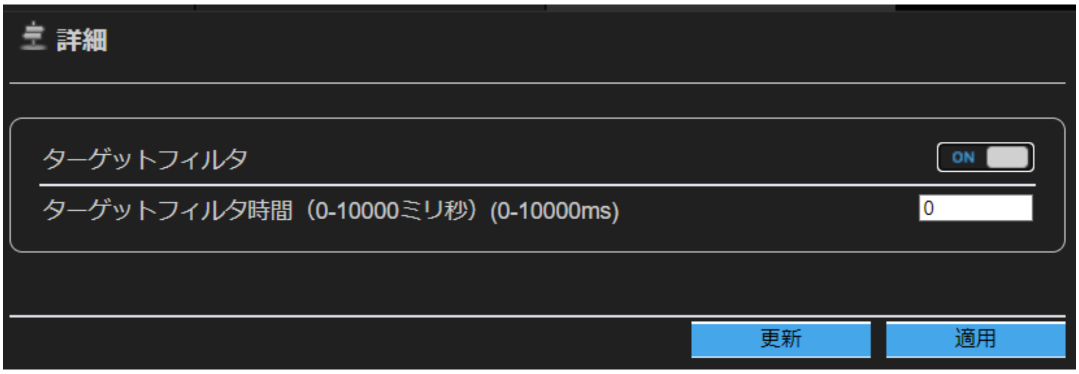
## 説明

詳細ページでは、ユーザーはターゲットを設定して、設定したスケジュールにターゲット(人または車)をフィルタリングできます。ターゲットがアラームエリアに発生した場合、AI分析のアラームは作動しません。

## 手順

Step 1 詳細設定インターフェースにアクセスするには、「AI分析」>「詳細」を選択します。

図8-16 詳細設定ページ




Step 2 ターゲットフィルタリングを有効にします。

Step 3スケジュールを設定します。

Step 4 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

**----終了**

# 8.10 ヒートマップ設定 (一部機種のみ対応)

ヒートマップは、データ分析、統計、直感的な表示の手法であり、顧客のエリア、ターゲット、位置を強調して表示します。
ヒートマップを有効にすると、検出エリア内の人の流れを自動的に検出してカウントし、異なる色で流れの相対的に人流の頻度を表示します。

**NOTE**

ヒートマップの設定とエクスポートは一部の機種にのみ対応しています。

Step 1 図8-17に示すように、[設定]>[AI分析]>[ヒートマップインターフェース]を選択します。

図8-17 ヒートマップ設定ページ

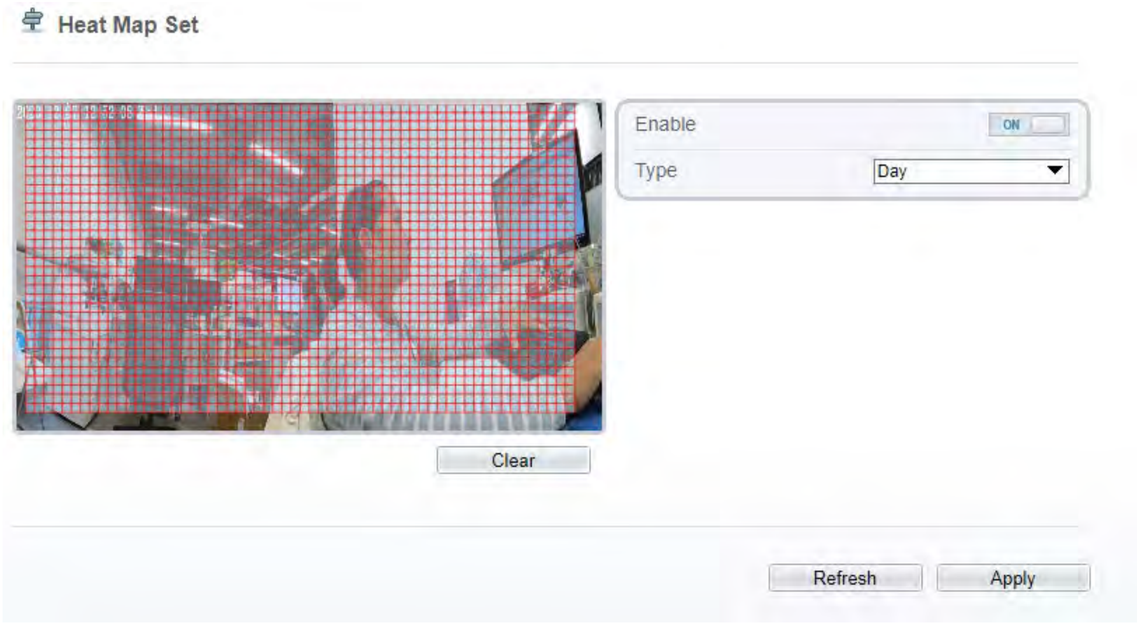
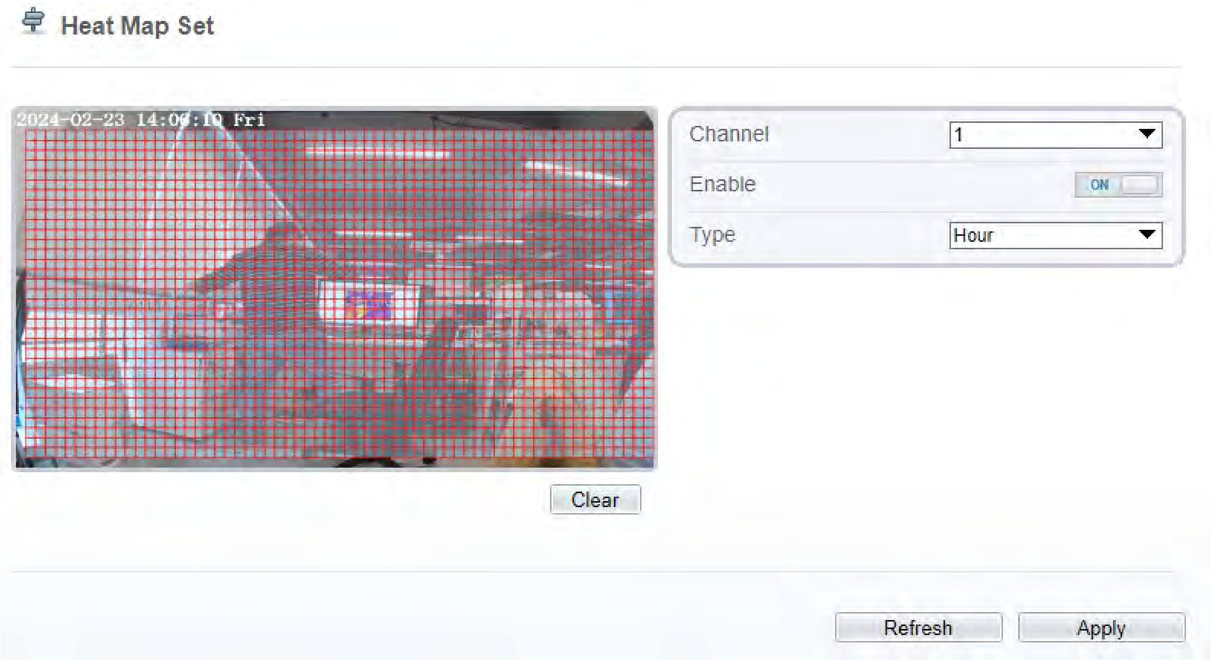



図8-18 ヒートマップ設定ページ (マルチチャンネルモード)




Step 2 ヒートマップ機能を有効にします。この機能はデフォルトでは無効になっており、手動で有効にする必要があります。

Step 3 タイプは統計タイプ、時間（1日あたり24個のデータ）または日（1日あたり1個のデータ）を設定します。タイプを切り替えると切り替える前ののデータは削除されますので、注意して操作してください。

Step 4 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

**----終了**

# 8.11 ヒートマップ (一部機種のみ対応)

「設定」>「AI分析」>「ヒートマップ」を選択すると、図8-19に示すようなページが表示されます。

図8-19 ヒートマップページ

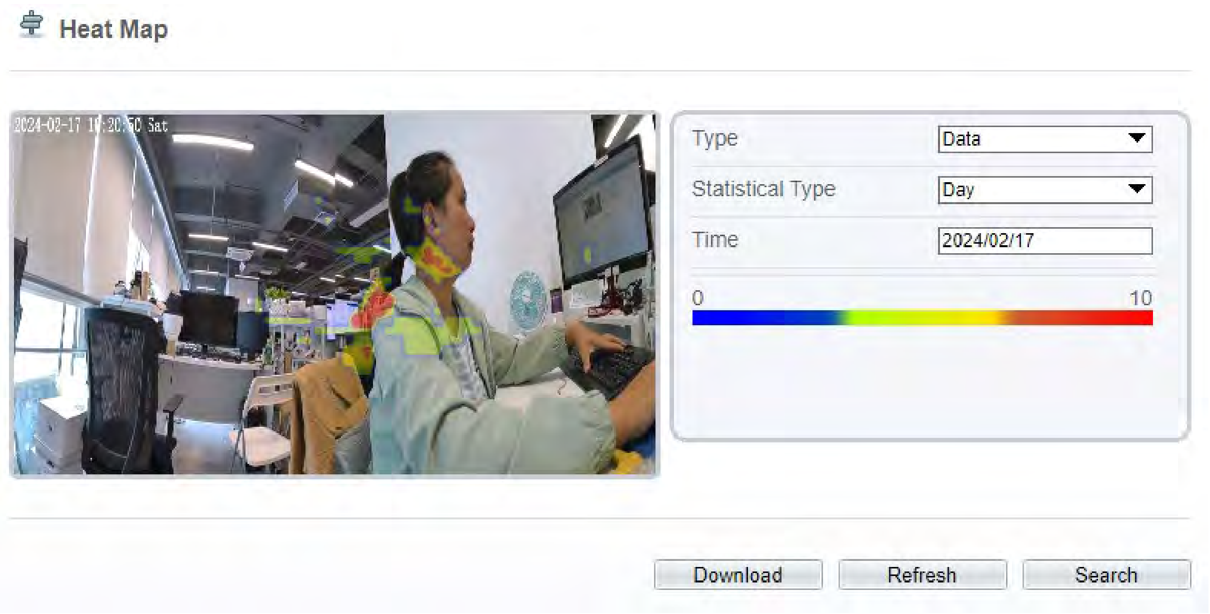



図8-20 ヒートマップページ (マルチチャンネルモード)

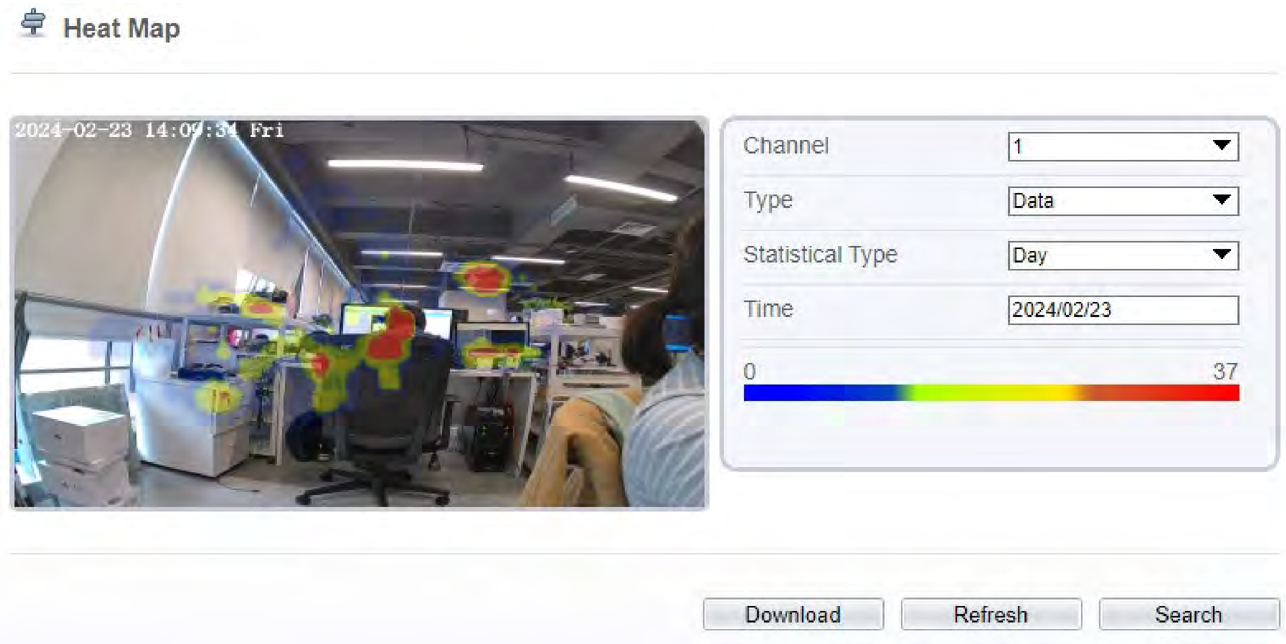


表8-3 ヒートマップのパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| タイプ | データまたは画像を選択します。データはダウンロード時に数値形式で表示されます。画像はダウンロードした画像上の異なるエリアに異なる色で表示されます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値]<br>通常モード |
| 統計タイプ | 年/月/日/時間を選択できます。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] **OFF** |
| 時刻検索 | ヒートマップデータを検索またはダウンロードするには、時刻を選択します。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値]<br>**5** |
| ヒートマップバー | 異なる色で異なる度合いを区別します。最大値は、現在の設定時間におけるヒートマップ内の単一エリアの最大データです。 | Null |

**----種類**

# 8.12 ヒートマップエクスポート (一部機種のみ対応)

「設定>AI分析>ヒートマップのエクスポート」インターフェースを選択し、グラフの種類(折れ線グラフまたはヒストグラム)、統計の種類(時間、日、月、年)、開始時刻と終了時刻(統計方法に応じて詳細な時間を設定)を設定し、関連するヒートマップ統計を「検索」または「エクスポート」します。結果は図8-21のようになります。

図8-21 ヒートマップエクスポート

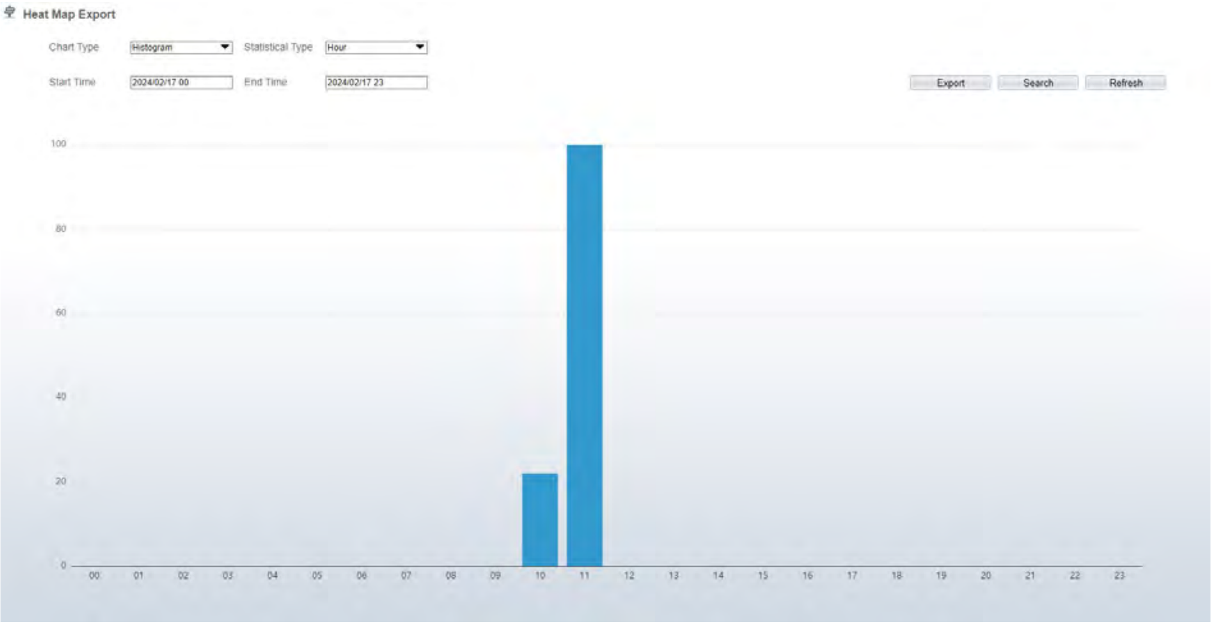
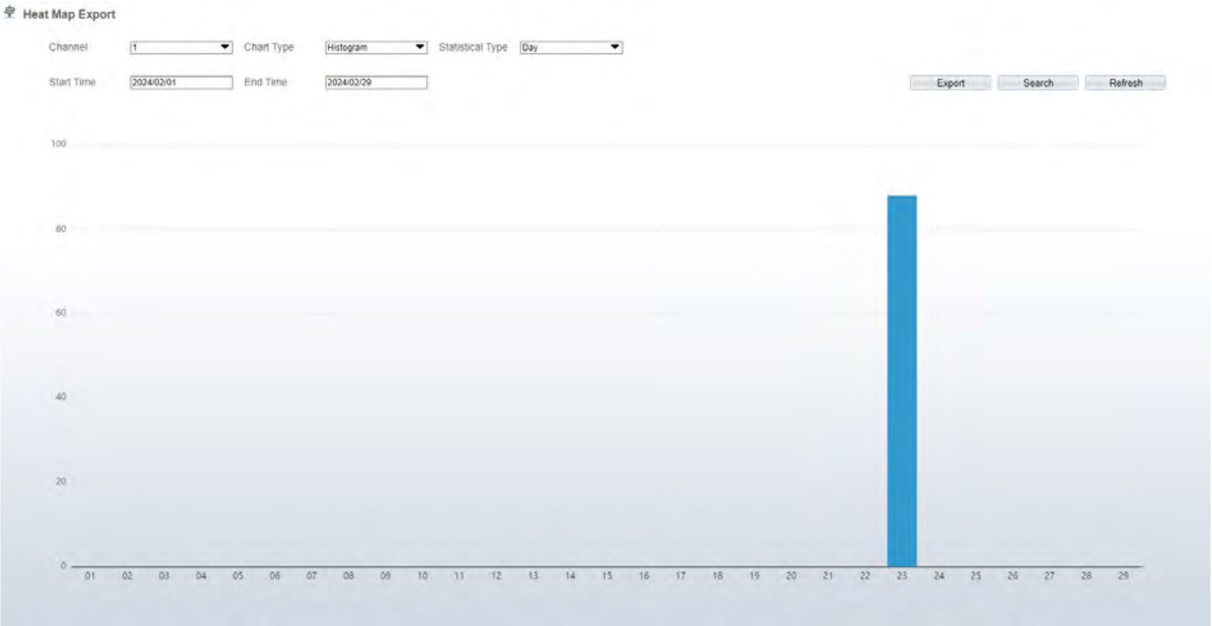



図8-22 ヒートマップエクスポート (マルチチャンネルモード)




関連するパラメータを設定した後、「検索」をクリックして直接表示するか、「エクスポート」をクリックしてデータをCSV形式（タイプはデータを選択）または画像形式（タイプは画像を選択）でローカルフォルダにダウンロードすることができます。

**----終了**

# 9 オートトラッキングの設定

インテリジェントトラッキングはPTZカメラのみに対応しています。

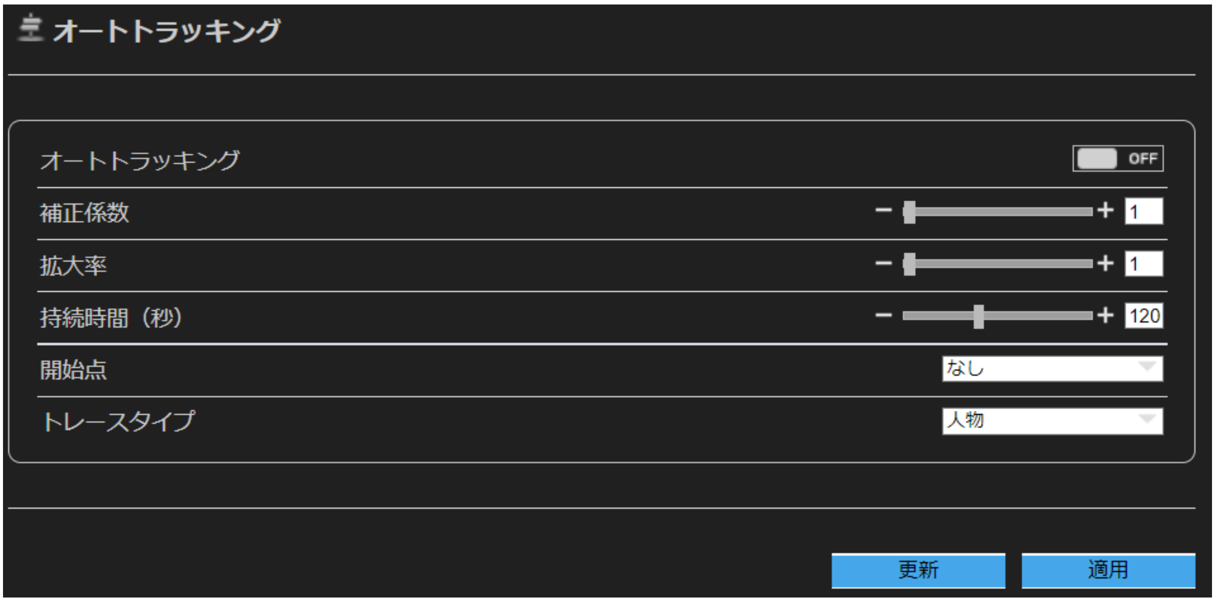
## 説明

この機能は、スピードドームカメラにのみ使用されます。
オートトラッキングは、特別なアルゴリズムを使用して、ターゲットの位置、形状、輪郭、色などの基本的な特徴を認識できます。各フレームの画像を比較してマッチングした後、ビデオ画像の各フレームのターゲットの位置が生成され、ターゲットのモーショントラックが生成されます。この方法は、ターゲットのリアルタイム監視を実行し、ジンバルを自動的に制御して移動するオブジェクトを追跡します。自動ターゲット追跡機能とは、ドームカメラが事前に作成されたシーンの移動ターゲットを継続的に追跡し、移動するターゲットの距離に応じてカメラのズームフォーカスを自動的に調整し、移動するターゲットが消えるとドームが自動的にプリセットシーンに戻ることです。

## 手順

Step 1 図9-1に示すように、[設定]>[オートトラッキング]を選択して、オートトラッキング設定インターフェースにアクセスします。

図9-1 オートトラッキングページ




Step 2 オートトラッキングのすべてのパラメータを設定します。表9-1に具体的なパラメータを示します。

表9-1 オートトラッキングのパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| 有効化 | ボタンをクリックしてオートトトラッキングを有効にします。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] OFF |

| | | |
|---|---|---|
| 校正係数 | これは制御係数に相当し、リアルタイム追跡倍増率の非線形正相関です。通常、設置高さが高くなるほど、校正係数の値は大きくなります。範囲は1～30です。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値] **1** |
| トレース拡大 | リアルタイムトラッキングのレンズズームの倍率の値で、範囲は0～30です。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値] **7** |
| 継続時間（秒） | 追跡期間の最大時間は0～300秒の範囲です。 | [設定方法]<br>スライダーをドラッグします。<br>[初期値] **120** |
| 開始点 | トラッキングの開始点として、プリセットまたはなしを選択できます。プリセットは事前に設定する必要があります。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値] **なし** |
| トラッキングタイプ | 追跡タイプ（人物または車）を選択します。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値] **人** |

Step 3 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

**----終了**

# 10 アラーム機能の設定

カメラによってアラーム連動の動作が異なる場合があります。カメラの性能によりますので、実際の製品をご参照ください。

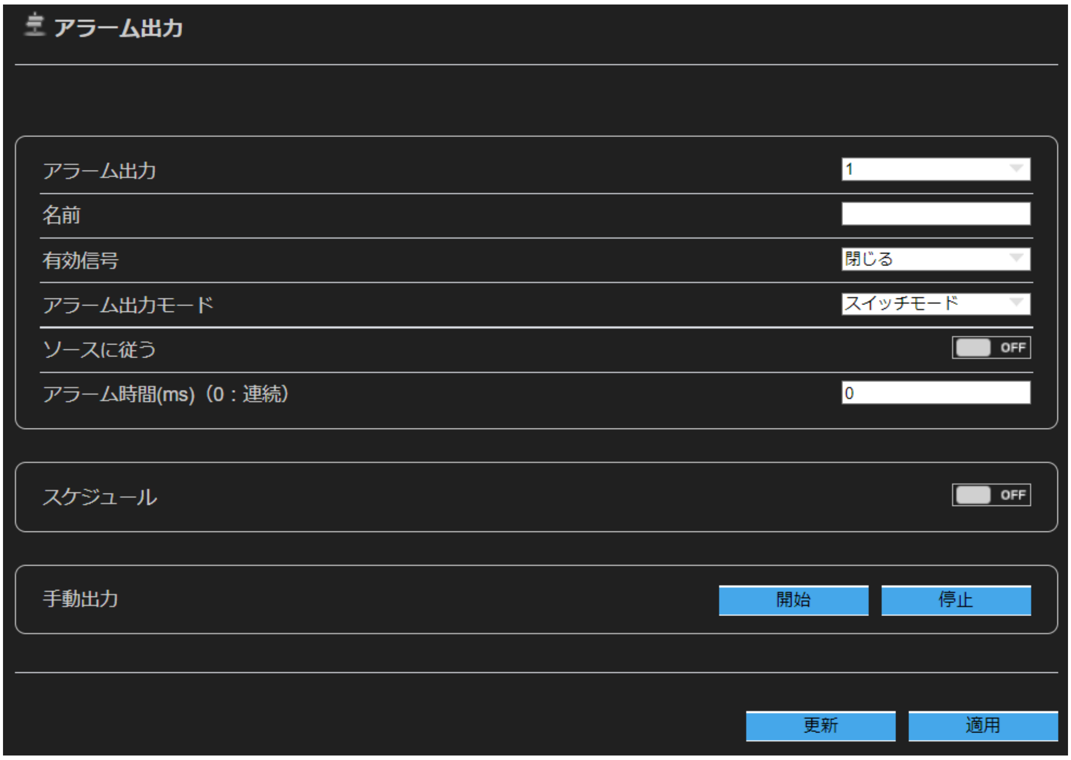
## 10.1 アラーム出力(一部機種のみ対応)

### 手順

Step 1 [設定]>[アラーム]>[アラーム出力]を選択します。

図10-1に示すように、アラーム出力ページが表示されます。

図10-1 アラーム出力ページ




Step 2 表10-1に従ってパラメータを設定します。

表10-1 アラーム出力パラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| アラーム出力 | アラーム出力チャネルのID。<br>NOTE<br>アラーム出力チャネルの数は機種によって異なります。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>1 |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| 名前 | アラーム出力チャンネル名。 | [値の範囲]<br>0～32バイト |
| 有効な信号 | 選択肢は次のとおりです。<br>・**クローズ**: 外部アラーム信号を受信するとアラームが生成されます。<br>・**オープン**: 外部アラーム信号が受信されない場合、アラームが生成されます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値]<br>クローズ |
| アラーム出力モード | デバイスは、I/Oアラーム信号を受信すると、このパラメータで指定されたモードでアラーム情報を外部アラームデバイスに送信します。オプションには、スイッチモードとパルスモードがあります。<br>NOTE<br>・スイッチモードを使用する場合、デバイスのアラーム周波数は外部アラームデバイスのアラーム周波数と同じである必要があります。<br>・パルスモードを使用する場合、外部アラームデバイスのアラーム周波数を設定できます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値]<br>スイッチモード |
| アラーム時間 (ms) (0: 連続) | アラーム出力の持続時間。値0は、アラームが有効なままであることを示します。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値] 0<br>[値の範囲]<br>0～86400秒 |
| タイミングアラーム出力 | タイミングアラーム出力を有効にし、アラームのスケジュールを設定します。<br>NOTE<br>アラーム出力が2つある場合、この設定はアラーム出力1に対してのみ有効です。 | [設定方法]<br>有効<br>[初期値]<br>OFF |
| 手動コントロール | アラーム出力を制御します。 | N/A |

Step 3 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

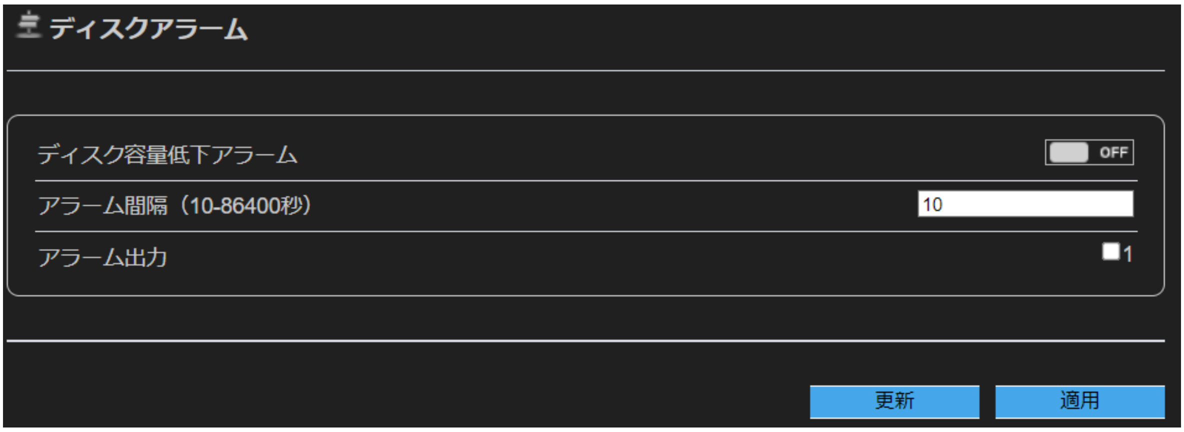
# 10.2 ディスクアラーム

## 手順

Step 1 [設定]>[アラーム]>[ディスクアラーム]を選択します。

図10-2に示すように、ディスクアラームページが表示されます。

図10-2 ディスクアラームページ




Step 2 ディスクアラームを有効にするには、ボタンをクリックします。

Step 3 アラーム間隔パラメータを設定します。

Step 4 出力チャンネル番号を選択します（実際の製品をご参照ください）。

Step 5 「適用」をクリックしてください。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

**----終了**

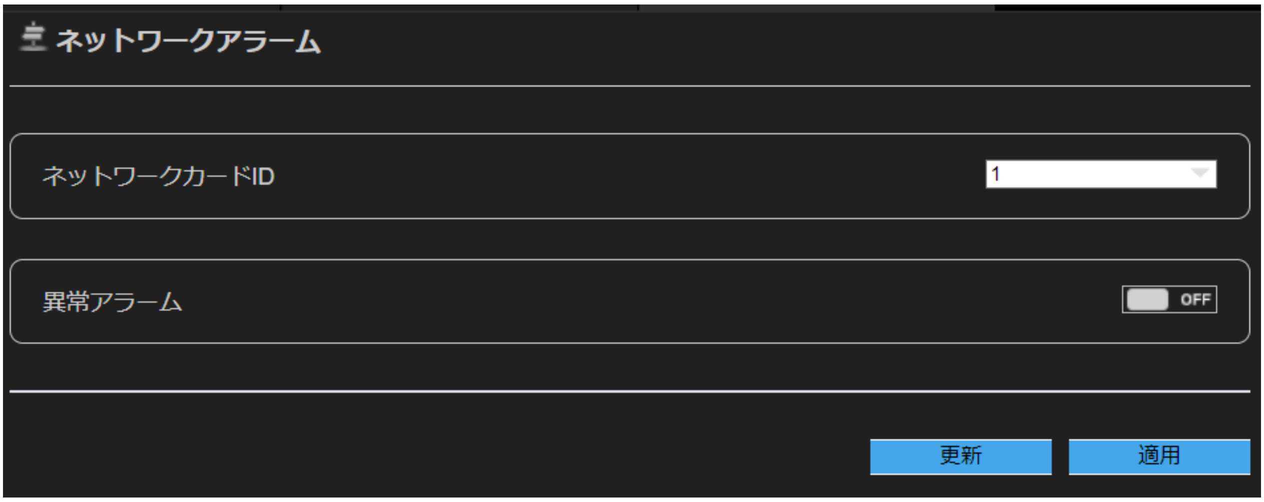
# 10.3 ネットワークアラーム

## 手順

Step 1 [設定]>[アラーム]>[ネットワークアラーム]を選択します。

図10-3に示すように、ネットワークアラームページが表示されます。

図10-3 ネットワークアラームページ




Step 2 異常アラームを有効にするには、ボタンをクリックします。

Step 3 ネットワークアラーム間隔を設定します。

Step 4 出力チャンネル番号を選択します。事前にSDカードを挿入しておくとアラーム録画を有効にすることができます。

Step 5 「適用」をクリックしてください。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

# 10.4 デイナイト切替アラーム

## 説明

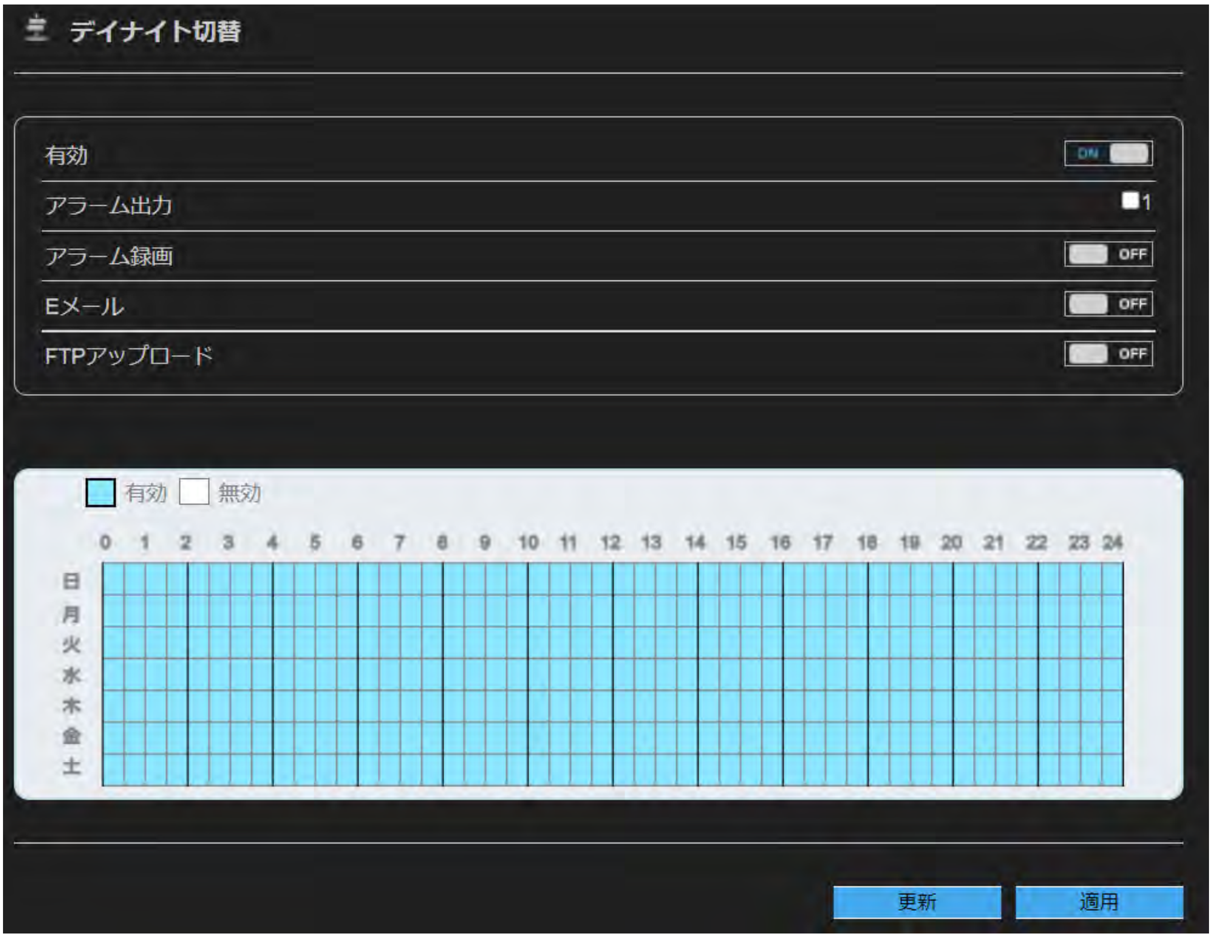
設定時間にデイナイト切替アラームを有効にすると、昼と夜が切り替わったときにアラーム信号が送信されます。

## 手順

Step 1 [設定]>[アラーム]>[デイナイト切替アラーム]を選択します。

図10-4に示すように、デイナイト切替アラームページが表示されます。

図10-4 デイナイト切替アラーム




Step 2 デイナイト切替アラームを有効にするには、ボタンをクリックします。

Step 3 デイナイト切替アラームのスケジュールを設定します。

Step 4 アラーム録画を有効にするには、ボタンをクリックします。

Step 5 SMTPを有効にするにはボタンをクリックします。

Step 6 ボタンをクリックして FTP アップロードを有効にします。

Step 7 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

**----終了**

# 10.5 I/Oアラーム連携 (一部機種のみ対応)

## 説明

アラーム連動とは連動アラーム出力のことです。カメラはアラーム入力ポートからアラームを受信すると連動アラーム出力を行い、連動設定に基づいて動作します。

I/Oアラーム連携ページでは、次の操作を実行できます。

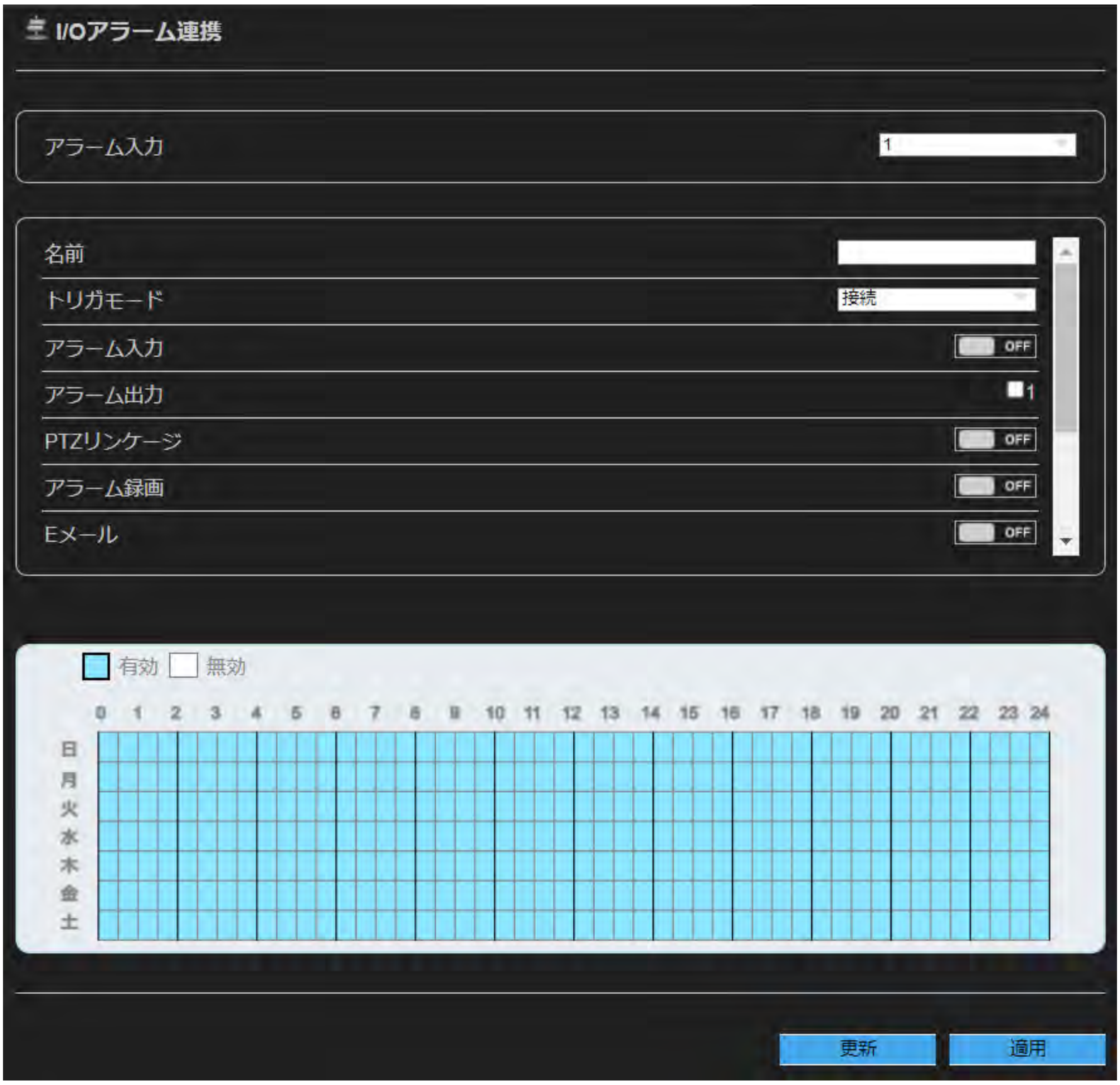
・I/Oアラーム機能を有効にします。
・I/Oアラームスケジュールを設定します。
・アラーム出力チャンネルを設定します。

## 手順

Step 1 [設定]>[アラーム]>[I/Oアラーム連携]を選択します。

図10-5に示すように、I/Oアラーム連携ページが表示されます。

図10-5 I/Oアラーム連携ページ




Step 2 パラメータの設定については表10-2をご参照ください。

表10-2 I/Oアラーム連携のパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| アラーム入力 | アラーム入力チャネルのID。<br>NOTE<br>アラーム入力チャネルの数は機種によって異なります。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値]<br>1 |
| 名前 | アラーム入力チャネル名。 | [値の範囲]<br>0～32バイト |
| トリガーモード | 選択肢は次のとおりです。<br>・**Connect**: 外部アラームデバイスが接続されるとアラームが発生します。<br>・**Disconnect**: 外部アラームデバイスが切断されていない場合、アラームが生成されます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値]<br>Connect |
| アラーム入力 | デバイスはI/Oアラーム信号を受信すると、アラーム情報を外部アラームデバイスに送信します。 | [設定方法]<br>有効<br>[初期値]<br>OFF |
| 出力チャンネル | 出力チャネルアラームデバイスと連動してアラーム情報を送信します。 | [設定方法]<br>チェック |
| PTZ連携 | デバイスにはPTZがあり、アラームが発生すると、PTZタイプをリンクしてアラーム情報を表示します。<br>PTZタイプには、プリセット、スキャン、トラック、ツアーがあります。タイプは詳細に設定する必要があります。<br>値:設定タイプを選択します。 | [設定方法]<br>有効化<br>[初期値]<br>OFF |
| アラーム録画 | アラームが発生すると、録画を開始します。 | [設定方法]<br>有効化<br>[初期値]<br>OFF |
| SMTP | アラームが発生すると、デバイスはメールを送信します。メールパラメータは設定する必要があります。 | [設定方法]<br>有効化<br>[初期値]<br>OFF |
| FTPアップロード | アラームが発生すると、デバイスはアラーム情報をFTPサーバーに送信します。FTPパラメータは詳細に設定する必要があります。 | [設定方法]<br>有効化<br>[初期値]<br>OFF |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| IRカット<br>フィルター | カメラには赤外線ライトが必要です。<br>アラームが作動すると、デバイスは赤外線ライトを開いてアラーム情報を送信します。 | [設定方法]<br>有効化<br>[初期値]<br>OFF |
| ホワイト<br>ライト<br>アラーム | カメラには白色光またはデュアルライトが搭載されている必要があります。<br>アラームが鳴ると、デバイスは白色光を点滅させます。 | [設定方法]<br>有効化<br>[初期値]<br>OFF |
| 赤青ライト<br>アラーム | カメラには赤青LEDが搭載されている必要があります。<br>アラームが作動すと、デバイスは赤と青のライトを交互に点滅させます。 | [設定方法]<br>有効化<br>[初期値]<br>OFF |

Step 3 有効アイコン 有効 をクリックしてスケジュールを設定します。無効アイコン 無効 をクリックしてスケジュールを設定します。

**方法1：** 月曜日から日曜日までの0:00～24:00の範囲内の任意の時点を選択するには、マウスの左ボタンをクリックします。

**方法2：** マウスの左ボタンを押したままドラッグしてマウスを放し、月曜日から日曜日までの0:00～24:00の間でスケジュールを選択します。

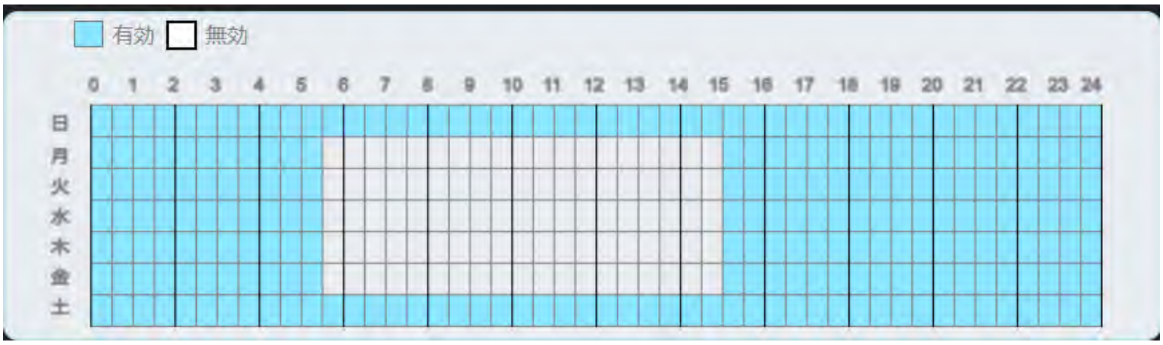
**スケジュールの削除:** 選択したスケジュールを削除するには、無効 をクリックします。方法はスケジュールの設定と同じです。

**NOTE**

カーソルをドラッグして時間を選択する場合、カーソルを時間範囲外に移動させることはできません。

.

図10-6 スケジュール設定ページ




Step 4 適用をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

# 10.6 動体検知アラーム連携

## 説明

動体検知アラームページでは、次の操作を実行できます。

・動体検知機能を有効にします。
・動体検知アラーム時間を設定します。
・動体検知エリアを設定します。
・動体検知アラーム出力チャンネルを設定します。

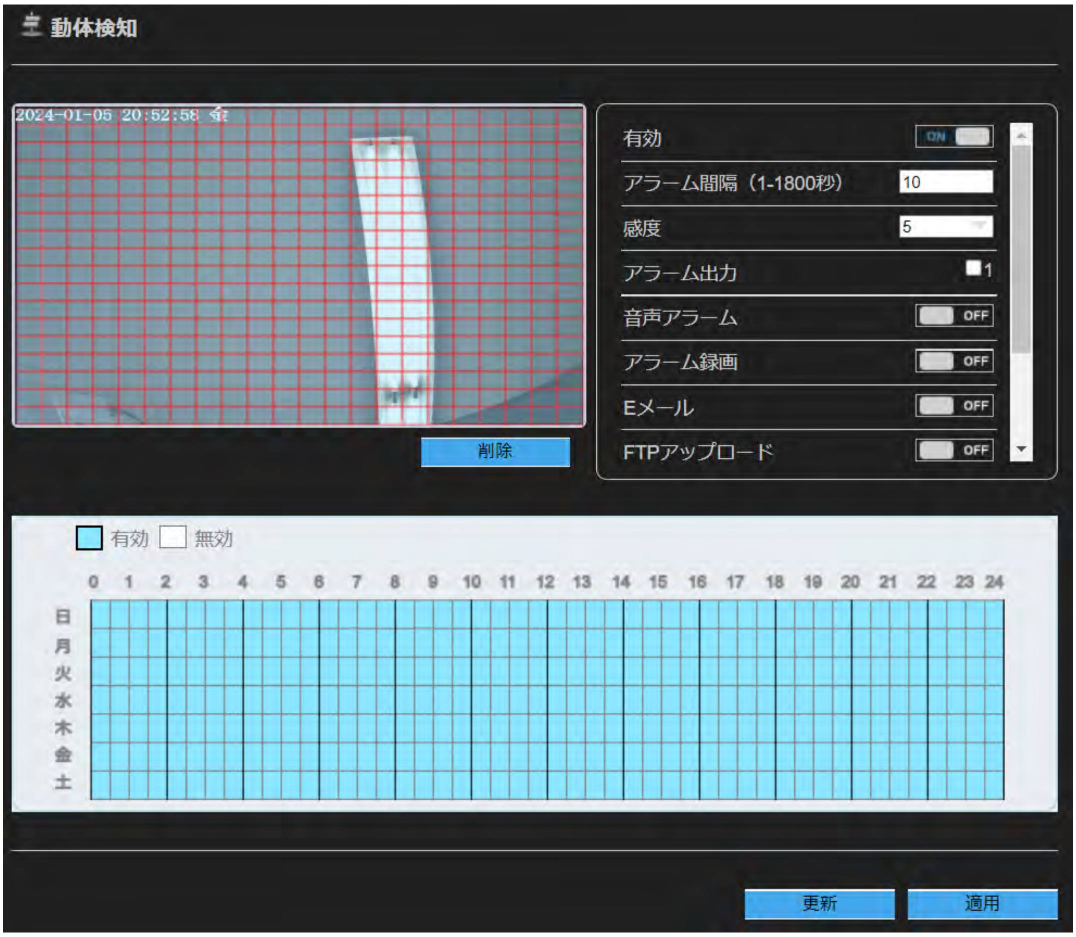
アラーム出力機能が有効になっている場合、カメラはスケジュール時間内に物体が動体検知エリアに移動したことを検出すると、アラームを生成し、連動アラーム出力をトリガーします。

## 手順

Step 1 [設定]>[アラーム]>[動体検知アラーム]を選択します。

図10-7に示すように、動体検知アラームページが表示されます。

図10-7 モーションアラームページ




Step 2 すべてのパラメータを設定します。7.1step2をご参照ください。

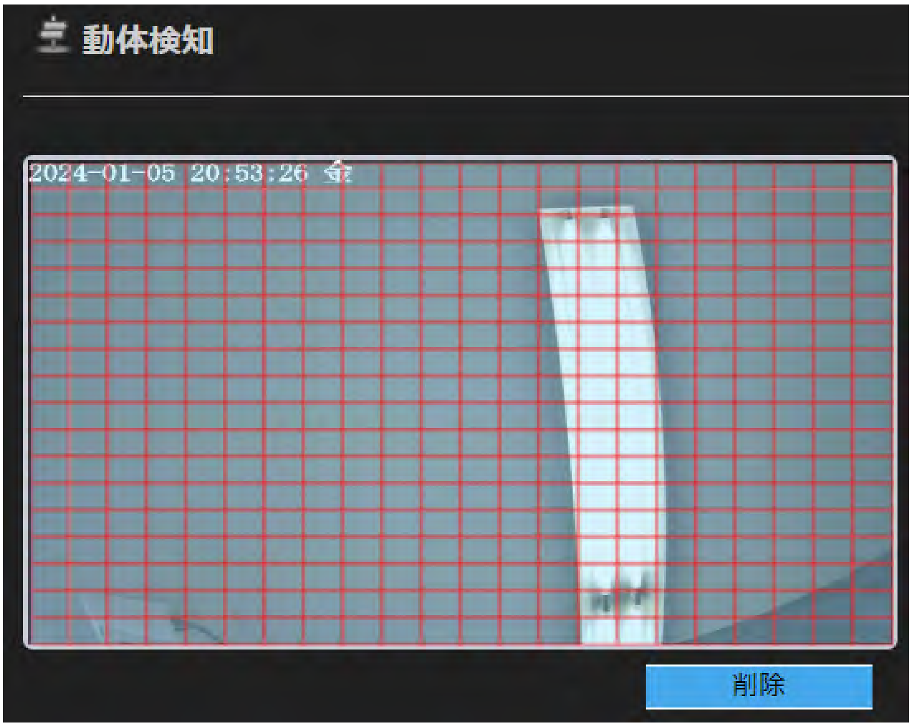
Step 3 .動体検知ストリームを有効にすると、カメラが動きを検出すると、オブジェクトの追跡枠が表示されます。

Step 4 スケジュールを設定します。7.1step4をご参照ください。

Step 5 検知エリアを設定します。

1.マウスの左ボタンを押したまま、ビデオエリア内をドラッグして検出エリアを描画します（図10-8をご参照ください）。

図10-8 モーションエリア設定ページ




2.マウスの左ボタンを押したまま、ビデオエリア内をドラッグして検出エリアを描画します。

NOTE
検出領域を削除するには、[削除]をクリックします。エリアを無効にするには、赤いブロックをクリックします。

----終了

# 10.7 プッシュメッセージ

## 説明

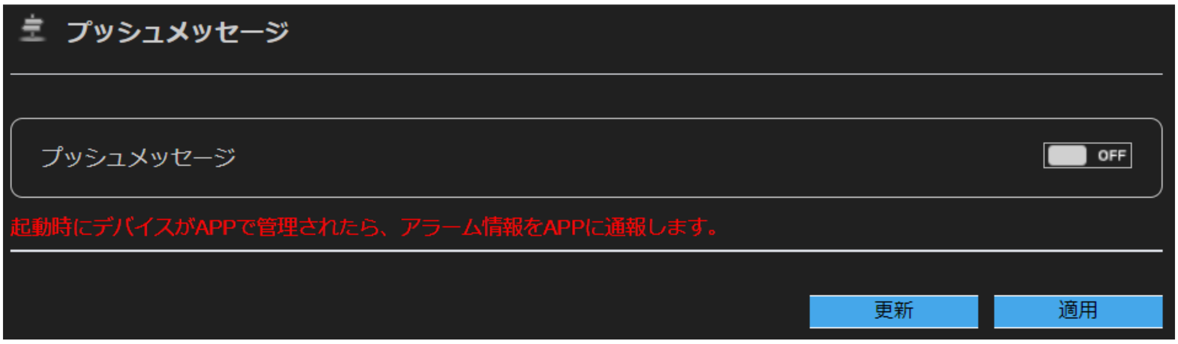
デバイスをアプリに登録している場合、アラーム通知はモバイルアプリにプッシュ通知を送信することができます。

## 手順

Step 1 [設定]>[アラーム]>[プッシュメッセージ]を選択します。

図10-9に示すように、プッシュメッセージページが表示されます。

図10-9 プッシュメッセージページ




Step 2 「適用」をクリックします。

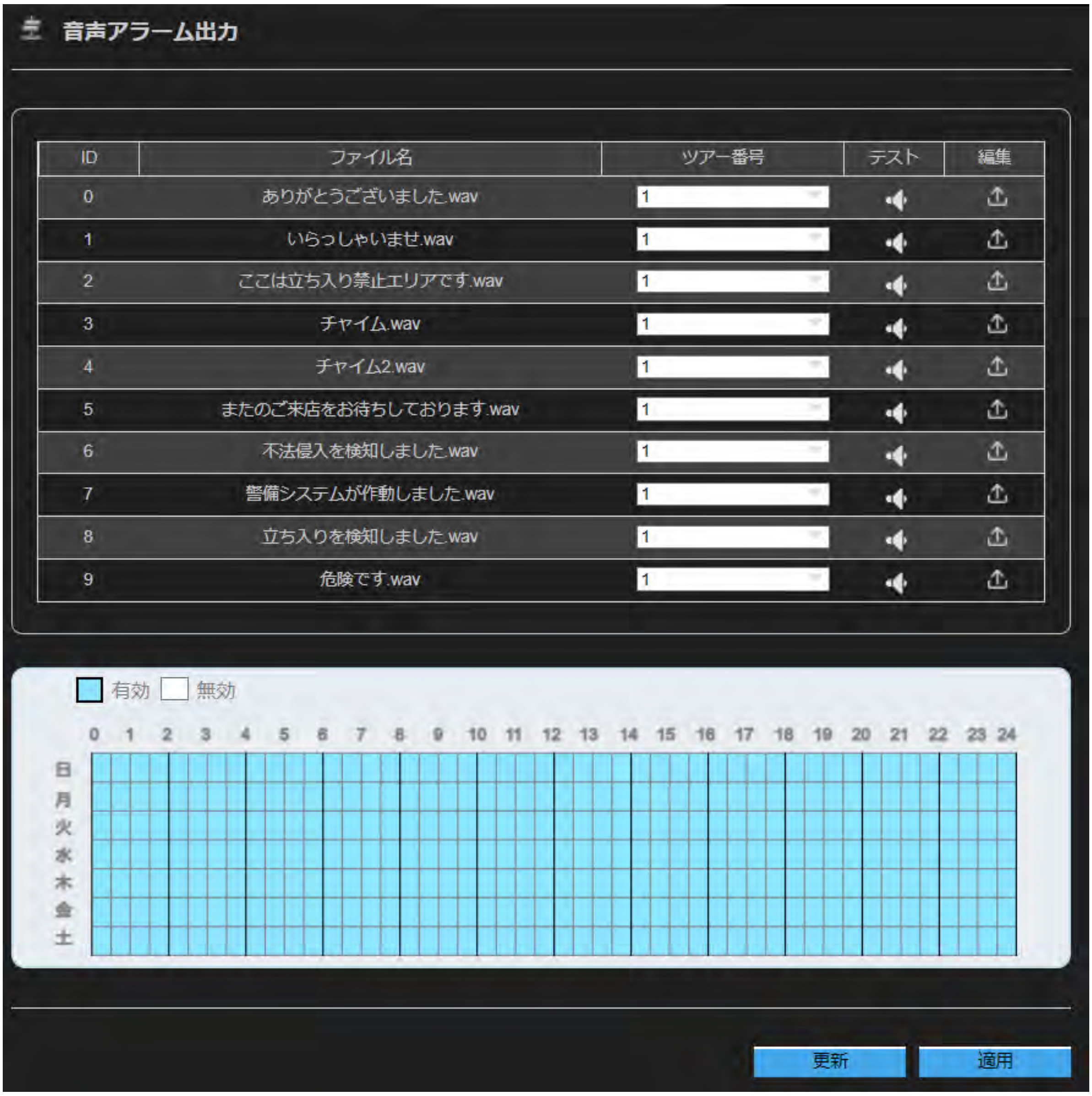
「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

**----終了**

# 10.8 音声アラーム出力 (一部機種のみ対応)

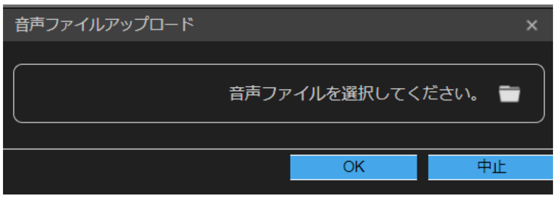
Step 1 設定>アラーム>音声アラーム出力インターフェースで、図10-10に示すように、音声検出アラームを設定します。音量は、図5-8に示すように、設定>デバイス>音声出力インターフェースで設定できます。

図10-10 音声アラーム出力ページ




デフォルトのファイルは13個あり、ユーザーは繰り返し回数を設定でき、 をクリックしてテスト再生できます。

Step 2 新しい音声ファイルをアップロードするには、 をクリックします。




タイプはWAV、サイズは250Kb未満、ビットレートは128kbpsである必要があります。

Step 3 「適用」をクリックして設定を保存します。

----終了

# 10.9 異常音声検出 (一部機種のみ対応)

## 説明

カメラにはマイクまたはライン入力がサポートされています。音声異常検出ページでは、次の操作を実行できます。

・音声異常検出機能を有効にします。
・音声異常検出アラーム時間を設定します。
・音声異常検出出力チャンネルを設定します。

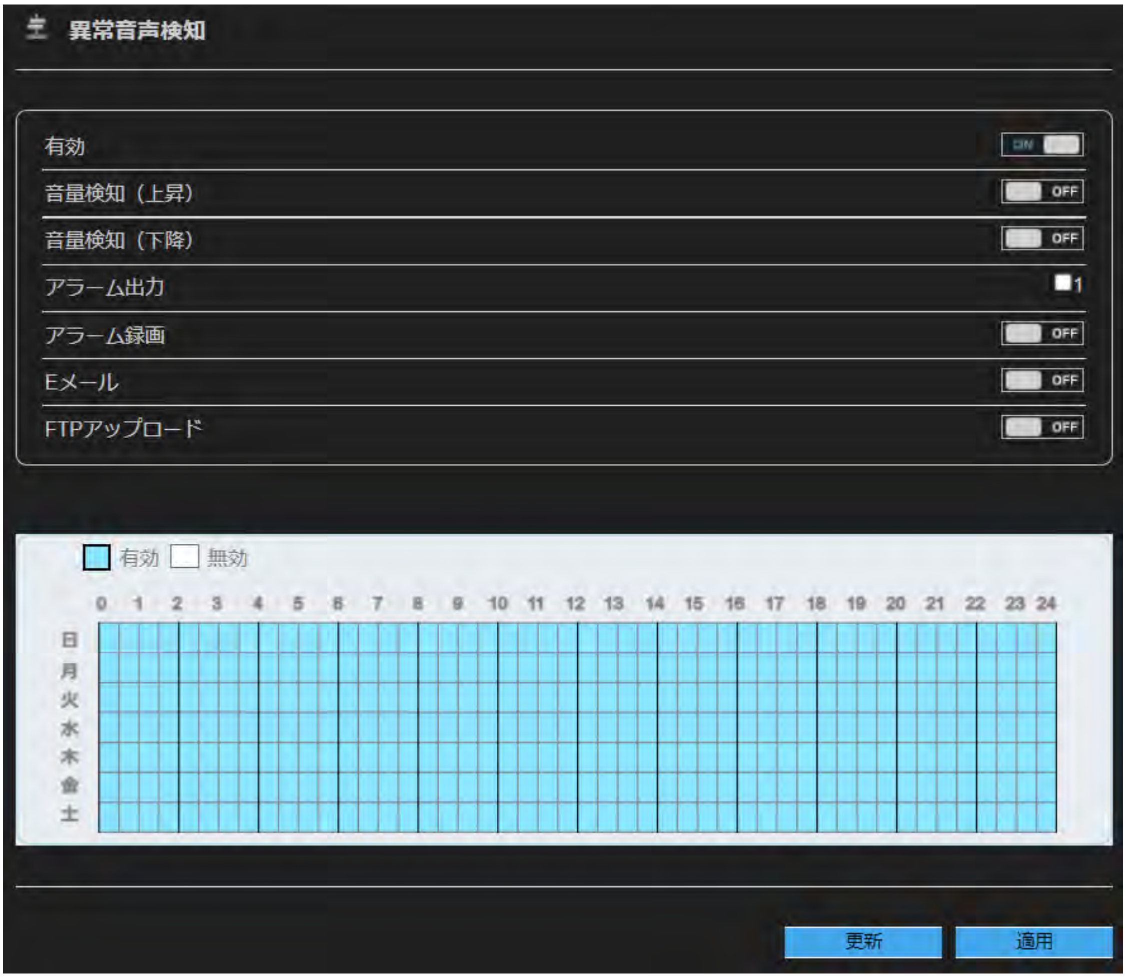
アラーム出力機能が有効になっている場合、カメラがスケジュール時間内に異常な音声（急上昇または急降下）を検出すると、カメラはアラームを生成し、連動アラーム出力をトリガーします。

## 手順

Step 1 [設定]>[アラーム]>[音声異常検出]を選択します。

図10-11に示すように、音声異常検出ページが表示されます。

図10-11 異常音声検出ページ




Step 2 音声異常検出を有効にするには、ボタンをクリックします。

Step 3 急上昇と急降下を有効にします。

Step 4 出力チャンネルを選択します。

Step 5 アラーム録画を有効にするには、ボタンをクリックします。

Step 6 SMTP を有効にするにはボタンをクリックします。

Step 7 ボタンをクリックして FTP アップロードを有効にします。

Step 8 スケジュールを設定します。

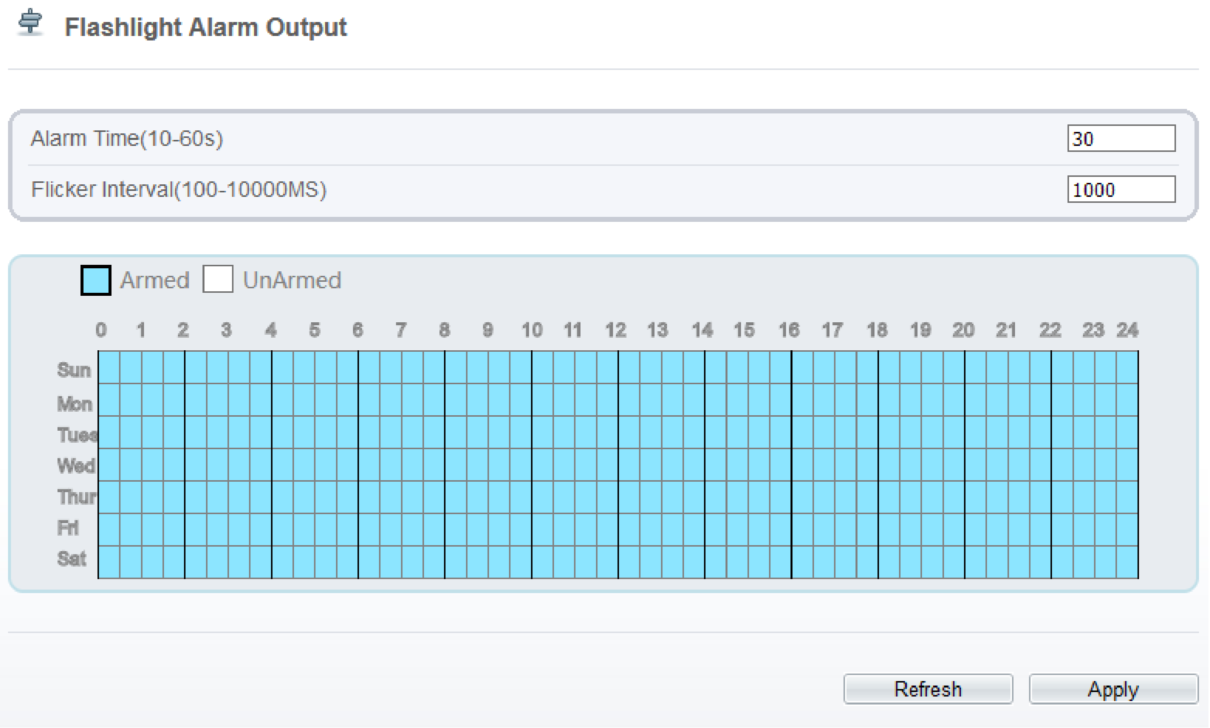
スケジュールの設定方法の詳細については、7.1step4をご参照ください。

**----終了**

# 10.10 白色LEDアラーム (一部機種のみ対応)

Step 1 設定>アラーム>フラッシュライトアラーム出力インターフェースで、図10-12に示すように、フラッシュライトアラームを有効にするスケジュールを設定します。

図10-12 フラッシュライトアラームページ




Step 2 アラーム時間と点滅間隔を設定します。

Step 3 スケジュールを設定します。

Step 4 「適用」をクリックして設定を保存します。

----終了

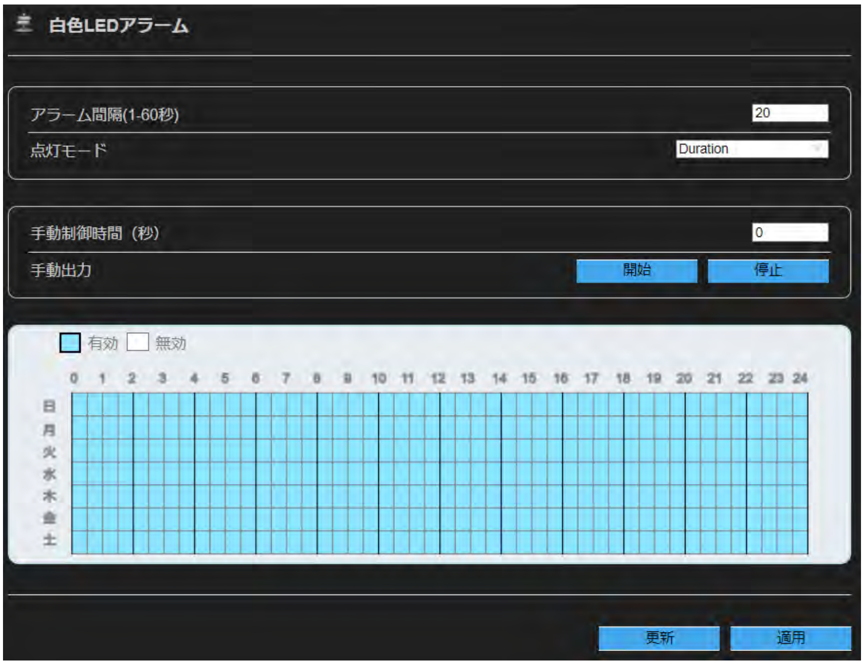
# 10.11 白色LEDアラーム (一部機種のみ対応)

デイナイトモードはナイトモードが選択され、ライトは”赤外線”または”なし”でありことが必要です。この場合に、リンクアクションは有効です。

白色LEDアラームを有効にすると、アラームがトリガーされると白色LEDが点灯します。

Step 1 設定>アラーム>白色光アラーム出力インターフェースで、図10-13に示すように、アラームの持続時間を設定します。

図10-13 白色LEDアラームページ




Step 2 アラームの持続時間を設定します。これにより、白色LEDの点灯時間が決まります。

Step 3 スケジュールを設定します。

Step 4 「適用」をクリックして設定を保存します。

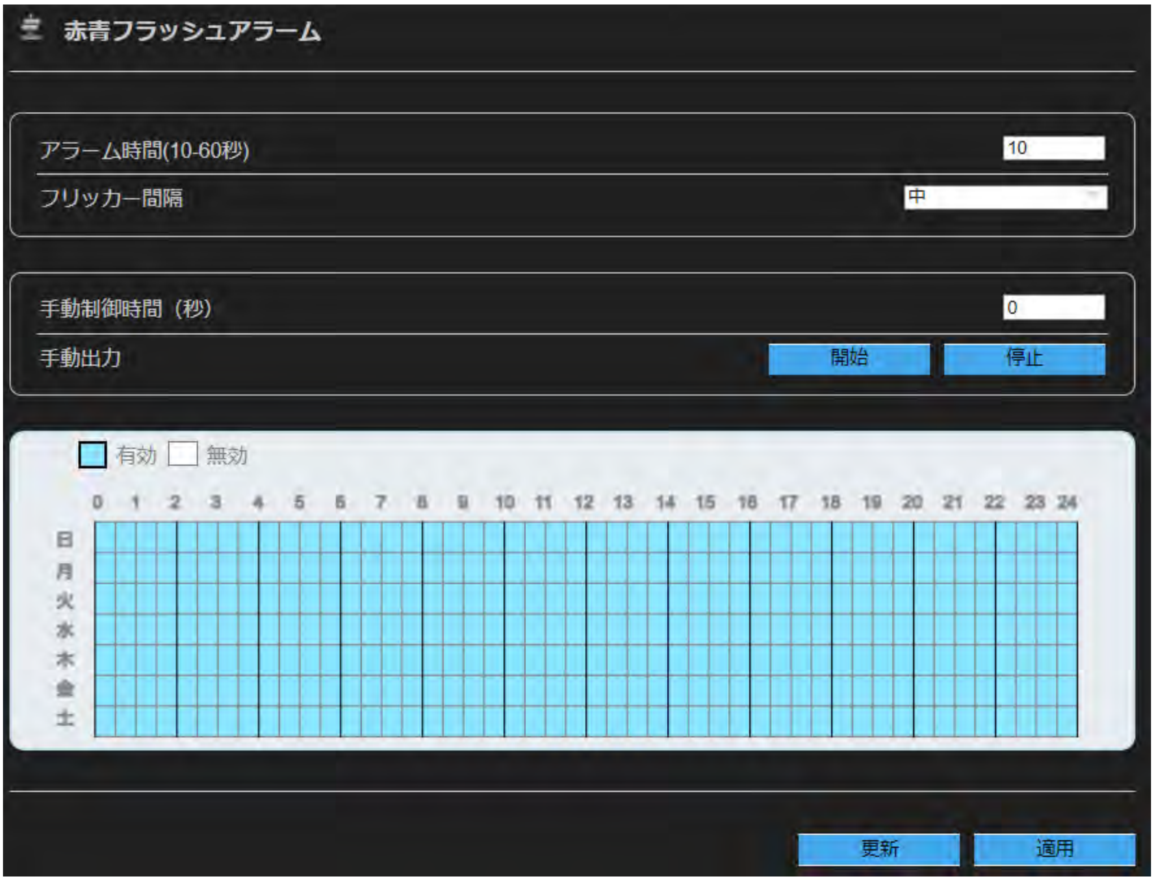
----終了

# 10.12 赤青ライトアラーム出力 (一部機種のみ対応)

赤青フラッシュライトアラームを有効にすると、アラームが作動すると、赤と青のライトが点滅します。

Step 1 設定>アラーム>赤青フラッシュライトアラーム出力インターフェースで、図10-13に示すように、アラームの持続時間を設定します。

図10-14 赤青ライトアラーム出力ページ




Step 2 アラーム時間を設定すると、ライトの点灯時間が決まります。

Step 3 ライトの点滅の間隔（高、中、低）を設定します。

Step 4 手動制御の継続時間を設定し、「開始」をクリックすると、アラームは設定時間の間実行されます。手動アラームを終了するには、「停止」をクリックします。

Step 5 スケジュールを設定します。

Step 6 「適用」をクリックして設定を保存します。

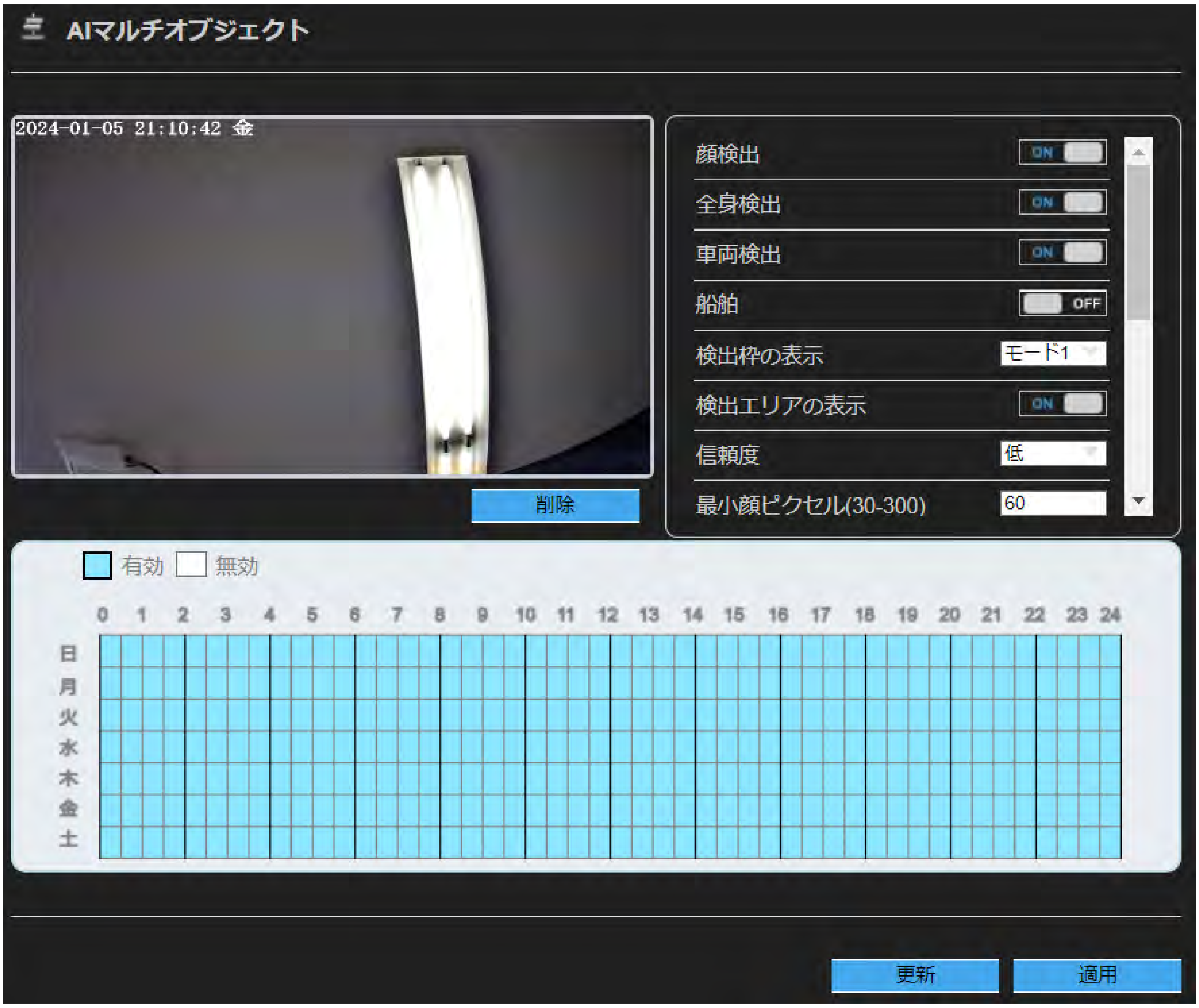
----終了

# 11 AIマルチオブジェクト

## 11.1 AI設定

検出された顔と車両プレートのパラメータを設定するには、「設定」>「AIマルチオブジェクト」を選択します。

図11-1 AIマルチオブジェクトページ



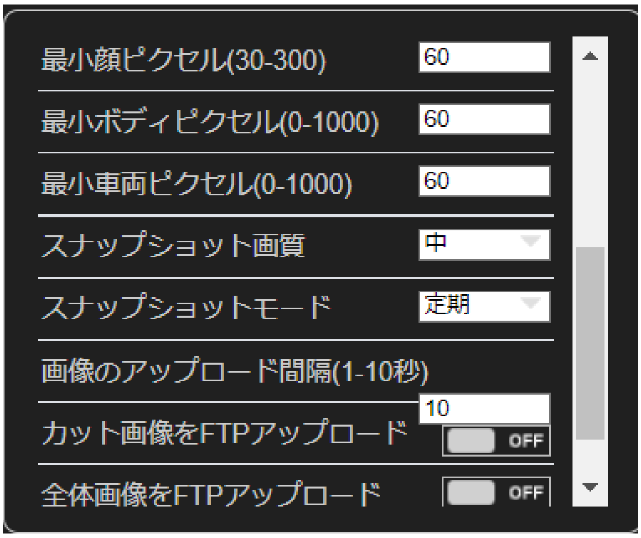
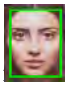
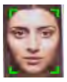



表11-1にAIマルチオブジェクトパラメータを示します。

表11-1 AIマルチオブジェクトパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| 顔検出 | ライブビデオに人物が登場すると、カメラがその顔を撮影します。 | 有効化 |
| 全身検出 | ライブビデオに人物が登場すると、カメラが全身を撮影します。 | 有効化 |
| 車両検出 | ライブビデオに車両が登場すると、カメラが車両を撮影します。 | 有効化 |
| 検知枠表示モード | ライブ映像上に表示される検出枠を1つ選択します。3つのモードから選択できます。<br>モード 1 <br>モード2: <br>モード3はモザイクです。<br>ユーザーは、表示時に枠を非表示にするにはOFFを選択できます。 | ドロップダウンリストから選択します。 |
| 検出エリア | ライブ映像上に検出エリアを表示させます。 | |
| 信頼度 | スナップ画像の範囲には、高、中、低の3種類があります。信頼性が高いほど、スナップの品質は向上し、スナップショットの数が少なくなります。 | ドロップダウンリストから選択します。 |
| 最小顔ピクセル(30-300) | 30～300ピクセル。ピクセルを小さく設定するほど、より多くの顔を捉えることができますが、精度が下がる可能性があります。 | 30～300の範囲の値を入力してください。 |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
| --- | --- | --- |
| 最小全身ピクセル (30-300) | 30～300ピクセル。ピクセルを小さく設定するほど、より多くの物体が写りますが、精度が下がる可能性があります。 | 30～300の範囲の値を入力してください。 |
| 最小車両ピクセル (30-300) | 30～300ピクセル。ピクセルを小さく設定するほど、より多くの物体が写りますが、精度が下がる可能性があります。 | 30～300の範囲の値を入力してください。 |
| スナップショット品質 | スナップ画像の品質は、低、中、高の3つのモードから選択できます。 | ドロップダウンリストから選択します。 |
| スナップショットモード | タイミングや最適など選べる3つのモードがあります。 | ドロップダウンリストから選択します。 |
| 画像のアップロード間隔 (1-10 秒) | タイミングモードでは、画像をアップロードする間隔を設定します。 | 1～10の範囲の値を入力してください。 |
| FTPアップロード画像品質 | 設定>ネットワークサービス>FTP、FTP関連のパラメータを設定すると、キャプチャされた画像は設定されたFTPの場所に送信されます。 | 有効化 |
| FTP全体画像アップロード | 写真を撮影し、全体の画像を送信します。 | 有効化 |

# 12 録画機能の設定

NOTE
一部の機種ではSDカードがサポートされておらず、録画機能が無効になっている場合があります。実際の製品をご参照ください。

## 12.1 録画スケジュール

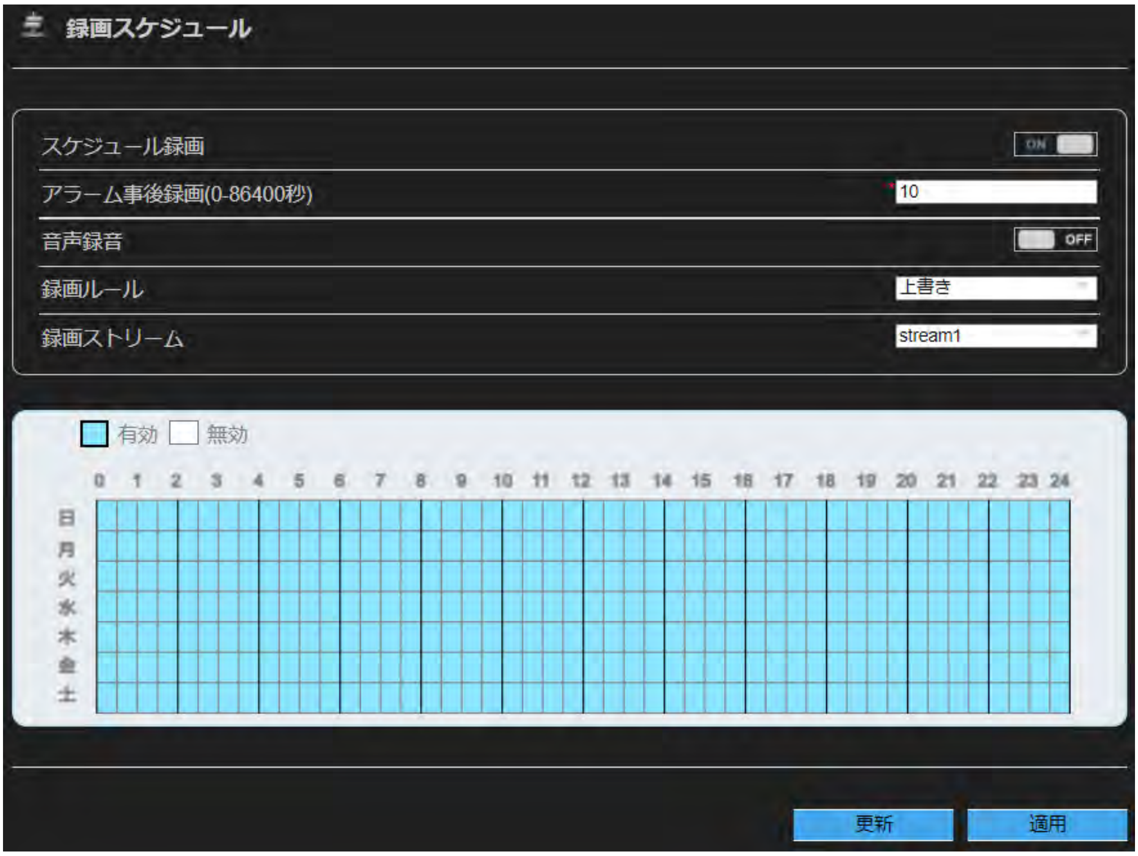
スケジュール録画機能、アラーム録画機能、録画品質、録画ルールを設定できます。

### 手順

Step 1 [設定]>[デバイス録画]>[録画設定]を選択します。

図12-1に示すように、「録画設定」ページが表示されます。

図12-1 録画スケジュールページ




Step 2 表12-1に従ってパラメータを設定します。

表12-1 録画スケジュールパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
| --- | --- | --- |
| スケジュール録画 | 時間帯で録画できるスケジュール録画を有効にします。 | [設定方法]<br>スケジュール録画を有効にするには、ボタンをクリックします。<br>[初期値] OFF |
| アラーム事後録画 (0-86400 秒) | アラー作動後の録画期間（秒単位）。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| 音声録画 | 映像と一緒に音声を録画するかどうかを示します。 | [設定方法]<br>音声録画を有効にするには、ボタンをクリックします。 |
| 録画ルール | 録画を保存するためのルール。選択肢は次のとおりです。<br>・**周期録画**: 録画を周期的に保存します。<br>・**期間録画:** 録画を保存する期間（日数）。期間は最大99999日間です。<br>NOTE<br>値0は、録画が上書きされないことを示します。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。 |
| ストリーム名 | ストリームの名前。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。 |

Step 3 録画プランを設定します。

常時録画またはスケジュールに従って映像を録画するように設定できます。スケジュールの設定方法の詳細については、7.1step4をご参照ください。

Step 4 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。
・その他の情報が表示される場合は、パラメータを正しく設定してください。

**-----終了**

# 12.2 録画ディレクトリ

## 説明

録画はSDカード、FTP、またはNSAに保存できます。

## 手順

Step 1 [設定]>[デバイス録画]>[ディレクトリ]を選択します。

録画ディレクトリページが表示され、図12-2に示すように、SDカード、FTP、NASなどの3種類のディスク操作ができます。

図12-2 録画ディレクトリページ

Step 2 表12-2に従ってパラメータを設定します。

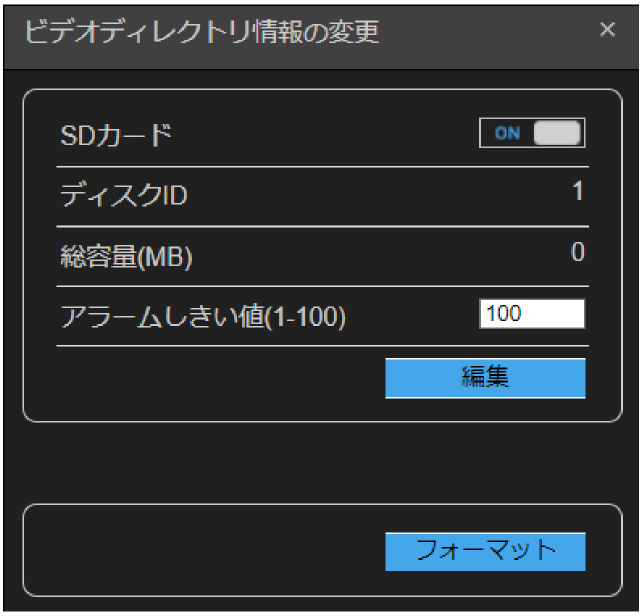
表12-2 録画ディレクトリパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| ディスクタイプ | 録画ディレクトリタイプ。SDカードにすることができます。 | [設定方法]<br>パラメータは手動で設定できません。 |
| ディスクID | ディスクIDを示します。 | |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| グループID | グループHIDを示します。 | |
| 有効化 | 録画ディレクトリを有効にするかどうかを示します。 | |
| 総容量(MB) | ディスク容量の合計。 | |
| 空き容量(MB) | 最大ディスク容量が自動的に読み取られます。 | |
| アラームしきい値(%) | 使用スペースがアラームしきい値に達すると、カメラはアラームを発します。 | |
| ステータス | 現在のカメラと録画ディレクトリ間の接続ステータスが自動的に検出されます。 | |

Step 3 録画パスのパラメータを変更するには、「変更」をクリックします。

図12-3 録画パス修正




----終了

# 12.2.1 SDカードの設定

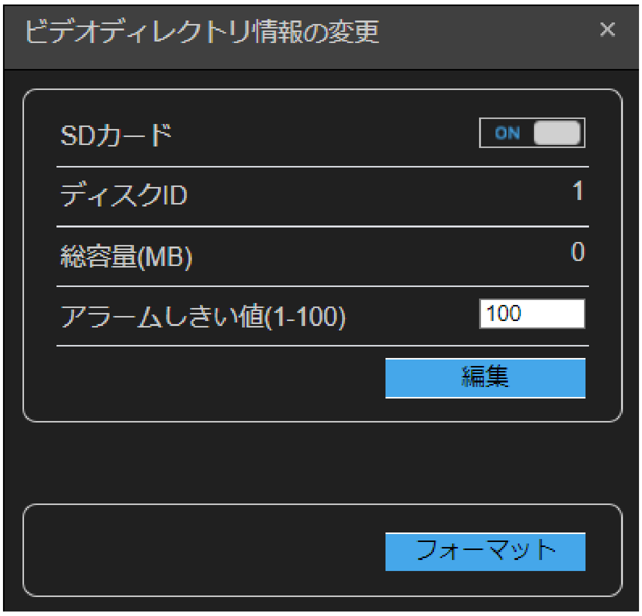
## 手順

Step 1 [設定]>[デバイス録画]>[録画ディレクトリ]を選択します。

Step 2 SDカードを選択し、[変更]をクリックします。

図12-4に示すように、SDカードの録画パスの変更ページが表示されます。

図12-4 SDカード録画パス修正ページ




Step 3 表12-3に従ってパラメータを設定します。

表12-3 SDカード録画パラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| SDカード | 録画を有効にするには、SDカードを有効にします。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてSDカードを有効にします。 |
| ディスクID | SDカードのID。 | N/A |
| 総容量(MB) | 合計ディスク容量が自動的に読み取られます。 | [設定方法]<br>パラメータは手動で設定できません。 |
| アラームしきい値(1-100) | 使用スペースがアラームしきい値に達すると、カメラはアラームを発します。 | [設定方法]<br>1～100の値を入力します。 |

Step 4 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

-----終了

## 12.2.2 FTPの設定

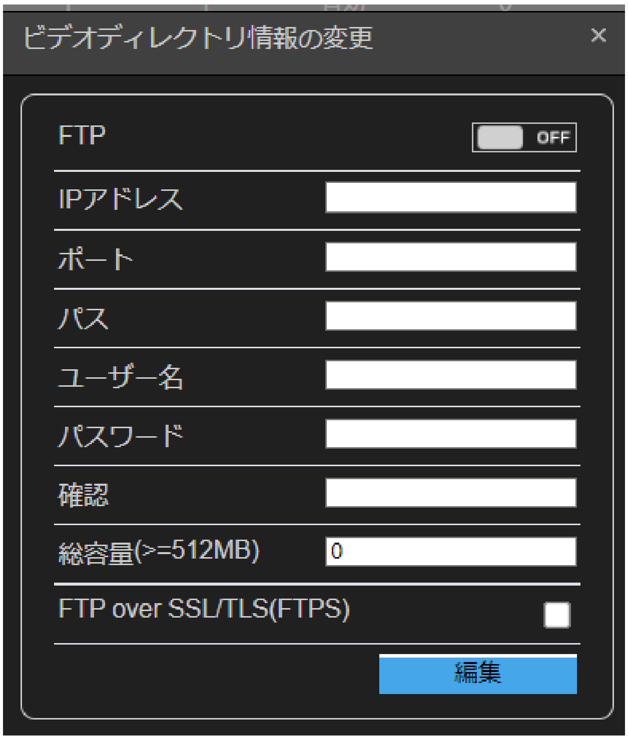
### 手順

Step 1 [設定]>[デバイス録画]>[録画ディレクトリ]を選択します。

Step 2 FTPを選択し、「変更」をクリックします。

図12-5に示すように、FTP録画パスの変更ページが表示されます。

図12-5 FTP録画パス修正ページ




Step 3 表12-4に従ってパラメータを設定します。

表12-4 FTP録画パラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| FTP | FTP(ファイル転送プロトコル)を使用して映像を録画できるようにします。 | [設定方法]<br>有効化 |
| IPアドレス | FTPサーバーのIPアドレス。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| ポート | FTP サーバーのポート。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| パス | 録画を保存するFTPパス。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| ユーザー名 | FTPサーバーアカウント。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| パスワード | FTPサーバーのパスワード。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |

| パラメータ | 詳細 | 設定 |
|---|---|---|
| パスワード確認 | パスワードを確認してください。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| 空き容量(MB) | FTPサーバーの空き容量 | [設定方法]<br>値を入力してください。 |
| FTPオーバーSSL/TLS(FTPS) | 録画データを暗号化して転送します。 | [設定方法]<br>チェック |

Step 4 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

-----終了

## 12.2.3 NASの設定

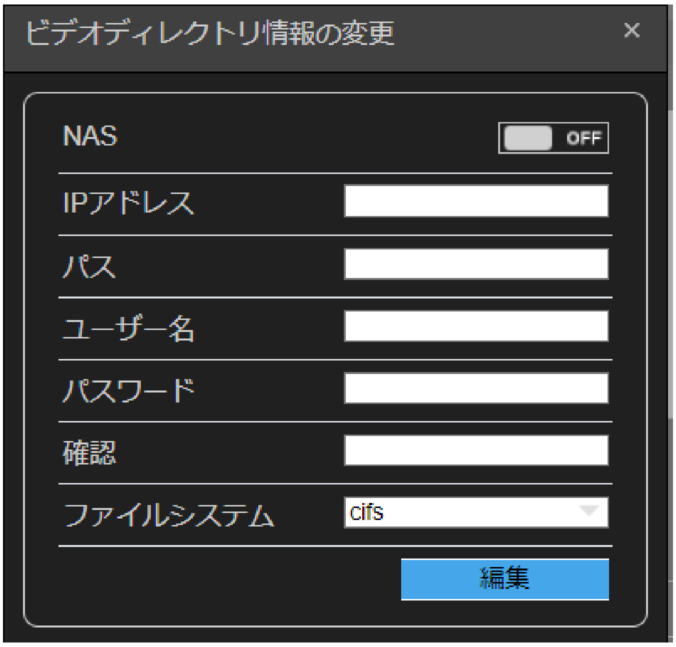
### 手順

Step 1 [設定]>[デバイス録画]>[録画ディレクトリ]を選択します。

Step 2 NASを選択し、「変更」をクリックします。

図12-6に示すように、NASレコードパスの変更ページが表示されます。

図12-6 NAS録画パス修正ページ




Step 3 表12-5に従ってパラメータを設定します。

表12-5 NAS録画パラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| NAS | NAS(ネットワーク接続ストレージ)を使用して映像を録画できるようにします。 | [設定方法]<br>有効化 |
| IPアドレス | NASサーバーのIPアドレス。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| パス | NASデバイスのIPアドレス。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| ユーザー名 | NASデバイスアカウント。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| パスワード | NASデバイスのパスワード。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| パスワード確認 | 確認用のパスワードを入力してください。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| ファイル<br>システム | 選択できるタイプはcifsとnfsの2つです。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値] **cifs** |

Step 4 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

**-----終了**

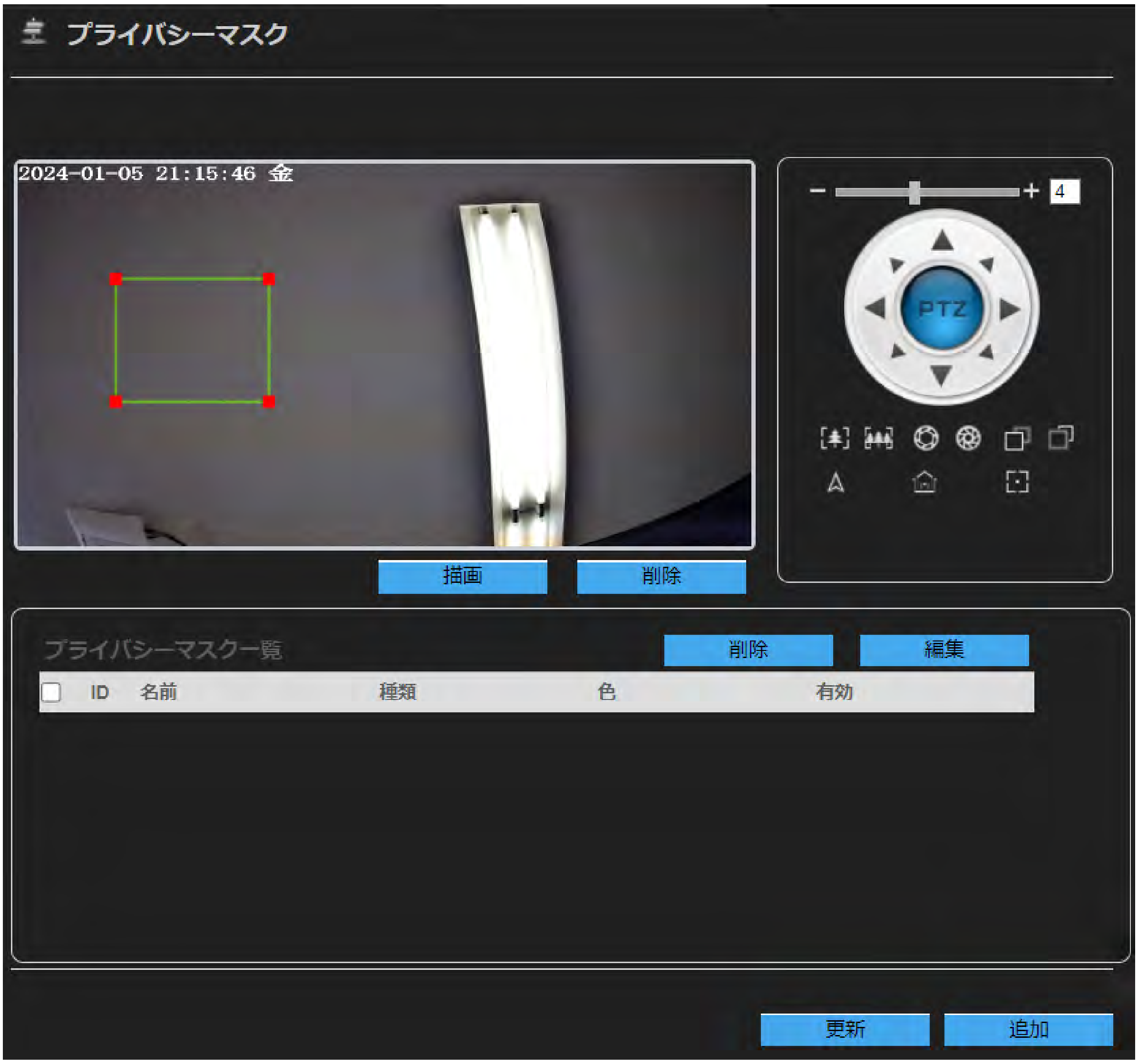
# 13 プライバシーマスクの設定

## 手順

Step 1 [設定]>[プライバシーマスク]を選択します。

図13-1に示すように、プライバシーマスクページが表示されます。

図13-1 プライバシーマスクページ




Step 2 「描画」をクリックして赤い枠を表示し、長方形の四隅をドラッグして位置を調整します。

Step 3 選択したフレームを削除するには、「削除」をクリックします。

NOTE

・マスクできる画像の最大割合は、機種によって異なります。ページに表示されるヒントをお読みください。

・最大4つのエリアをマスクできます。

・マスク領域のIDにチェックを入れ、[削除]をクリックすると、マスクが削除されます。

Step 4 表13-1に従ってパラメータを設定します。

表13-1 プライバシーマスクパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| ID | プライバシーマスクのID。 | N/A |
| 名前 | プライバシーマスクの名前。 | [設定方法]<br>名前をクリックして、値を手動で入力します。<br>[初期値]<br>**空白** |
| 種類 | プライバシーマスクの種類。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値]<br>**カラーブロック** |
| 色 | プライバシーマスクの色。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値]<br>**黒** |
| 有効化 | プライバシーマスクを有効にするかどうかを示します。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値]<br>**有効** |
| 削除 | プライバシーマスクを削除します。 | [設定方法]<br>1.プライバシーマスクリストからプライバシーマスクを選択します。<br>2.[削除]をクリックすると、プライバシーマスクが正常に削除されます。 |
| 修正 | プライバシーマスクを変更します。 | [設定方法]<br>3.プライバシーマスクリストからプライバシーマスクを選択します。<br>4.パラメータをクリックして変更します。<br>5.[変更]をクリックすると、プライバシーマスクが正常に変更されます。 |

Step 5 プライバシーマスクを追加するには、[追加]をクリックします。

**----終了**

# 14 ネットワークサービスの設定

## 14.1 802.1x

### 準備

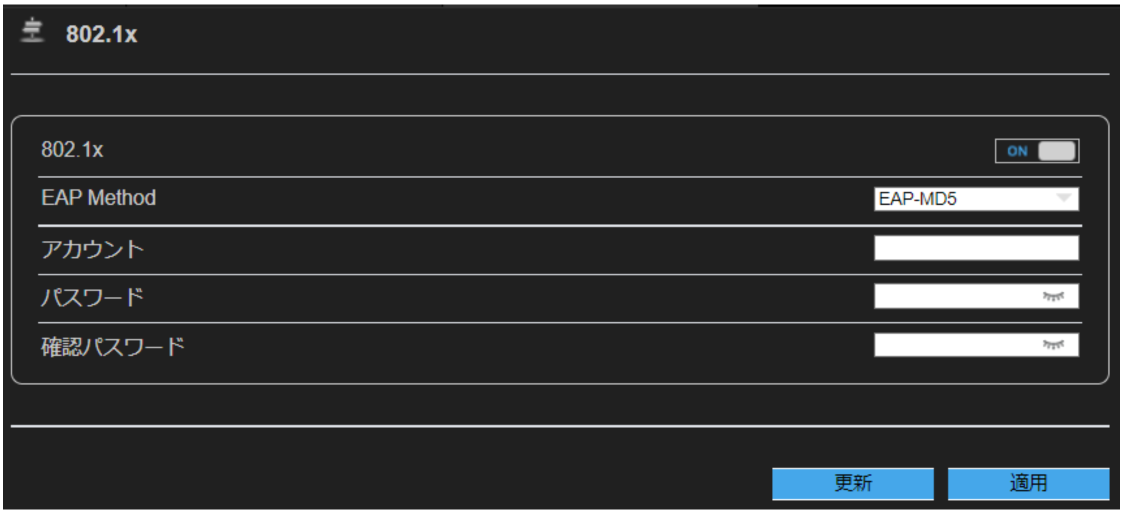
アクセスポートには802.1x認証を設定する必要があります。これにより、ポートに接続されたユーザーのデバイスのネットワークリソースへのアクセスが制御されます。

### 手順

Step 1 [設定]>[ネットワークサービス]>[802.1x]を選択します。

図14-1に示すように、802.1xページが表示されます。

図14-1 802.1xページ




Step 2 802.1xを有効にするには、ボタンをクリックします。

Step 3 ドロップダウンリストからEAPメソッド(拡張認証プロトコル)を選択します。EAP-MD5とEAP-TLSを選択できます。

Step 4 アカウント名を入力してください。

Step 5 パスワードを入力し、パスワードを確認します。

Step 6 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

**----終了**

# 14.2 DDNS

## 準備

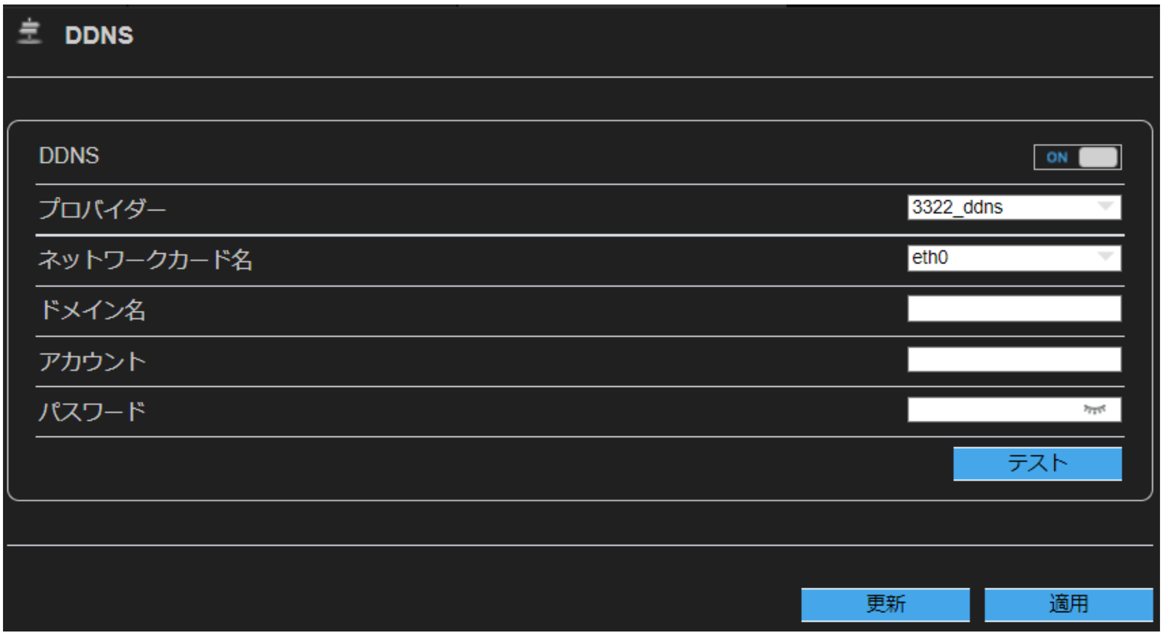
指定されたカメラをインターネットに接続し、ダイナミックドメインネームシステム(DDNS)サーバーにログインするためのユーザー名とパスワードを取得します。

## 手順

Step 1 [設定]>[ネットワーク]>[DDNS]を選択します。

図14-2に示すように、DDNSページが表示されます。

図14-2 DDNSページ




Step 2 DDNSを有効にするには、ボタンをクリックします。

Step 3 表14-1に従ってパラメータを設定します。

表14-1 DDNSパラメータ

| パラメータ | 詳細 | 設定 |
|---|---|---|
| DDNS | DDNSサービスを有効にするかどうかを示します。 | [設定方法]<br>DDNSを有効にするには、ボタンをクリックします。<br>[初期値] OFF |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| プロバイダ | DDNSサービスプロバイダー。現在、3322とdyndnsのみがサポートされています。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値]<br>3322<br>NOTE<br>サイトの要件に基づいてこのパラメータを設定します。 |
| ネットワークカード名 | ネットワークカードの名前 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[初期値]<br>Eth0 |
| ホスト名 | ホスト名はユーザーによってカスタマイズされます。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値] 空白 |
| アカウント | DDNSサーバーにログインするためのユーザー名。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値] 空白 |
| パスワード | DDNSサーバーにログインするためのパスワード。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値] 空白 |

Step 4 「適用」をクリックします。

- 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。
- その他の情報が表示される場合は、パラメータを正しく設定してください。

----終了

## 14.3 PPPoE

### 準備

ネットワークキャリアからPPPoEユーザー名とパスワードを取得します。

## 説明

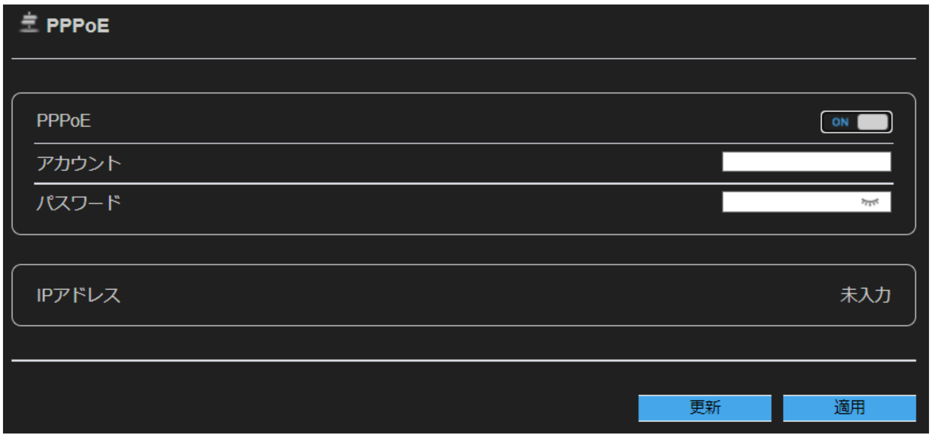
PPPoE接続を使用する場合は、PPPoEページでユーザー名とパスワードを入力する必要があります。デバイスを再起動すると、PPPoE設定が有効になり、デバイスはパブリックIPアドレスを取得します。

## 手順

Step 1 [設定]>[ネットワーク]>[PPPoE]を選択します。

図14-3に示すように、PPPoEページが表示されます。

図14-3 PPPoEページ




Step 2 PPPoEを有効にするには、ボタンをクリックします。

Step 3 表14-2に従ってパラメータを設定します。

表14-2 PPPoEパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| PPPoE | クリックすると PPPoE ダイヤルが有効になります。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] OFF |
| アカウント | ネットワークキャリアが提供する PPPoE のユーザー名。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| パスワード | ネットワークキャリアから提供される PPPoE のパスワード。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |

Step 4 「適用」をクリックします。

- 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。
- その他の情報が表示される場合は、パラメータを正しく設定してください。

----終了

# 14.4 Portマッピング

## 説明

ポートマッピングは、プライベートネットワークと外部ネットワーク間のマッピング関係を確立するのに役立ちます。ポートマッピングにより、外部のコンピューターがイントラネットデバイスにアクセスできるようになるため、ネットワークが効率的に機能します。

## 手順

Step 1 [設定]>[ネットワーク]>[ポートマッピング]を選択します。

図14-4に示すように、ポートマッピングページが表示されます。

図14-4 ポートマッピングページ1

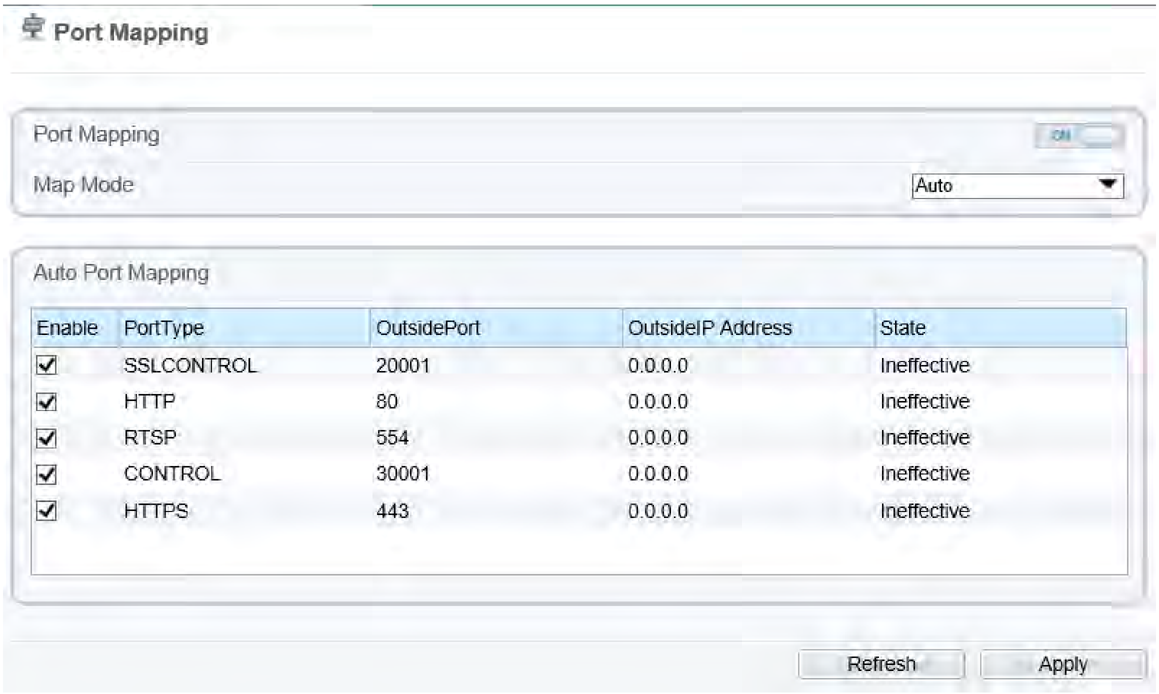


図14-5 ポートマッピングページ2

Step 2 ポートマッピングを有効にするには、ボタンをクリックします。

Step 3 表14-3に従ってパラメータを設定します。

表14-3 ポートマッピングパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| ポートマッピング | ポートマッピングサービスを有効にするかどうかを示します。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] OFF |
| マップモード | ポートマッピングのモード。自動と手動が含まれます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>オート |
| ポートタイプ | ポートタイプには、SSLCONTROLHTTP、RTSP、コントロール、HTTPSが含まれます。 | N/A |
| 外部ポート | 外部ネットワークのポート。 | [設定方法]<br>マップモードで値を手動で入力します。 |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| 外部IPアドレス | 外部ネットワークのIPアドレス。 | N/A |
| 状態 | マッピングステータス | N/A |

Step 4 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

その他の情報が表示される場合は、パラメータを正しく設定してください。

----終了

# 14.5 SMTP

## 説明

シンプルメール転送プロトコル(SMTP)機能が有効になっている場合、アラームが発生すると、デバイスは指定された電子メールアドレスにJPG画像とアラーム情報を自動的に送信します。

## 手順

Step 1 [設定]>[ネットワーク]>[Eメール]を選択します。

図14-6に示すように、Eメールページが表示されます。

図14-6 SMTPページ

Step 2 表14-4に従ってパラメータを設定します。

NOTE

* でマークされたパラメータは必須です。

表14-4 SMTPパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
| --- | --- | --- |
| SMTPサーバーアドレス | SMTPサーバーのIPアドレス。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| SMTPサーバーポート | SMTPサーバーのポート番号。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値]<br>25 |
| ユーザー名 | メールを送信するためのメールボックスのユーザー名。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| パスワード | メールを送信するためのメールボックスのパスワード。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| 送信者<br>メールアドレス | メールを送信するための<br>メールボックス。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| 受信者<br>メールアドレス1 | (必須)受信者1の電子メールアドレス。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| 受信者<br>メールアドレス2 | (オプション)受信者2の<br>電子メールアドレス。 | |
| 受信者<br>メールアドレス3 | (オプション)受信者3の<br>電子メールアドレス。 | |
| 受信者<br>メールアドレス4 | (オプション)受信者4の<br>電子メールアドレス。 | |
| 受信者<br>メールアドレス5 | (オプション)受信者5の<br>電子メールアドレス。 | |
| 添付ファイルの画像品質 | 画像の品質が高いほど、保存スペースも大きくなります。サイトの要件に基づいてこのパラメータを設定してください。 | N/A |
| 暗号化方式 | 電子メールの暗号化モード。SMTPサーバーでサポートされている暗号化モードに基づいてこのパラメータを設定します。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから選択します。<br>[設定方法]<br>暗号化なし |

Step 3 「適用」をクリックします。

- 「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。
- その他の情報が表示される場合は、パラメータを正しく設定してください。

----終了

# 14.6 FTP

## 説明

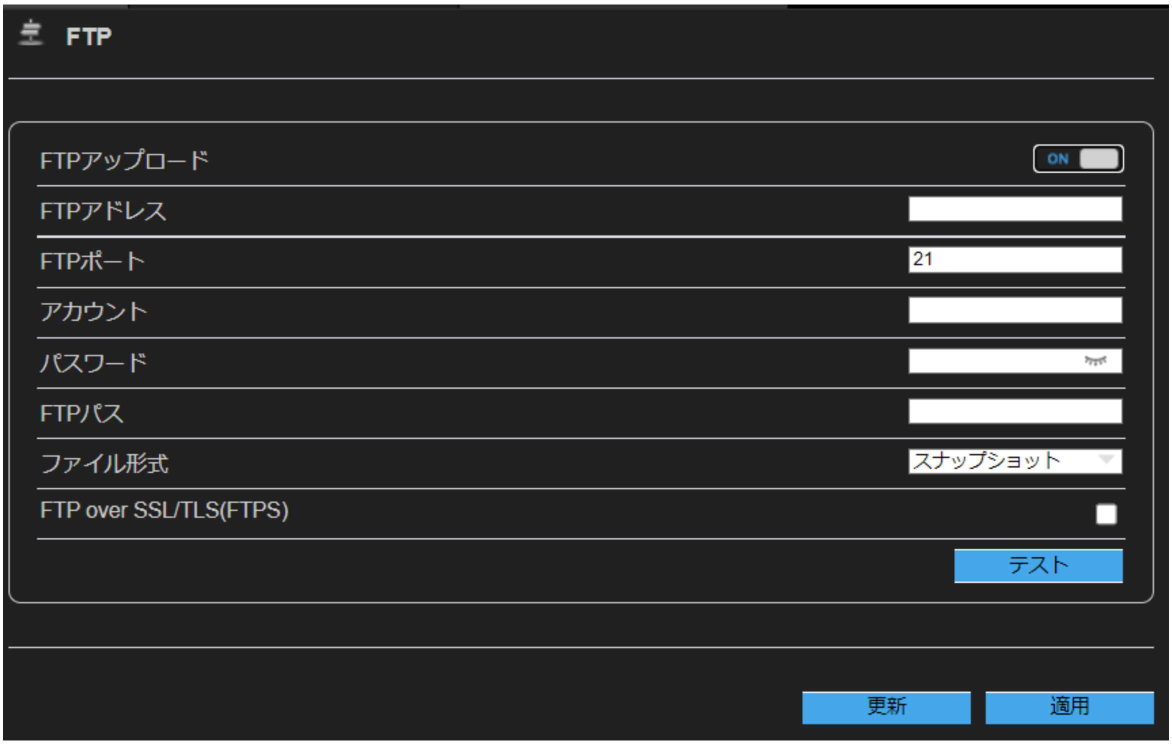
ファイル転送プロトコル(FTP)ボタンが有効になっている場合、デバイスはスナップされたアラームJPG画像を指定されたFTPサーバーに自動的に送信します。

## 手順

Step 1 [設定]>[ネットワーク]>[FTP]を選択します。

図14-7に示すように、FTPページが表示されます。

図14-7 FTPページ




Step 2 ボタンをクリックしてFTPを有効にします。

Step 3 表14-5に従ってパラメータを設定します。

表14-5 FTPパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| FTP<br>アップロード | FTPサービスを有効にするかどうかを示します。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] OFF |
| FTPアドレス | FTPサーバーのIPアドレス。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| FTPポート | FTPサーバーのポート。 | [設定方法]<br>N/A<br>[初期値]<br>21 |
| アカウント | FTPサーバーアカウント。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| パスワード | FTPサーバーのパスワード。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| FTPパス | JPG画像を保存するFTPパス。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| ファイル形式 | FTP、スナップショット、またはビデオクリップに送信するメディアタイプ。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>スナップショット |
| FTP経由<br>SSL/TLS(FTPS) | ファイルを転送するときにSSL/TLS で暗号化します。 | [設定方法]<br>クリック |

Step 4　FTPテストをクリックしてパラメータを確認し、「テスト成功」と表示されればパラメータは正常です。「テスト失敗」と表示されたら、情報を正しく変更する必要があります。
Step 5 「適用」をクリックします。

・「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。
・その他の情報が表示される場合は、パラメータを正しく設定してください。

**----終了**

# 14.7 IPフィルタ

## 説明

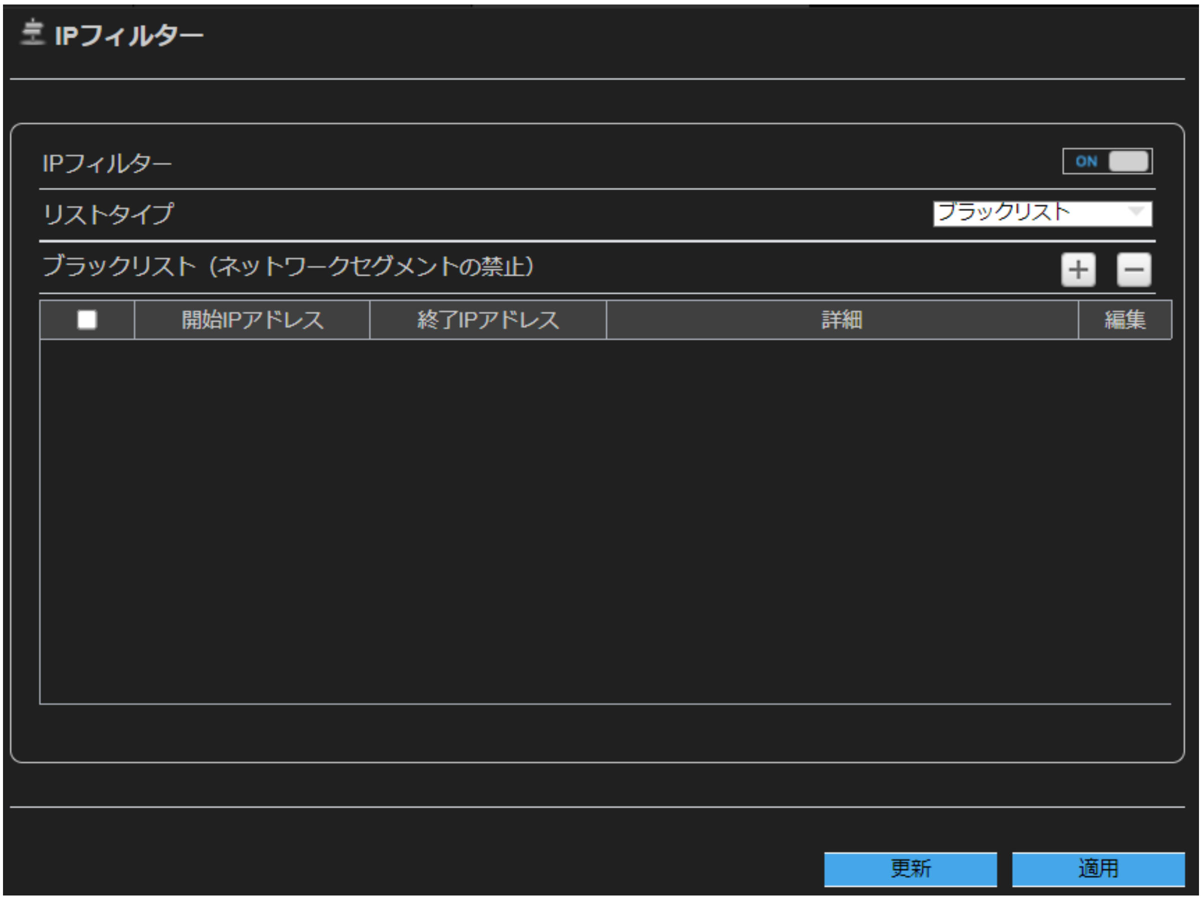
指定されたネットワークセグメント内のIPアドレスを設定して、アクセスを許可または禁止します。

## 手順

Step 1 [設定]>[ネットワーク]>[IPフィルター]を選択します。

図14-8に示すように、IPフィルタページが表示されます。

図14-8 IPフィルタページ



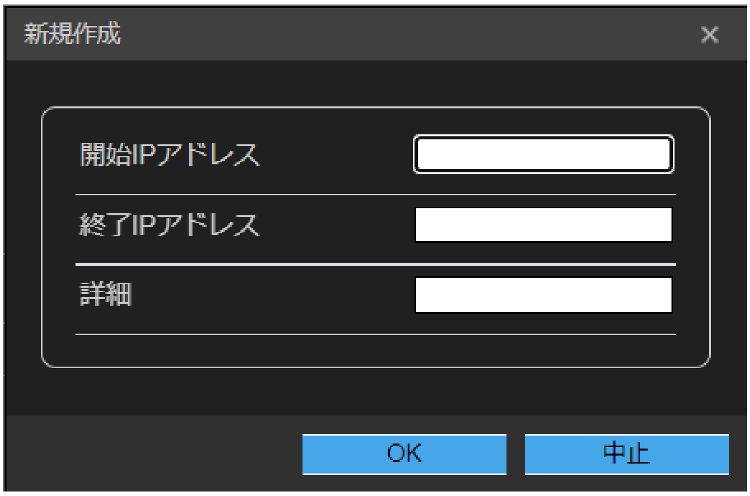

Step 2 IPフィルターを有効にするには、ボタンをクリックします。

Step 3 表14-6に従ってパラメータを設定します。

表14-6 IPフィルタパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
| --- | --- | --- |
| IPフィルター | IPフィルターを有効にするかどうかを示します。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] OFF |
| ルールタイプ | IPフィルタータイプには、ブラックリストとホワイトリストが含まれます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>ブラックリスト |
| ブラック<br>リスト | 指定されたネットワークセグメントを禁止する必要があります。 | [設定方法]<br>6.図14-9に示すように、 をクリックするとブラック/ホワイトリストの追加ページに入ります。<br>7. 開始IPアドレスを入力します。<br>8. 終了IPアドレスを入力します。<br>9. 説明を入力してください。<br>10.「OK」をクリックすると、ブラックリストが正常に追加されます。 |
| ホワイト<br>リスト | 指定されたネットワーク セグメントへのアクセスを許可します。 | [設定方法]<br>1.図14-9に示すように、 をクリックするとブラック/ホワイトリストの追加ページに入ります。<br>2. 開始IPアドレスを入力します。<br>3. 終了IPアドレスを入力します。<br>4. 説明を入力してください。<br>5. 「OK」をクリックすると、ブラッククリストが正常に追加されます。 |

図14-9 IPフィルタページの追加



**NOTE**

ブラックリストまたはホワイトリストの設定パラメータを変更するには、をクリックします。

設定のブラックリストまたはホワイトリストを削除するには、をクリックします。

Step 4 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

**----終了**

# 14.8 CGIアラームサービスセンター

## 説明

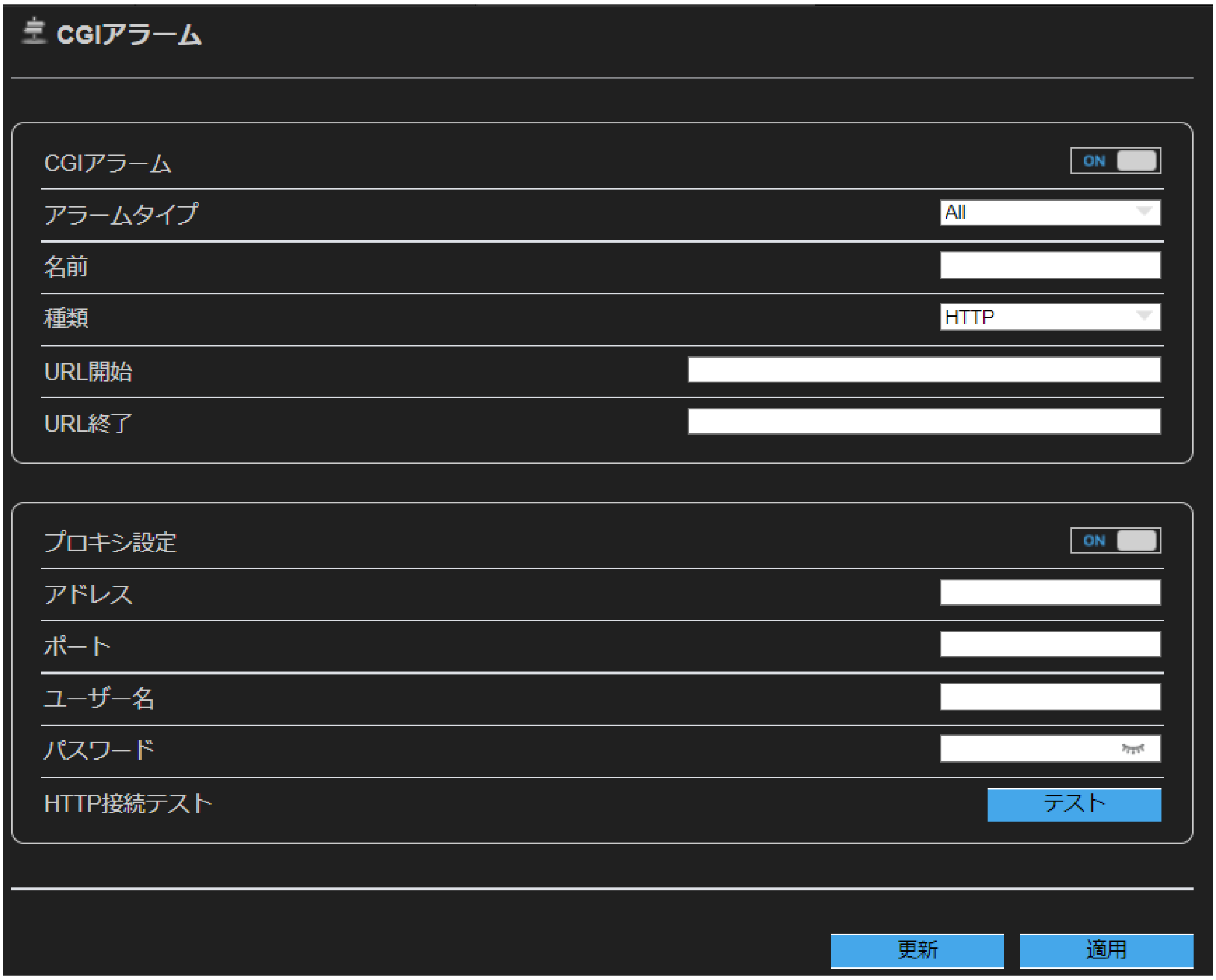
デバイスは、開始URLと終了URLを含むCGIによってアラームメッセージをプッシュし、HTTPプロトコルによってCGIサーバーにデータを送信します。CGIアラームメッセージは、HTTPのUser-Agentのヘッドです。HTTPプロトコルを使用して取得し、CGIサーバーに送信します。CGIアラームメッセージを統合する必要がある場合は、HTTPヘッド「User-Agent」を解決して、CGIアラームメッセージのデータを取得する必要があります。

## 手順

Step 1 [設定]>[ネットワーク]>[CGIアラームサービスセンター]を選択します。

図14-10に示すように、CGIアラームサービスセンターページが表示されます。

図14-10 CGIアラームサービスセンター




Step 2 CGIアラームを有効にするには、ボタンをクリックします。

Step 3 表14-7に従ってパラメータを設定します。

表14-7 CGIアラームサービスセンターのパラメータ

| パラメータ | 詳細 | 設定 |
| --- | --- | --- |
| CGIアラーム | CGIアラームを有効にするかどうかを示します。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値]<br>OFF |
| アラームタイプ | すべてのアラームタイプを選択でき、ユーザーはアラームを1つを選択するか、すべてを選択できます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値] すべて |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| 名前 | CGIアラームの名前。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| タイプ | CGIアラームの種類。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値] HTTP |
| URLスタート | 開始URLでCGIからアラームメッセージを通知します。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>例:<br>http://192.168.35.74:80/MajorAlarmType&MinorAlarmType&SourceName&DeviceID&DeviceIP&AlarmTime&Description |
| URLエンド | 終了URLを指定したCGIで警告メッセージを通知します。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>例:<br>http://192.168.35.74:80/MajorAlarmType&MinorAlarmType&SourceName&DeviceID&DeviceIP&AlarmTime&Description |
| プロキシ設定 | プロキシを有効にするかどうかを示します。<br>CGIアラームを転送するCGIアラームの転送サーバー。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値]<br>OFF |
| アドレス | フォワーダーサーバーのIPアドレス。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| ポート | フォワーダーサーバーのポート。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| プラットフォームユーザー名 | フォワーダーサーバーのユーザー名。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| プラットフォームパスワード | フォワーダーサーバーのパスワード。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| 指定されたHTTPサーバーへの接続テスト | デバイスがプロキシに正常に接続するかどうかをテストします。 | [設定方法]<br>[テスト]をクリックし、デバイスがプロキシに正常に接続すると、「CGIアラームのテストが成功しました」というメッセージが表示されます。 |

Step 4 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。
その他の情報が表示される場合は、パラメータを正しく設定してください。

----終了

# 14.9 SNMP

## 説明

簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)はインターネット標準プロトコルであり、SNMPv1、SNMPv2c、およびSNMPv3ネットワークプロトコルをサポートしています。適切なSNMPプロトコルバージョンを選択し、SNMPプロトコルパラメータを設定して、IPネットワーク上の管理対象デバイスに関する情報を収集および整理します。

## 手順

Step 1 [設定]>[ネットワーク]>[SNMP]を選択します。

図14-11に示すように、SNMPページが表示されます。

図14-11 SNMPページ

Step 2 SNMPv1、SNMPv2C、SNMPv3を有効にするには、ボタンをクリックします。

表14-8に従ってパラメータを設定します。

表14-8 SNMPパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| SNMPv1 | SNMPのバージョン。<br>SNMPv1およびSNMPv2cは、コミュニティを使用してマネージャーとエージェント間の信頼を確立します。エージェントは、書き込みコミュニティ、読み取りコミュニティ、およびトラップの3つのコミュニティ名をサポートします。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] OFF |
| SNMPv2c | | |
| 書き込み<br>コミュニティ | 書き込みコミュニティの名前。書き込みコミュニティのみがデータを変更できます。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| 読み込み<br>コミュニティ | 読み取りコミュニティの名前。<br>書き込みコミュニティはデータの読み取りのみ可能です。 | |
| トラップアドレス | トラップのIPアドレス。 | |
| トラップ<br>ポート | トラップからのメッセージを受け入れる管理ポート。 | |
| トラップ<br>コミュニティ | トラップのコミュニティ文字列。<br>トラップコミュニティ文字列により、マネージャーはエージェントから非同期情報を受信できます。 | |
| SNMPv3 | SNMPのバージョン。<br>SNMPv3はコミュニティ文字列を使用しますが、SNMPマネージャーとエージェント間の安全な認証と通信を可能にします。 | [設定方法]<br>ボタンをクリックしてオンにします。<br>[初期値] OFF |
| セキュリティ<br>名の読み取り | 読み取りセキュリティの名前。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| セキュリティ<br>名の書き込み | 書き込みセキュリティの名前。v | |
| セキュリティ<br>レベル | SNMPマネージャーとエージェント間のセキュリティレベルには、次の3つのレベルが含まれます:<br>認証なし:認証なし、暗号化なし<br>Auth:認証あり、暗号化なし<br>Priv:認証あり、暗号化あり | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>空白 |
| 認証<br>アルゴリズム | 認証アルゴリズムには、MD5とSHAが含まれます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>空白 |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| 認証<br>パスワード | 認証パスワード。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| 暗号化<br>アルゴリズム | 暗号化アルゴリズムには、DESとAESが含まれます。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]<br>空白 |
| 暗号化<br>パスワード | 暗号化パスワード。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。 |
| SNMPポート | SNMP のポート。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値]<br>161 |

Step 3 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

**----終了**

# 14.10 QOS

## 説明

デバイスがQOS機能を備えたルーターまたはスイッチに接続され、ネットワークデバイス上で対応するマークの優先ルールが設定されている場合、ネットワークデバイスは対応するマークのデータパケットを優先的に通過させます。

## 手順

Step 1 [設定] > [ネットワーク サービス] > [QOS] を選択します。

図14-12に示すように、QOSページが表示されます。

図14-12 QOSページ

Step 2 0～63の範囲の値を入力します(音声/映像dscp、アラームdscp、コマンドdscp)。

Step 3 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

# 14.11 プラットフォームアクセス

## 説明

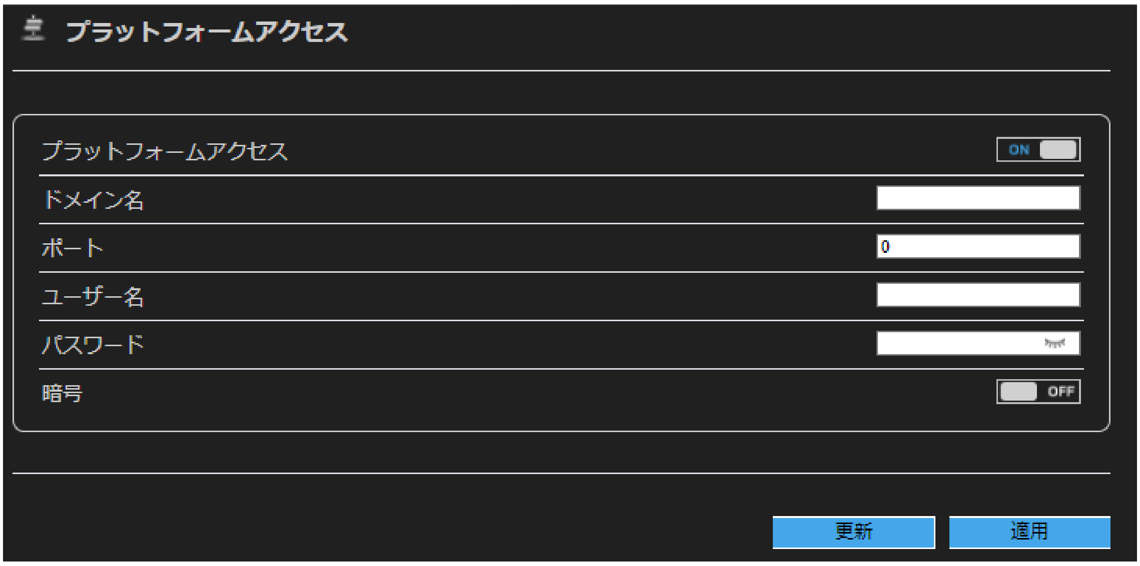
デバイスとプラットフォームシステムが同じローカルネットワーク上にない場合は、デバイスとプラットフォームシステムを外部サーバーに接続できます。プラットフォーム用のサーバーを事前に構築する必要があります。プラットフォームのリモートIP/ポートとIPカメラはポートを外部ネットワークにマッピングします。

## 手順

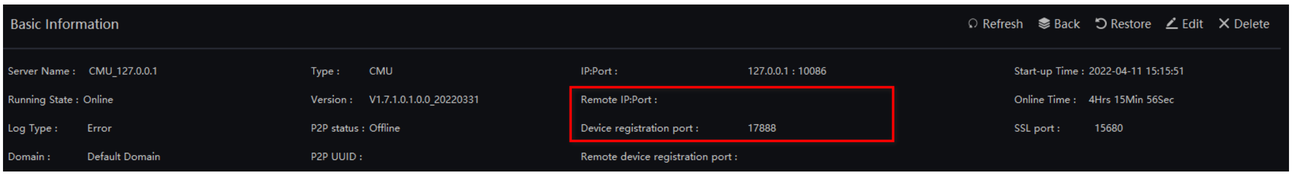
Step 1 [設定]>[ネットワーク]>[プラットフォームアクセス]を選択します。

図14-13に示すように、プラットフォームアクセスページが表示されます。

図14-13 プラットフォームアクセスページ



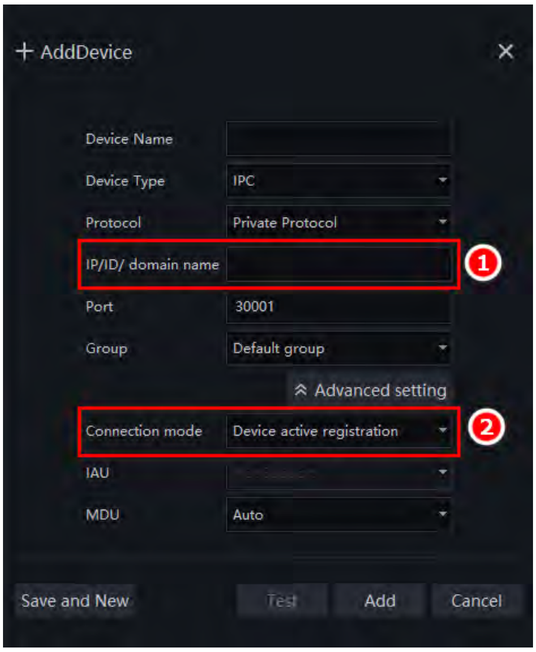
Step 2 パラメータを入力します。図に示すように、ホスト名とポートはプラットフォームと同じです。これは外部ネットワークサーバーのIPまたはドメインです。ユーザー名とパスワードはプラットフォームログインと同じです。

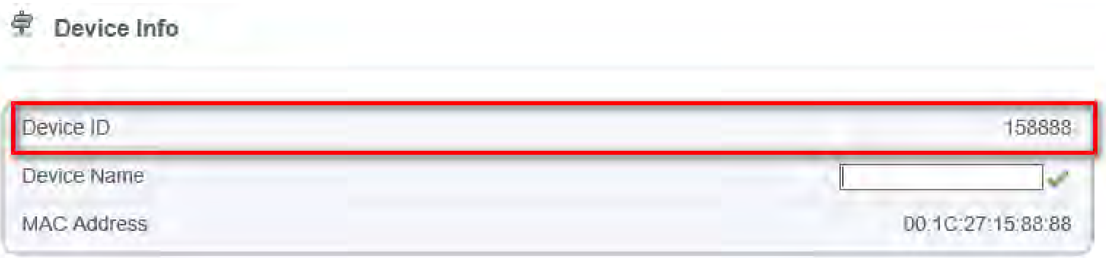



Step 3 IPCをプラットフォームに追加するには、次の情報を入力する必要があります

1: IP/ID/ドメイン名はIPCのデバイスIDです。

2: 接続モードはデバイスアクティブ登録を選択する必要があります。




Step 4 アクセスを暗号化したい場合は、暗号化を有効にできます。

Step 5 「適用」をクリックします。

「適用成功！」というメッセージが表示されると、設定が保存されます。

----終了

# 15 アカウント管理

## 15.1 ユーザー設定

### 説明

権限マネージャーページでユーザーを追加、変更、削除できます。

### 手順

Step 1 [設定]>[権限管ンり]>[ユーザー]を選択します。

図15-1に示すように、ユーザーページが表示されます。表15-1では、パラメータについて説明します。

図15-1 ユーザーページ

Step 2 必要に応じてユーザーを追加、変更、または削除します。

表15-1 ユーザーパラメータ

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| ID | ユーザーID | N/A |
| ユーザー名 | カメラにログインするためのユーザー名。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。 |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| グループ | ユーザーが属する権限グループ。デフォルトの権限グループは、スーパー管理者、管理者、オペレーター、およびメディアユーザーです。それぞれの権限は次のように説明されます。<br>・スーパー管理者: すべての権限が含まれます。<br>・管理者: ライブ映像、ビデオコントロール、PTZ コントロール、音声、再生、バックアップ、録画設定、ディスク設定、権限管理、パラメータ設定、システムメンテナンスとログ、<br>・オペレーター: システムメンテナンス、パラメータ設定、再生、ライブ映像、ビデオコントロール。<br>・メディアユーザー: ライブ映像 | [設定方法]<br>[追加]をクリックし、ドロップダウンリストボックスから値を選択します。 |
| 備考 | ユーザーのメモ。 | [設定方法]<br>「追加」をクリックし、値を手動で入力します。 |
| 操作 | ユーザーの操作には、ユーザーの表示、ユーザーの変更、ユーザーの削除が含まれます。<br>NOTE<br>スーパー管理者は表示のみ可能です。 | [設定方法]<br>必要に応じてアイコンをクリックします。 |

Step 3 必要に応じてユーザーを追加、変更、または削除します。

表15-2は具体的な操作説明です。

表15-2 操作説明

| 機能 | 手順 | 説明 |
|---|---|---|
| 追加 | 1.[追加]をクリックします。<br>図15-2に示すように、[ユーザーの追加]ページが表示されます。<br>2.ユーザー名、パスワード、パスワードの確認を入力します。<br>3.ドロップダウンリストボックスからグループを選択します。<br>4.メモを入力します(オプション)。<br>5.権限を確認します。<br>6.[OK]をクリックします。<br>ユーザーが正常に追加されます。 | 図15-2に示すように、管理者または一般ユーザーを追加します。 |

| 機能 | 手順 | 説明 |
|---|---|---|
| 編集 | 1. をクリックします。ユーザーの変更ページが表示されます。<br>2. ユーザー名、パスワード、グループ、または権限を変更します。[OK]をクリックします。<br>3. ユーザーは正常に変更されました。ユーザーページが表示されます。 | ユーザー名、パスワード、グループ、または権限を変更します。 |
| 削除 | ユーザーリストからユーザーを選択します。<br>をクリックすると、「削除してよろしいですか？」というメッセージが表示されるので、[OK] をクリックすると、グループが正常に削除されます。 | ユーザーを削除します。 |

図15-2 ユーザー追加ページ

**NOTE**

権限をクリックすると、機能の詳細な説明が表示されます。

----終了

# 16 プロトコルパラメータの設定

## 16.1 プロトコル情報

### 説明

図16-1に示すように、[設定]>[プロトコル]>[プロトコル情報]ページで、現在のデバイスの既存のプロトコル名とバージョン番号を表示できます。表16-1では、プロトコル関連のパラメータについて説明します。

図16-1 プロトコル情報ページ

表16-1 プロトコルの関連パラメータ

| パラメータ | 説明 |
|---|---|
| プロトコル名 | アクセス プロトコルのタイプ。 |
| プロトコルバージョン | アクセス プロトコルのバージョン番号。 |
| プロトコルソフトウェアバージョン | アクセス プロトコルのソフトウェア バージョン番号。 |
| RTSPフォーマット | リアルタイム ストリーミング プロトコルの URL ルール。 |
| RTSPの例 | リアルタイム ストリーミング プロトコルの URL の例。 |
| Onvif UUID | ユニバーサルユニーク識別子。 |

# 16.2 セキュリティ認証

## 説明

ONVIF 準拠デバイスがプラットフォームに接続する場合、接続のセキュリティを確保するためにユーザー名とパスワードを認証する必要があります。

## 手順

Step 1 [設定]>[プロトコル]>[セキュリティ]を選択します。

図 16-2 に示すように、「セキュリティ」ページが表示されます。表 16-2 では、「セキュリティ」ページのパラメータについて説明します。

図16-2 セキュリティページ

表16-2 パラメータ説明

| パラメータ | 説明 | 設定 |
| --- | --- | --- |
| ユーザー認証 | [ユーザー検証] チェックボックスをオンにした場合、ユーザー名とパスワードはデバイスの Web ページにログインするときのものと同じである必要があります。<br>NOTE<br>デフォルトのユーザー名は admin で、デフォルトのパスワードは admin です。 | [設定方法]<br>ユーザー認証を有効にするには、ボタンをクリックします。 |

Step 2 「適用」をクリックします。

パラメータ設定が成功したことを示すダイアログボックスが表示されます。設定を有効にするには、[確認]をクリックしてデバイスを再起動します。

----終了

# 16.3 Onvif設定

## 説明

図16-3に示すように、[設定]>[プロトコル]>[Onvif設定]ページで、現在のデバイスの既存のプロトコル名とバージョン番号を表示できます。表16-3では、プロトコル関連のパラメータについて説明します。

図16-3 Onvif設定ページ

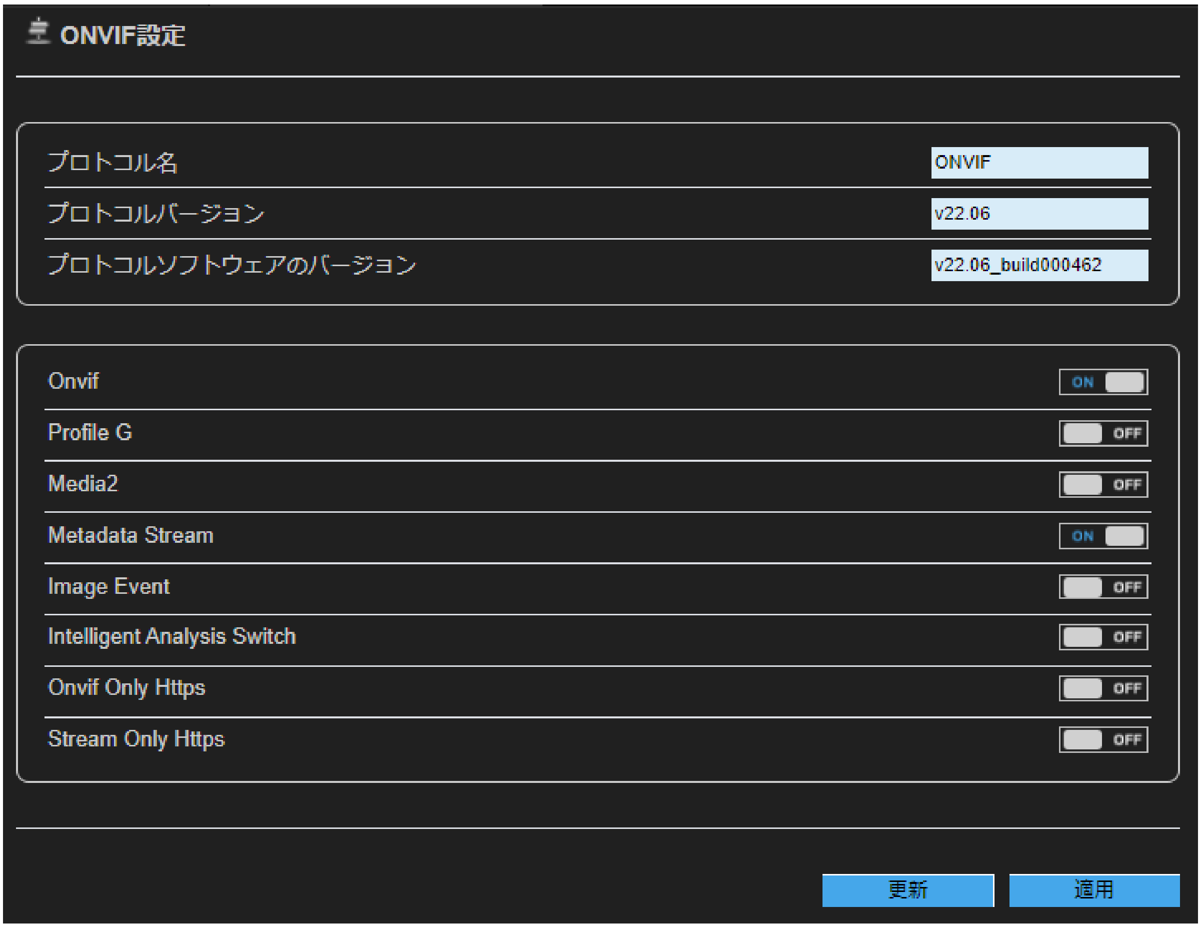



表16-3 プロトコル関連のパラメータ

| パラメータ | 説明 |
|---|---|
| プロトコル名 | アクセスプロトコルのタイプ。 |
| プロトコルバージョン | アクセス プロトコルのバージョン番号。 |
| プロトコルソフトウェアバージョン | アクセス プロトコルのソフトウェア バージョン番号。 |
| プロファイルG | ONVFIプロファイルGを有効にします。 |
| AI分析スイッチ | インテリジェント分析スイッチを有効にします。 |

| パラメータ | 詳細 |
|---|---|
| メディア2 | メディア2を有効にします。 |
| 画像イベント | 画像イベントを有効にします。 |
| インテリジェント分析スイッチ | アクティブONVIFを有効にします。 |
| OnvifのみHttps | Onvifは、接続、コマンドのやり取り、ビデオデータの送信に、より安全なHTTPSモードを使用できます。これらは暗号化されて送信されるため、ネットワークセキュリティが強化されます。 |
| ストリームのみ https | |

# 16.4 マルチキャストパラメータ

## 説明

マルチキャストパラメータページで、マルチキャストストリームID、ビデオポート、オーディオポート、ソースポートを設定できます。

## 手順

Step 1 [設定]>[プロトコル]>[マルチキャストパラメータ]を選択します。

図16-4に示すように、マルチキャストパラメータページが表示されます。表16-4では、マルチキャストパラメータページのパラメータについて説明します。

図16-4 マルチキャストパラメータページ

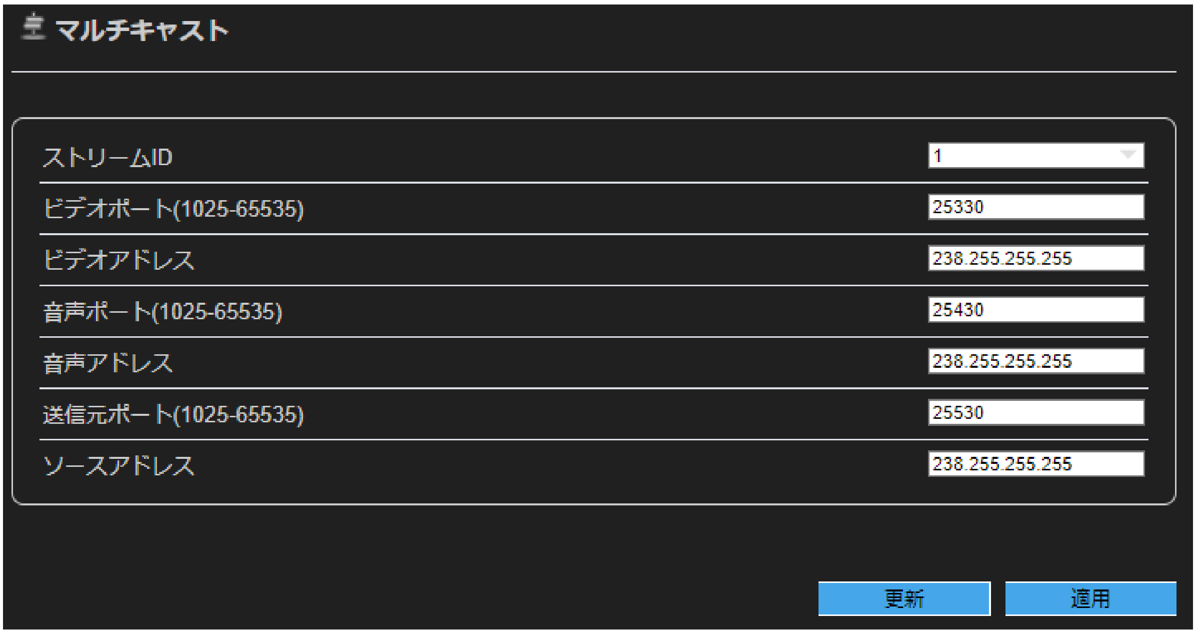



表16-4 パラメータ説明

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| ストリームID | ストリームのID。 | [設定方法]<br>ドロップダウンリストから値を選択します。<br>[初期値]1 |
| ビデオアドレス | マルチキャストデータを受信する IP アドレス。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値]<br>238.255.255.255 |

| パラメータ | 説明 | 設定 |
|---|---|---|
| ビデオポート | ビデオデータを受信するポート。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値]<br>25330 |
| オーディオポート | オーディオデータを受信するポート。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値]<br>25430 |
| 送信元ポート | ソースデータを受信するポート。 | [設定方法]<br>値を手動で入力します。<br>[初期値]<br>25530 |

Step 2 「適用」をクリックします。

パラメータが正常に設定され、再起動後に有効になることを示します。

**----終了**

# 17 デバイスログの検索

## 17.1 操作ログの検索

### 説明

操作ログには、デバイスの実行中に行われたユーザー操作とスケジュールされたタスクコマンドが記録されます。操作ログは、権限管理者、システムメンテナンス、デバイス、録画操作、ビデオ制御、ライブ映像に分類できます。

### 手順

Step 1 [設定]>[デバイスログ]>[操作ログ]を選択します。

図17-1に示すように、操作ログページが表示されます。

図17-1 操作ログページ

Step 2 検索条件を設定します。

1. システムログドロップダウンリストボックスから、検索する操作ログの種類を選択します。

2. それぞれ「開始時刻」と「終了時刻」のテキストボックスをクリックします。

   時間設定コントロールが表示されます。

3. 必要に応じて開始時間と終了時間を設定します。
4. [ユーザー名] ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスに登録されている対応するユーザー名を入力します。

Step 3 検索をクリックします。

指定したユーザーに関連する操作ログが表示されます。

Step 4 操作ログをダウンロードします。

1.開始時刻、終了時刻、ログの種類を設定します。
2.ページの右側にある[ダウンロード]をクリックします。
3.ページの右側にある[ダウンロード]をクリックします。
4.Excelファイルは、ブラウザーのデフォルトのダウンロードパスに保存されます。

----終了

# 17.2 アラームログの検索

## 説明

アラームログには、セキュリティアラーム、ディスクアラーム、録画アラーム、AI分析アラームなど、デバイスで生成されたアラームに関する情報が記録されます。

## 手順

Step 1 [設定]>[デバイスログ]>[アラームログ]を選択します。

図17-2に示すように、アラームログページが表示されます。

図17-2 アラームログページ

Step 2 検索条件を設定します。

1. それぞれ「開始時刻」と「終了時刻」のテキストボックスをクリックします。
   時間設定コントロールが表示されます。
2.必要に応じて開始時刻と終了時刻を設定します。
3.アラームタイプドロップダウンリストボックスから、照会するアラームログのタイプを選択します。

Step 3 検索をクリックします。

指定した種類のアラームログが表示されます。

Step 4 アラームログをダウンロードします。

1.開始時間と終了時間を設定します。
2.ログの種類を選択します。
3.ページの右側にある[ダウンロード]をクリックします。
4.Excelファイルは、ブラウザーのデフォルトのダウンロードパスに保存されます。

**----終了**

# 17.3 すべてのログの収集

## 説明

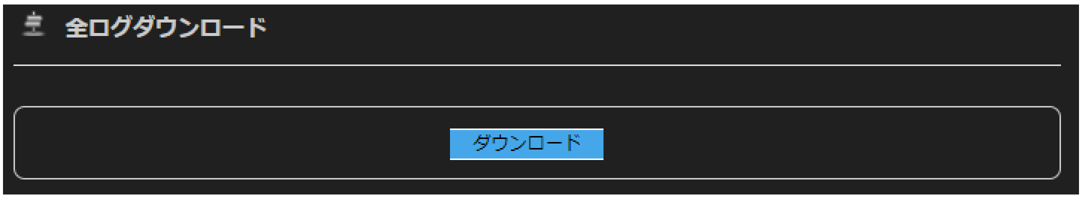
デバイスに関するログを収集して、デバイスで発生する可能性のある問題を分析および解決することができます。ログには、概要情報、主要なパラメータ、操作ログ、アラームログ、アップグレードログ、デバッグログが含まれます。

## 手順

Step 1 [設定]>[デバイスログ]>[すべてのログを収集]を選択します。

図17-3に示すように、「すべてのログを収集」ページが表示されます。

図17-3 ログ収集ページ




Step 2 ワンクリックでログを収集します。

1. 「収集」をクリックすると、ダウンロード ページが表示されます。
2. ログを保存するパスを選択します。

----終了

# 18 デバイスメンテナンス

## 18.1 デバイスの再起動

### 説明

次のような状況でデバイスを再起動します (ただし、これらに限定されません)。

・デバイスパラメータが正しく設定されていないため、デバイスが正常に動作しません。
・ユーザーはデバイスパラメータをリセットして有効にする必要があります。
・デバイスをリモートで再起動する必要があります。

### 手順

Step 1 [設定]>[メンテナンス]を選択します。

カメラのメンテナンスページは図18-1のようになります。

図18-1 カメラの再起動ページ

Step 2 をクリックします。

「再起動しますか？」というメッセージが表示されます。

Step 3 「OK」をクリックします。

5分後、デバイスは正常に再起動されます。

----終了

# 18.2 自動再起動

Step 1 [設定]>[メンテナンス]を選択します。

図18-1に示すように、カメラのメンテナンスページが表示されます。

Step 2 自動再起動を有効にし、ドロップダウンリストから再起動間隔を選択します。

毎日/毎週/毎月の 3 つのオプションがあります。

図18-2 カメラの自動再起動

Step 3 「OK」をクリックしています。

5分後、デバイスは正常に再起動されます。

----終了

# 18.3 ソフトウェアパッケージのアップグレード

## 説明

ソフトウェア パッケージは Web からアップグレードできます。

## 手順

Step 1 [設定]>[メンテナンス]を選択します。

デバイスのメンテナンスページが表示されます。

Step 2 アップグレードファイルを選択するには、 をクリックします。

Step 3 「アップデート」をクリックします。

・「アップグレード成功！デバイスを再起動しています。後でログインしてください！」というメッセージが表示されたら、プログラムが正常に更新され、デバイスが再起動されています。

・その他の情報が表示された場合は、アップグレードパッケージを正しく選択してください。

**CAUTION**

アップグレード中に電源を切らないでください。電源が切れると、カメラが故障する可能性があります。

----終了

# 18.4 工場初期設定

## 説明

次のような状況でデバイスを工場出荷時の設定に復元できます(ただし、これらに限定されません)。

- ・デバイスのパラメータが正しく設定されていないため、デバイスが正常に動作しません。
- ・ユーザーはデバイスのパラメータをリセットする必要があります。
- ・すべてのパラメータを工場出荷時の設定に戻す必要があります。

**CAUTION**

をクリックすると、すべてのパラメータ（IPアドレスを予約するかどうかを選択できます）が工場出荷時の設定に復元されます。この機能は慎重に使用してください。

## 手順

Step 1 メンテナンスを選択します。

デバイスのメンテナンス ページが表示されます。

Step 2 をクリックします。

「復元しますか？」というメッセージが表示されます。

Step 3 [OK]をクリックします。

デバイスは工場出荷時の設定に復元されます。

----終了

# 18.5 エクスポート/インポートの設定

## 説明

ローカルハードドライバーに設定をエクスポートできます。同じモデルのカメラまたは現在のカメラを設定する場合は、設定ファイル（config.bin）を直接インポートします。

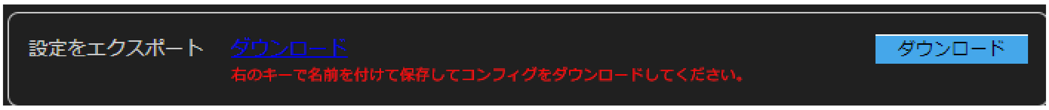
# 手順

Step 1 メンテナンスを選択します。

デバイスのメンテナンスページが表示されます。

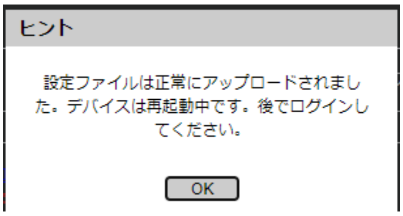
Step 2 「ダウンロード」をクリックして構成ファイルをダウンロードします。

指示に従ってファイルをローカルハードドライブに保存します。




Step 3 インポート設定:ローカルハードドライバー上のファイルを選択し、[アップロード]をクリックしてファイルをアップロードします。

設定ファイルのアップロードが完了するとヒントが表示されます。




Step 4 [OK]をクリックして終了します。

----終了

# 19 ローカル設定

## 説明

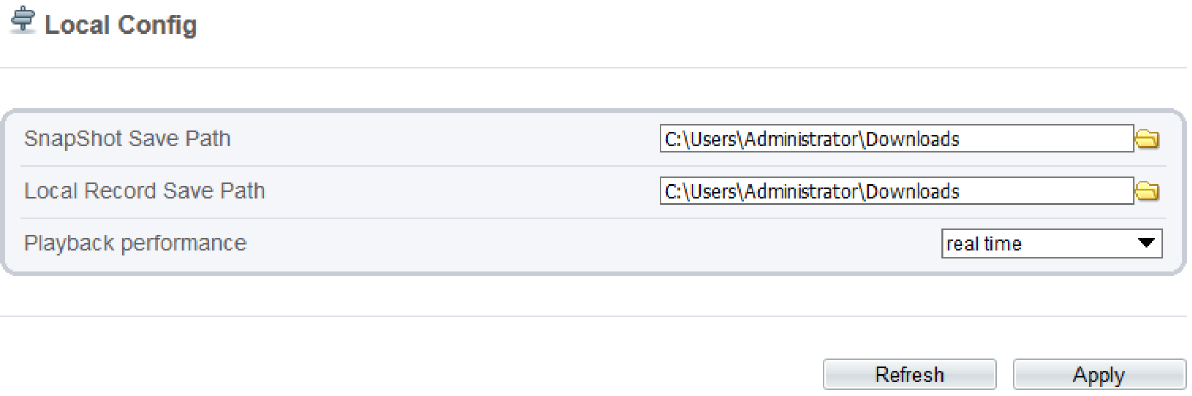
ユーザーが最新のIPCローカルサーバーをダウンロードするときに、スナップショットとレコードをローカルに保存するフォルダーを設定できます。ユーザーがプラグインバージョンを使用しない場合、この機能は無効です。

## 手順

Step 1 [設定]>[ローカル設定]を選択します。

図19-1に示すように、ローカル設定ページが表示されます。

図19-1 ローカル設定ページ




Step 2 スナップショットの保存パスを設定します。

Step 3 ローカルレコードの保存パスを設定します。

Step 4 再生パフォーマンス（リアルタイムまたは流暢）を選択します。

Step 5 「適用」をクリックします。「適用成功！」というメッセージが表示され、設定が保存されます。

**----終了**

# トラブルシューティング

表19-1では、一般的な障害と解決策について説明します。

表19-1 一般的な不具合内容と解決策

| 一般的な不具合内容 | 可能性 | 解決策 |
|---|---|---|
| InternetExplorerのアドレスボックスにデバイスのIPアドレスを入力してEnterキーを押すと、「このWebサイトのセキュリティ証明書には問題があります。」というメッセージが表示されます。 | 証明書がインストールされていません。 | [このWebサイトの閲覧を続行する(推奨しません)]をクリックします。 |
| Web管理システムにアクセスできません。 | ネットワークが切断されています。 | PCをカメラに直接接続し、Web管理システムにアクセスできることを確認します。<br><br>ping コマンドを実行して、カメラに到達可能であることを確認します。 |
| | IP アドレスは別のデバイスによって使用されています。 | PCをカメラに直接接続し、カメラのIPアドレスを設定します。 |
| | PCとIPカメラのIPアドレスは異なるネットワーク上にあります。 | IPカメラのIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイの設定を確認し、必要に応じて設定を変更します。 |
| PTZ またはドームを制御できません。 | プロトコル、ボーレート、またはアドレスが正しくありません。 | Web管理システムのプロトコル、ボーレート、アドレスをPTZまたはドームによって使用されるものに変更します。 |
| | 信号ケーブルが正しく接続されていません。 | 信号強度を確認し、信号ケーブルを正しく接続してください。 |
| IPカメラをアップグレードすると、Web管理システムにアクセスできなくなります。 | ブラウザのキャッシュは削除されません。 | ブラウザのキャッシュを削除するには、次の手順に従います。<br>1.ブラウザを開きます。<br>2.Ctrl+Shift+Deleteキーを押します。<br>[閲覧履歴の削除]ダイアログボックスが表示されます。<br>3.すべてのチェックボックスをオンにします。<br>4.[削除]をクリックします。<br>Web管理システムに再度ログインします。 |
| IP カメラはアップグレードできません。 | ネットワークが切断されています。<br>ネットワーク設定が正しくありません。 | アップグレード ネットワークが接続されていることを確認します。<br>ネットワーク設定を確認します。 |

| 一般的な不具合内容 | 可能性 | 解決策 |
|---|---|---|
| | アップグレード パッケージが正しくありません。 | 正しいアップグレード パッケージを入手し、IP カメラを再度アップグレードします。 |

# 頭字語および略語

**A**

| | |
|---|---|
| ADSL | Asymmetric Digital Subscriber Line |

**C**

| | |
|---|---|
| CBR | Constant Bit Rate |
| CGI | Common Gateway Interface |
| CMS | Central Management System |

**D**

| | |
|---|---|
| DHCP | Dynamic Host Configuration Protocol |
| DNS | Domain Name Server |
| DDNS | Dynamic Domain Name Server |

**E**

| | |
|---|---|
| EAP | Extensible Authentication Protocol |

**F**

| | |
|---|---|
| FTP | File Transfer Protocol |

**G**

| | |
|---|---|
| GAMA | Graphics Assisted Management Application |

**H**

| | |
|---|---|
| HTTP | Hyper Text Transfer Protocol |
| HTTPS | Hypertext Transfer Protocol Secure |

**I**

| | |
|---|---|
| ID | Identity |
| ISO | International Standard Organization |
| IP | Internet Protocol |
| IPC | Internet Protocol Camera |

**L**

| | |
|---|---|
| LPS | Limited Power Source |

**M**

| | |
|---|---|
| MJPEG | Motion Joint Photographic Experts Group |
| MAC | Media Access Control |
| MTU | Media Transmission Unit |

**N**

| | |
|---|---|
| NAS | Network Attached Storage |
| NTP | Network Time Protocol |
| NTSC | National Television Standards Committee |

**O**

| | |
|---|---|
| OSD | On Screen Display |
| **P** | |
| PAL | Phase Alteration Line |
| PoE | Power over Ethernet |
| PPPoE | Point-to-Point Protocol over Ethernet |
| PTZ | Pan/Tilt/Zoom |
| **R** | |
| ROI | Region of Interest |
| RSTP | Rapid Spanning Tree Protocol |
| **S** | |
| SMTP | Simple Mail Transfer Protocol |
| SSL | Secure Sockets Layer |
| **V** | |
| VBR | Variable Bit Rate |